

釜石市

男女共同参画推進プラン

改定に関する市民意識調査

調査結果報告書

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、現在の「かまいし男女共同参画推進プラン 2019」の計画期間が令和5年までとなっており、期間満了を迎えるにあたり、市民の意識の変化や実態・ニーズを把握し、次期プランの基礎資料とするため意識調査を実施した。

2 実施主体

釜石市総務企画部総合政策課男女共同参画室

3 調査項目

- ①回答者自身について
- ②男女の役割分担と男女共同参画の意識について
- ③仕事について
- ④配偶者・パートナー間における暴力について
- ⑤防災について
- ⑥性的マイノリティについて
- ⑦その他

4 調査の設計

- ①調査地域 市内全域
- ②調査対象 市内に居住する満18歳以上80歳未満の男女
- ③標本数 1,200人(釜石市の人口構成を考慮した年代・男女別)

	男 性	女 性
18～29 歳	100 人	70 人
30～39 歳	120 人	60 人
40～49 歳	110 人	100 人
50～59 歳	150 人	80 人
60～69 歳	110 人	90 人
70～79 歳	100 人	110 人
計	690 人	510 人

- ④抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- ⑤調査方法 郵送による調査票配布・郵送による回収
- ⑥調査期間 令和4年12月2日から令和4年12月16日まで

5 回収結果

区分	標本数	回収数	回収率
男性	690	203	29.4%
女性	510	219	42.9%
その他	-	-	-
無回答	-	-	-
総数	1,200	422	35.2%

6 集計結果について

- 集計にあたっては、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、回答の構成率の合計が100%をとらない場合がある。
- 回答の比率が、各設問に対する回答者数を基礎として算出しているため、複数回答を許す設問については、回答の比率が100%を超える場合がある。

7 調査の回答者

問1 性別

区分	人数	構成率
1 男性	203	48.1%
2 女性	219	51.9%
3 その他	-	-
無回答	-	-
総数	422	100.0%

問2 年齢

	男性	女性	総数	構成率
1 29歳以下	7	15	22	5.2%
2 30歳代	21	25	46	10.9%
3 40歳代	26	39	65	15.4%
4 50歳代	44	27	71	16.8%
5 60歳代	53	52	105	24.9%
6 70歳以上	52	61	113	26.8%
無回答	-	-	-	-
合計	203	219	422	100.0

問3 配偶者関係

	男性	女性	総数	構成率
1 未婚	50	37	87	20.6%
2 既婚(事実婚を含む)	144	145	289	68.2%
3 離別(離婚・死別)	8	35	43	10.2%
無回答	1	2	3	0.7%
合計	203	219	422	100.0%

問4 職業

	男性	女性	総数	構成率
1 会社員・団体職員	81	51	132	31.3%
2 公務員	24	9	33	7.8%
3 自営業(農林漁業、商工業)	17	7	24	5.7%
4 パート・アルバイト	16	42	58	13.7%
5 家族従事者	0	12	12	2.8%
6 学生	1	3	4	0.9%
7 無職	57	87	144	34.1%
8 その他	7	4	11	2.6%
無回答	0	4	4	0.9%
合計	203	219	422	100.0%

【その他】

主婦 2 人、嘱託 1 人、写真関係 1 人、建設業 1 人、派遣 1 人、未記入 5 人

問5 世帯構成

	男性	女性	その他	総数
1 単身世帯(ひとり暮らし)	25	22	47	11.1%
2 夫婦(カップル)のみ	62	60	122	28.9%
3 二世帯同居(親と自分)	48	44	92	21.8%
4 二世帯同居(自分と子ども)	45	65	110	26.1%
5 三世帯同居(親と自分と子ども)	11	13	24	5.7%
6 三世帯同居(自分と子どもと孫)	6	7	13	3.1%
7 その他	6	5	11	2.6%
無回答	0	3	3	0.7%
合計	203	219	422	100.0%

【その他】

三世帯同居(祖父母と親と自分)4人、四世代同居3人、きょうだい2人、未記入2人

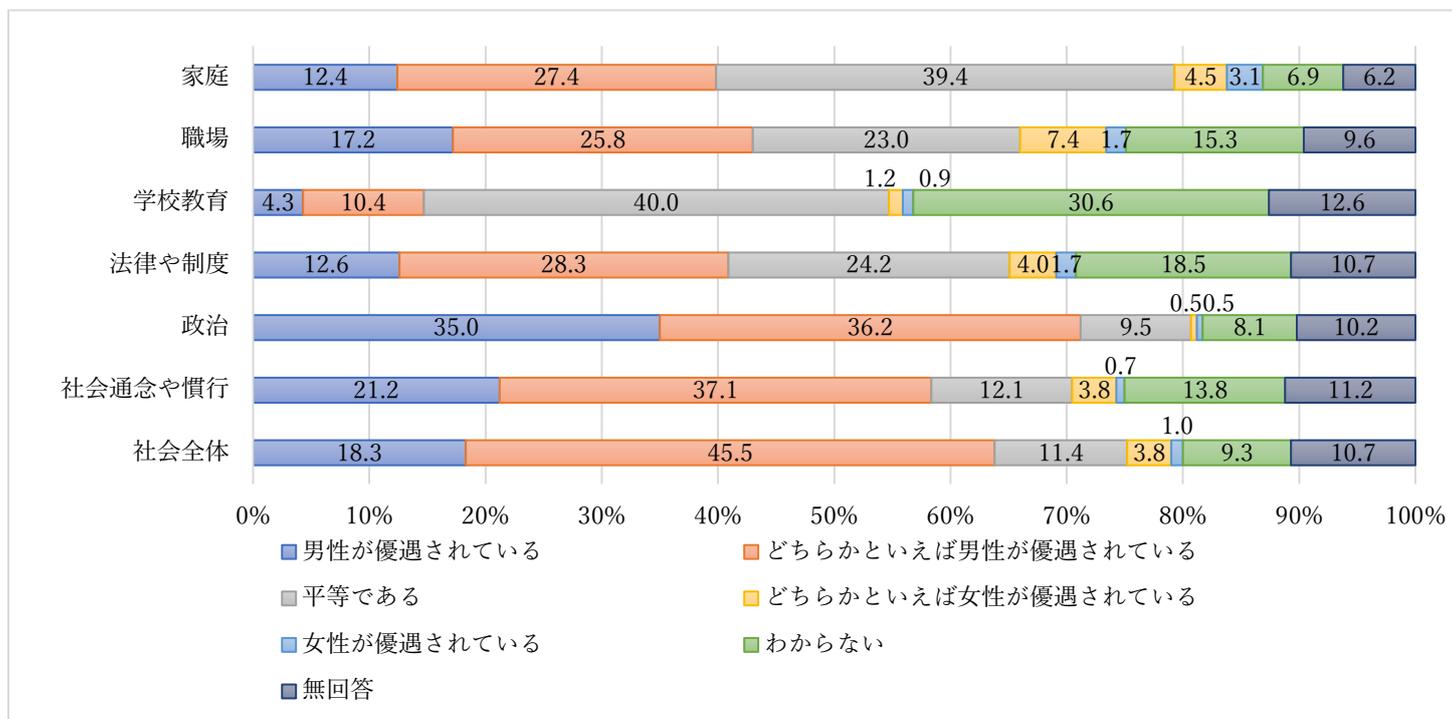
問6 同居の高齢者

	男性	女性	総数	構成率
1 いない	94	106	200	47.4%
2 いる(介護の必要なし)	81	82	163	38.6%
3 いる(介護の必要があり、介護サービスを利用)	23	21	44	10.4%
4 いる(介護の必要があるが、介護サービスは利用していない)	4	7	11	2.6%
無回答	1	3	4	0.9%
合計	203	219	422	

調査の結果

○男女の役割分担と男女共同参画の意識について

問7 次に挙げる分野について、あなたの周りでは男女は平等になっていると思いますか。



男女平等に関しては、「平等である」が最も多いのは、「学校教育」(40.0%)、次いで、「家庭」(39.4%)、「法律や制度」(24.2%)の順となっています。

「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多いのは「政治」(71.2%)、次いで「社会全体」(63.8%)、「社会通念や慣行」(58.3%)の順となっています。

「女性が優遇されている」・「どちらかといえば女性が優遇されている」が最も多いのは、「職場」(9.1%)、次いで「家庭」(7.6%)、「法律や制度」(5.7%)の順で多くなっています。

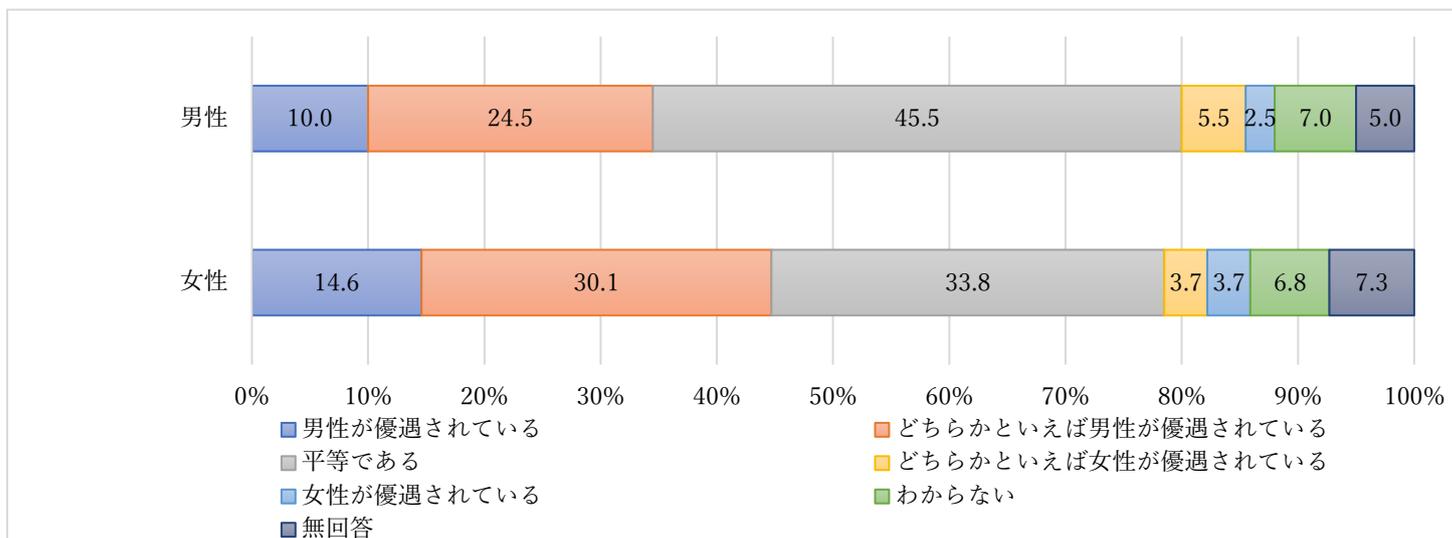
すべての項目で「女性が優遇されている」・「どちらかといえば女性が優遇されている」よりも「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した方が多くなっています。

「学校教育」や「家庭」では男女平等が進んでいますが、「政治」、「社会全体」では、男女平等が進んでいないと感じている方が多くなっていることが分かります。

	男性が優 遇されて いる	どちらか といえば 男性が優 遇されて いる	平等であ る	どちらか といえば 女性が優 遇されて いる	女性が優 遇されて いる	わからな い	無回答	有効数
ア 家庭	52	115	165	19	13	29	26	419
	12.4%	27.4%	39.4%	4.5%	3.1%	6.9%	6.2%	100.0%
イ 職場	72	108	96	31	7	64	40	418
	17.2%	25.8%	23.0%	7.4%	1.7%	15.3%	9.6%	100.0%
ウ 学校教育	18	44	169	5	4	129	53	422
	4.3%	10.4%	40.0%	1.2%	0.9%	30.6%	12.6%	100.0%
エ 法律や制度	53	119	102	17	7	78	45	421
	12.6%	28.3%	24.2%	4.0%	1.7%	18.5%	10.7%	100.0%
オ 政治	147	152	40	2	2	34	43	420
	35.0%	36.2%	9.5%	0.5%	0.5%	8.1%	10.2%	100.0%
カ 社会通 念や慣行	89	156	51	16	3	58	47	420
	21.2%	37.1%	12.1%	3.8%	0.7%	13.8%	11.2%	100.0%
キ 社会全体	77	191	48	16	4	39	45	420
	18.3%	45.5%	11.4%	3.8%	1.0%	9.3%	10.7%	100.0%

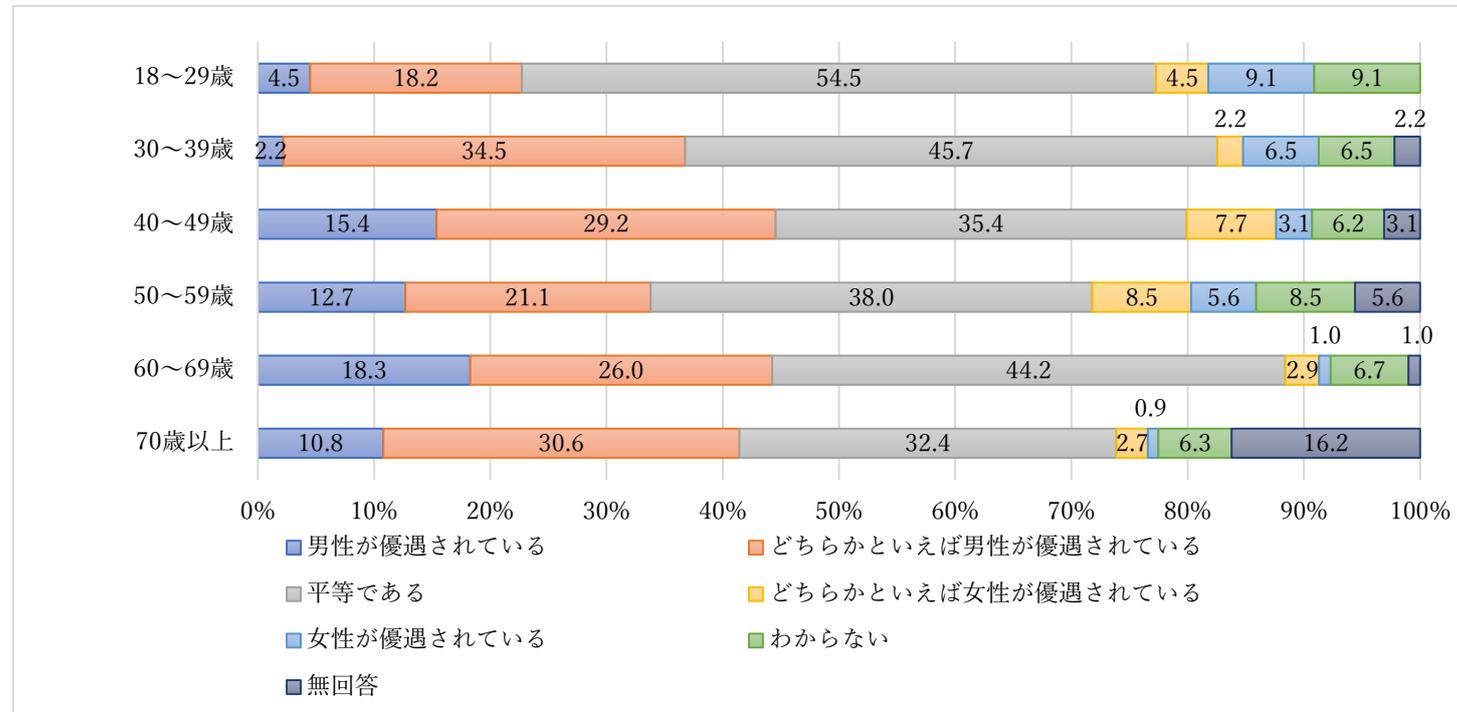
ア 家庭

①性別



性別でみると「平等である」と回答した方は、“男性”が45.5%、“女性”は33.8%であり、“男性”の方が“女性”より11.7%高い結果となっています。

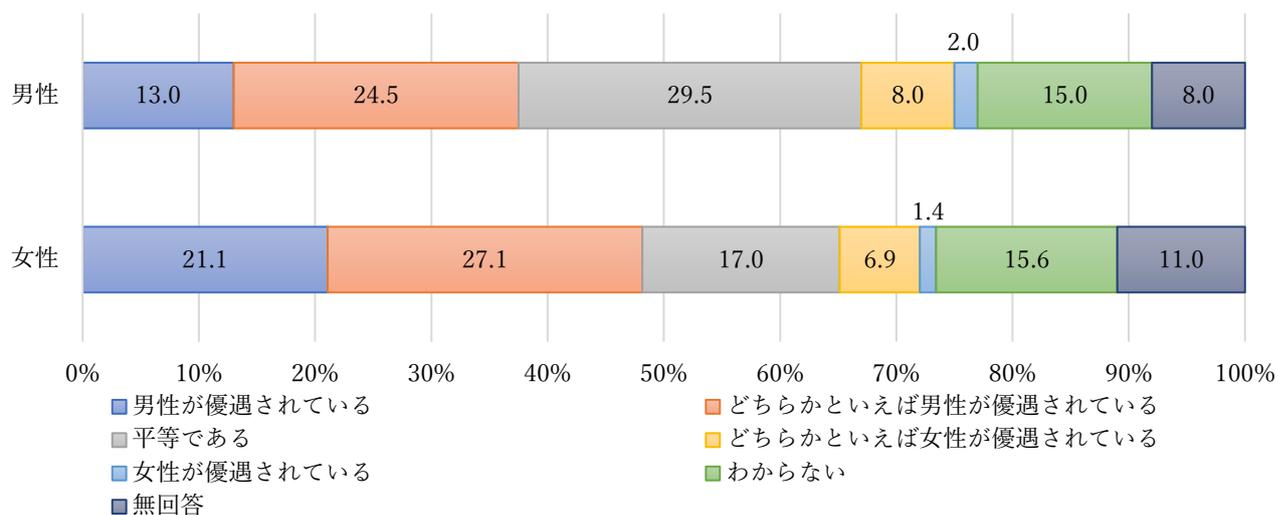
②年齢



年齢でみると「平等である」と回答した方は、“18～29歳”が最も高く54.5%、“70歳以上”が最も低く32.4%となっています。

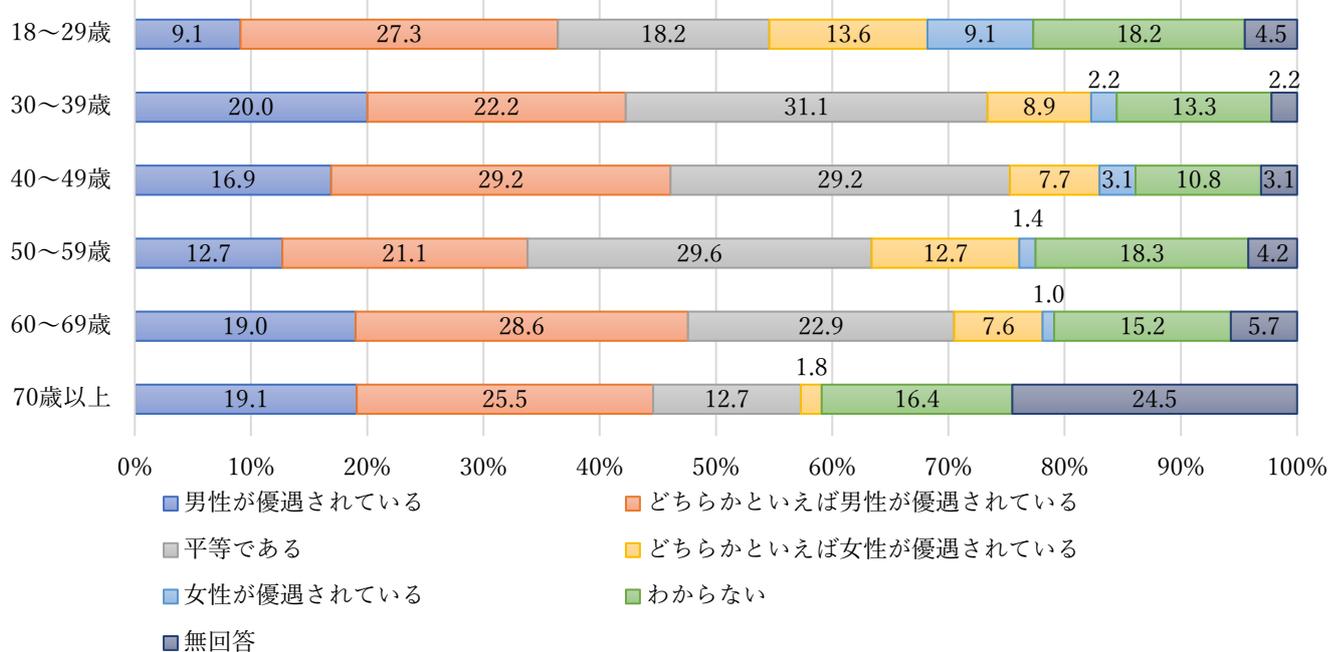
イ 職場

①性別



性別で見ると「平等である」と回答した方は、「男性」が29.5%、「女性」は17.0%であり、「男性」の方が「女性」より12.5%高い結果となっています。

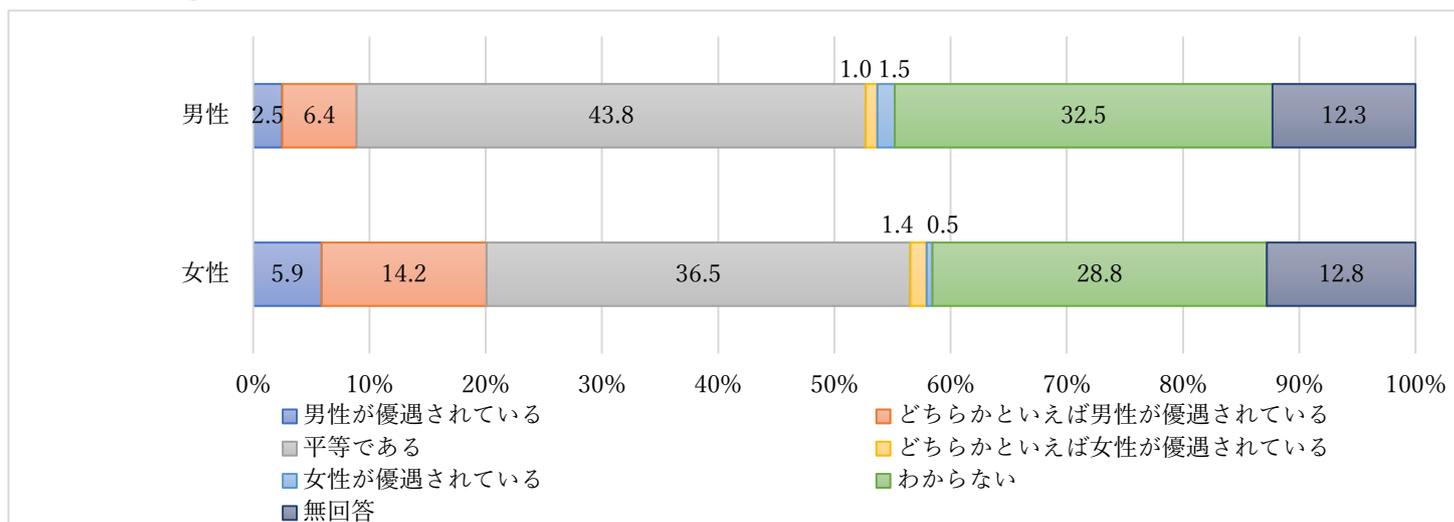
②年齢



年齢で見ると「平等である」と回答した方は、「30～39歳」が最も高く31.1%、「70歳以上」が最も低く12.7%となっています。

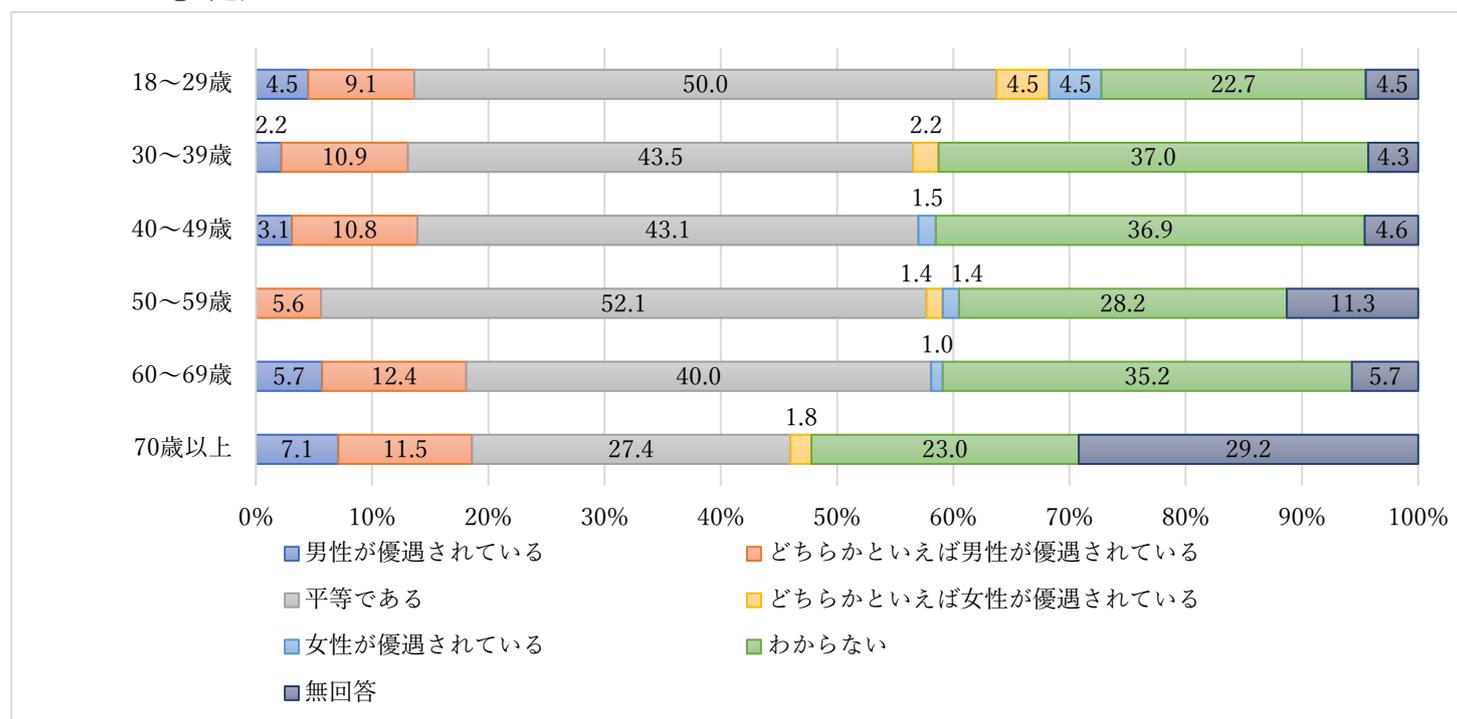
ウ 学校教育

①性別



性別で見ると「平等である」と回答した方は、“男性”が43.8%、“女性”は36.5%であり、“男性”の方が“女性”より7.3%高い結果となっています。

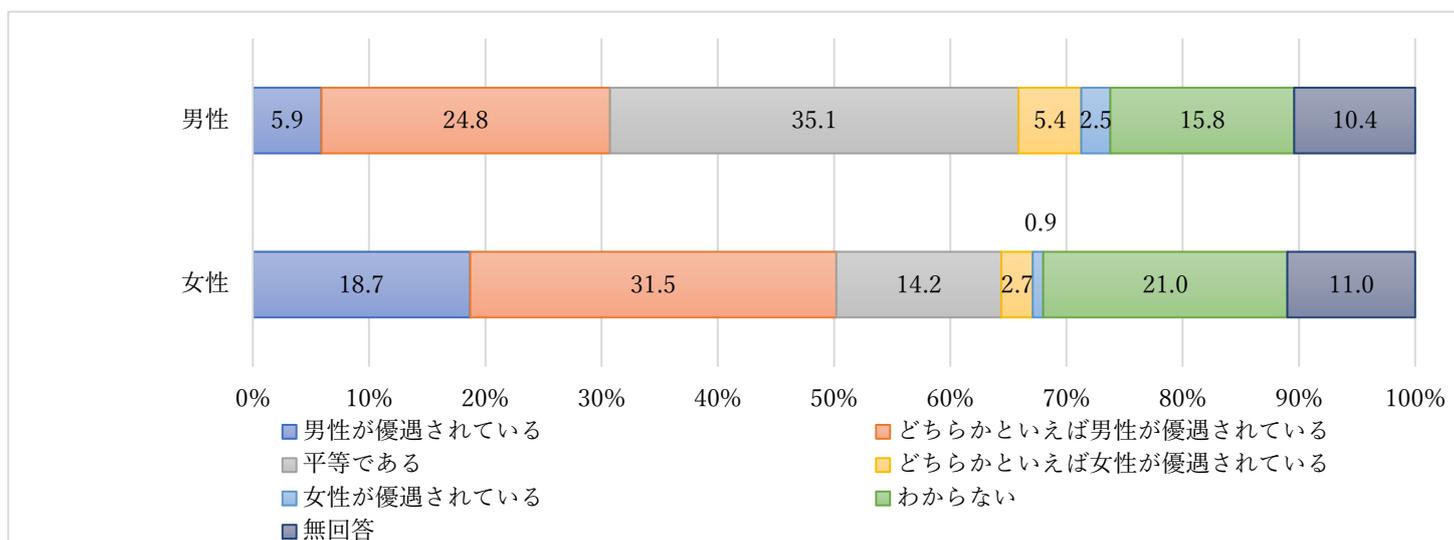
②年齢



年齢で見ると「平等である」と回答した方は、“50～59歳”が最も高く52.1%、“70歳以上”が最も低く27.4%となっています。

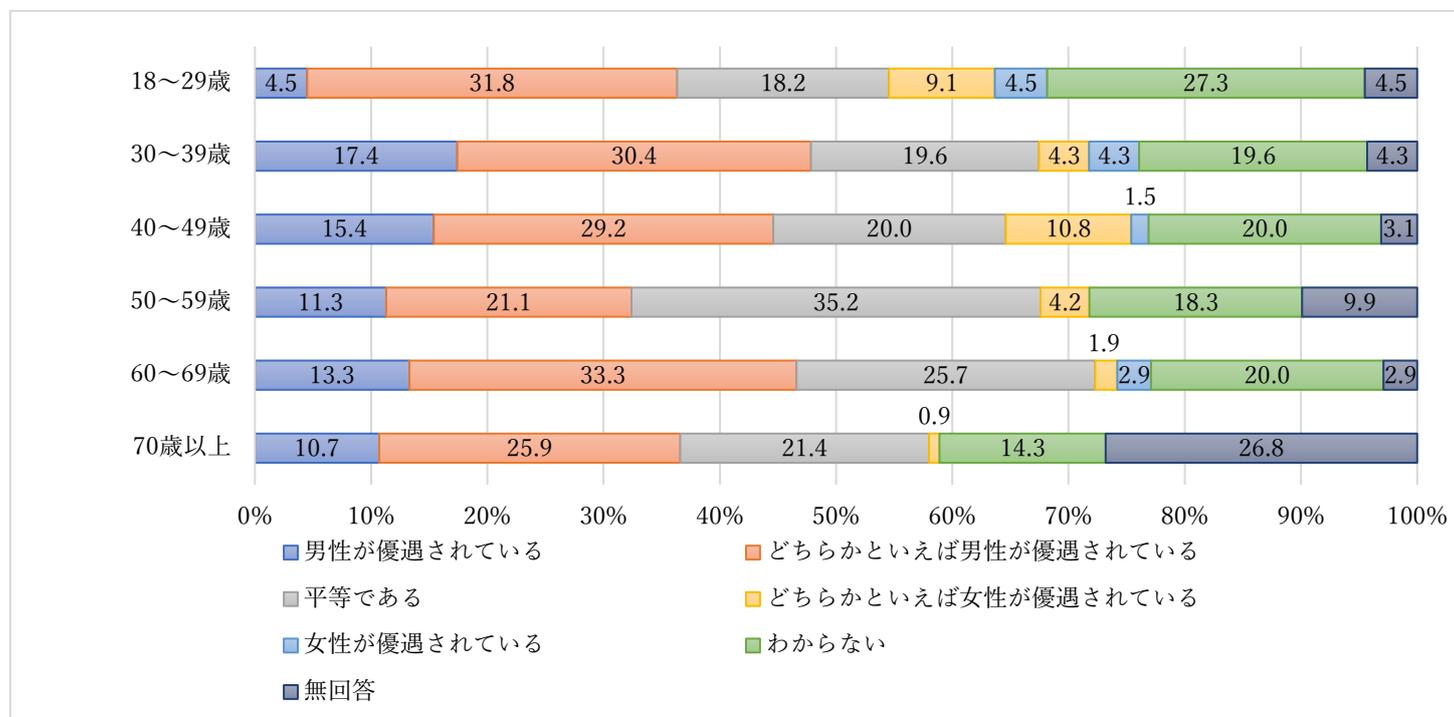
工 法律や制度

① 性別



性別でみると「平等である」と回答した方は、「男性」が 35.1%、「女性」は 14.2%であり、「男性」の方が「女性」より 20.9%高い結果となっています。

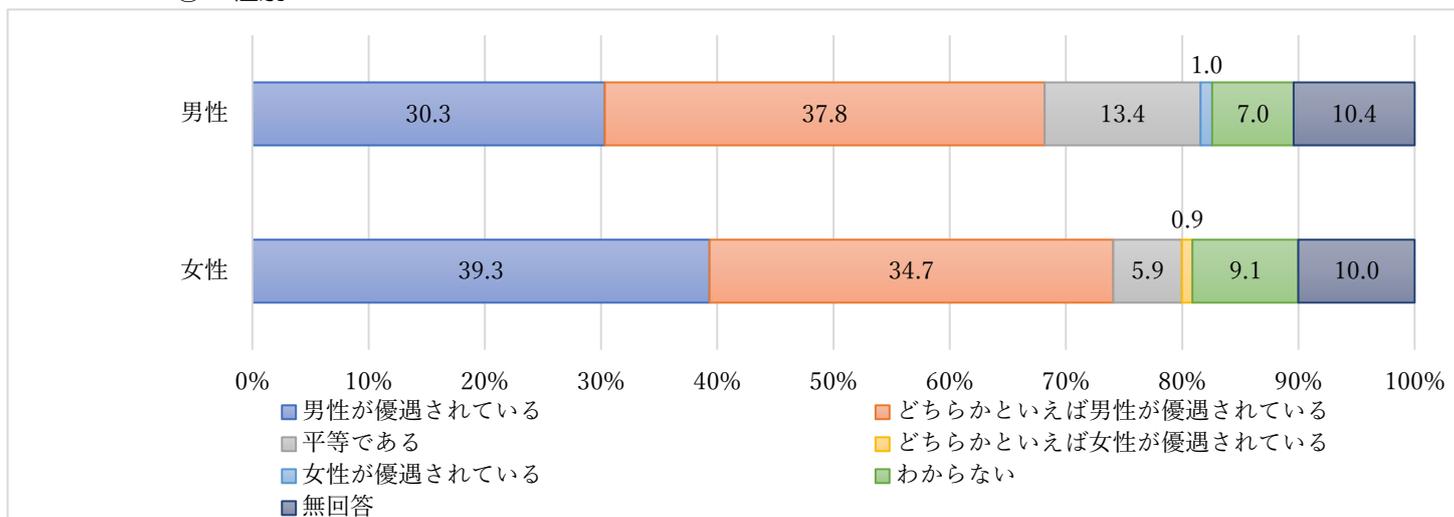
②年齢



年齢でみると「平等である」と回答した方は、「50～59歳」が最も高く 35.2%、「18～29歳」が最も低く 18.2%となっています。

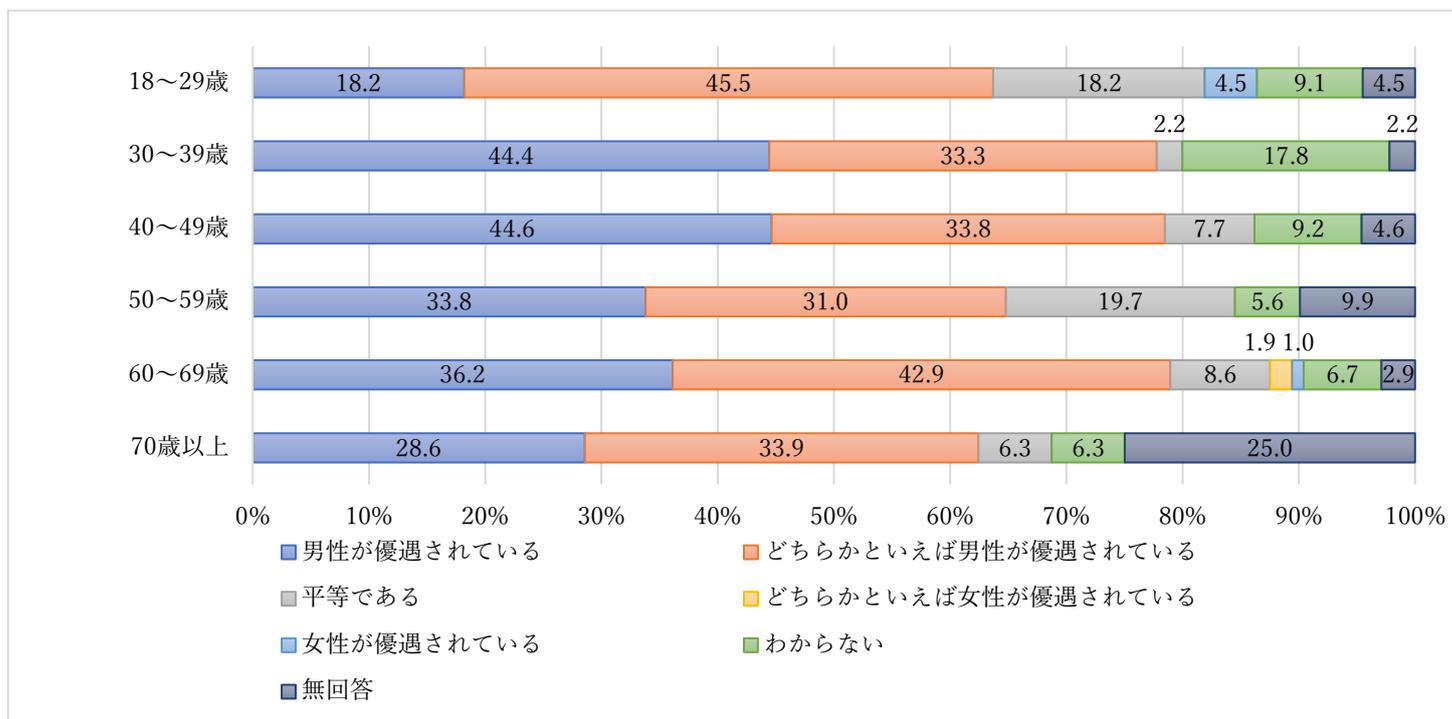
才 政治

① 性別



性別で見ると「平等である」と回答した方は、“男性”が13.4%、“女性”は5.9%であり“男性”の方が“女性”より7.5%高い結果となっています。

② 年齢

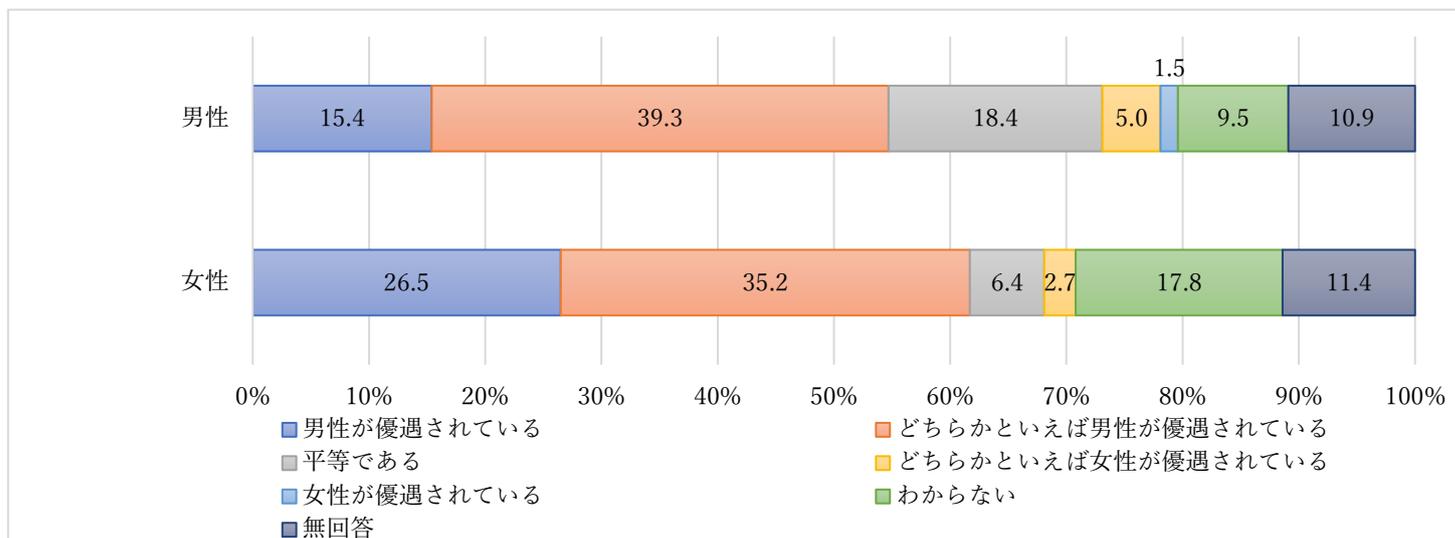


年齢で見ると「平等である」と回答した方は、“50～59歳”が最も高く19.7%、“30～39歳”が最も低く2.2%となっています。

すべての年代で5割以上の方が「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答しています。

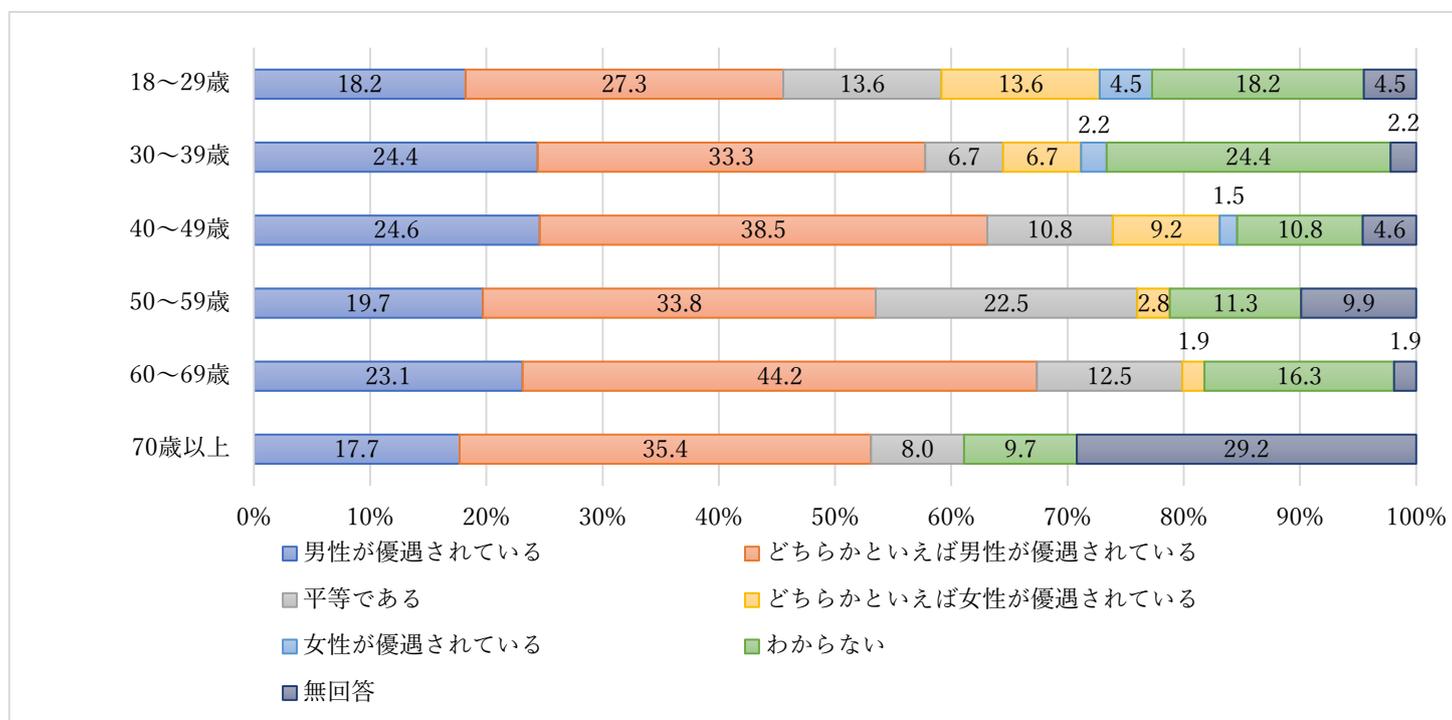
カ 社会通念や慣行

① 性別



性別で見ると「平等である」と回答した方は、「男性」が18.4%、「女性」は6.4%であり、「男性」の方が「女性」より12.0%高い結果となっています。

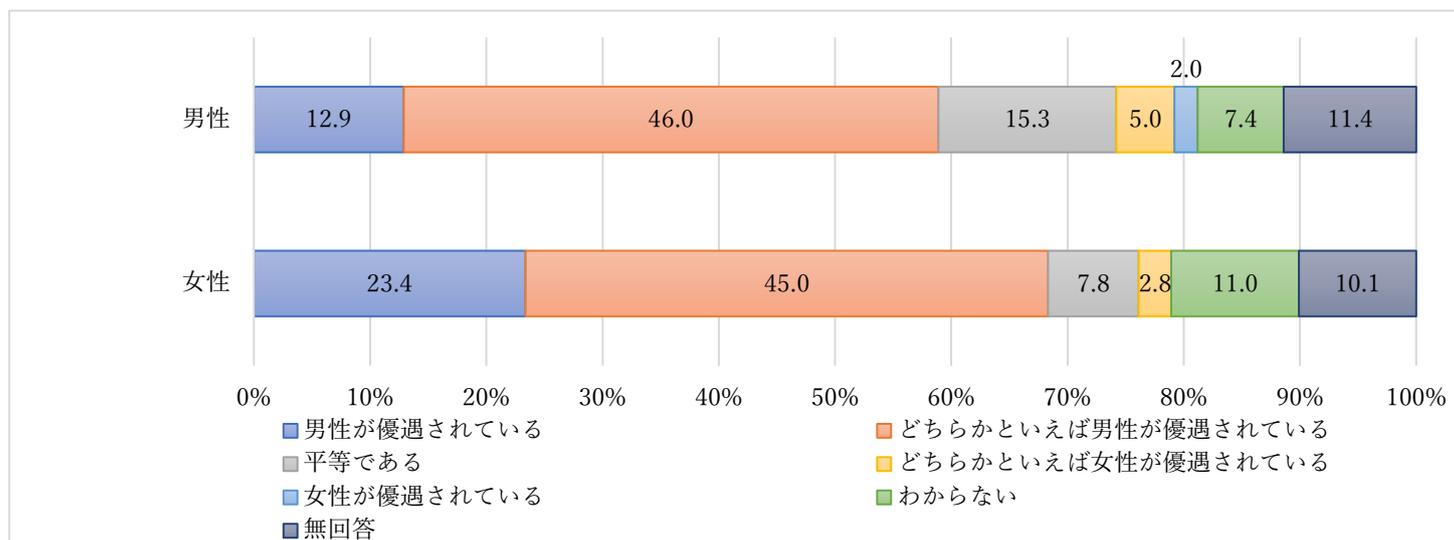
②年齢



年齢で見ると「平等である」と回答した方は、「50～59歳」が最も高く22.5%、「30～39歳」が最も低く6.7%となっています。

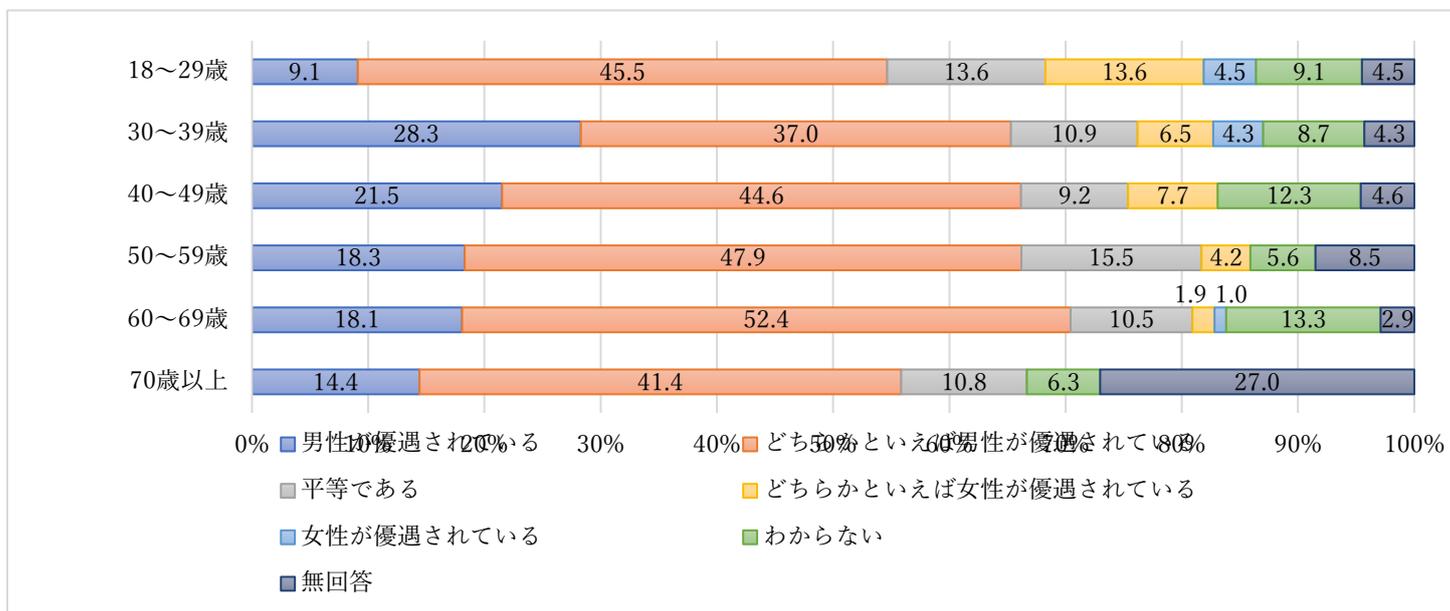
キ 社会全体

① 性別



性別で見ると「平等である」と回答した方は、「男性」が15.3%、「女性」は7.8%であり、「男性」が「女性」より7.5%高い結果となっています。

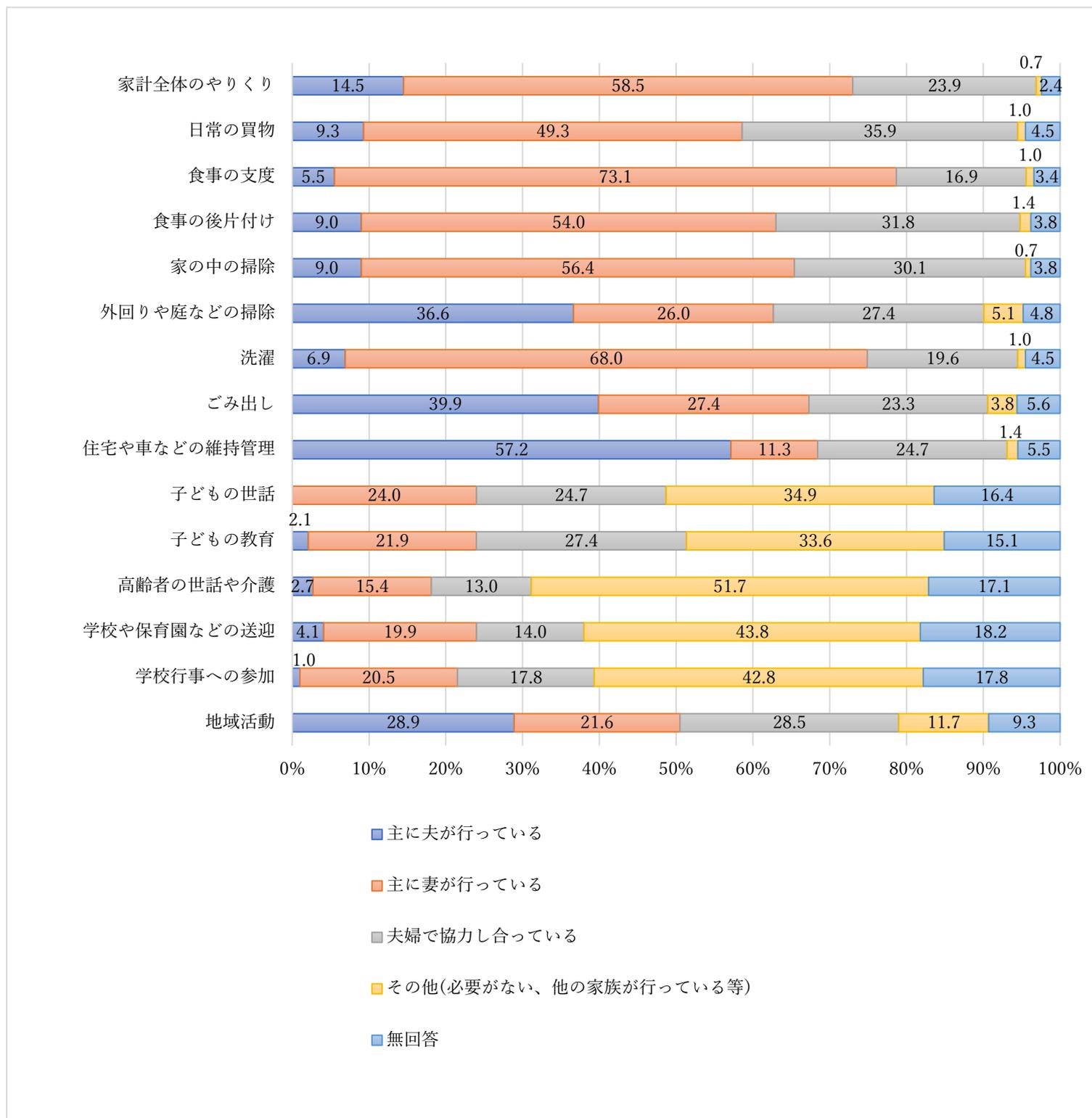
② 年齢



年齢で見ると「平等である」と回答した方は、「50~59歳」が最も高く15.5%、「40~49歳」が最も低く9.2%となっています。

すべての年代で5割以上の方が「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答しています。

問8 あなたの家庭で次の項目の家事などを主に誰が行っていますか。(問3で「2. 既婚(事実婚を含む)」と回答した方のみ)



家庭での家事などの役割について、「主に夫が行っている」が最も多いのは、“住宅や車などの維持管理” (57.2%)、次いで“ごみ出し” (39.9%)、“外回りの庭などの掃除” (36.6%)の順となっています。

「主に妻が行っている」が最も多いのは、“食事の支度” (73.1%)、次いで“洗濯” (68.0%)、“家計全体のやりくり” (58.5%)の順で多くなっています。

「夫婦で協力し合っている」が最も多いのは、“日常の買い物” (35.9%)次いで、“食事の後片付け” (31.8%)、“家の中の掃除” (30.1%)の順となっています。

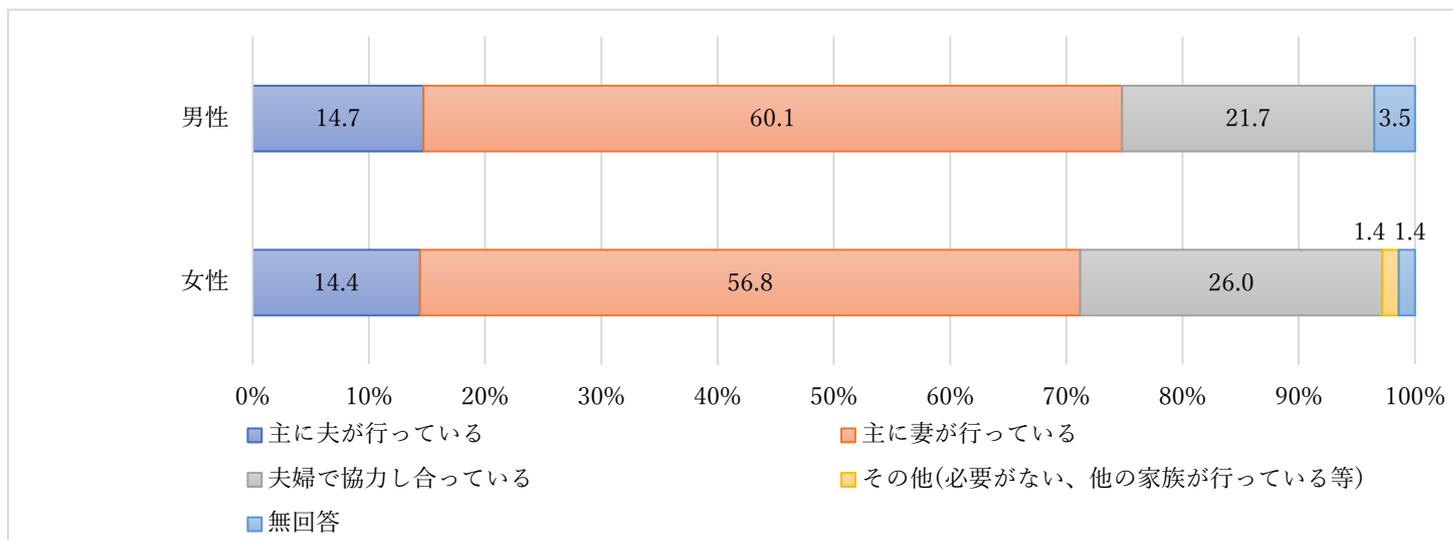
今回の調査では、家庭での家事などについて 15 項目を調査しましたが、15 項目中“外回りや庭などの掃除”、“ごみ出し”、“住宅や車などの維持管理”、“地域活動”を除く 11 項目で「主に夫が行っている」よりも「主に妻が行っている」と回答した方の割合が多くなっています。

	主に夫が行っている	主に妻が行っている	夫婦で協力し合っている	その他(必要がない、他の家族が行っている等)	無回答	有効数
ア 家計全体のやりくり	42	169	69	2	7	289
	14.5%	58.5%	23.9%	0.7%	2.4%	
イ 日常の買い物	27	143	104	3	13	290
	9.3%	49.3%	35.9%	1.0%	4.5%	
ウ 食事の支度	16	212	49	3	10	290
	5.5%	73.1%	16.9%	1.0%	3.4%	
エ 食事の後片付け	26	156	92	4	11	289
	9.0%	54.0%	31.8%	1.4%	3.8%	
オ 家の中の掃除	26	163	87	2	11	289
	9.0%	56.4%	30.1%	0.7%	3.8%	
カ 外回りや庭などの掃除	107	76	80	15	14	292
	36.6%	26.0%	27.4%	5.1%	4.8%	

	主に夫が行っている	主に妻が行っている	夫婦で協力し合っている	その他(必要がない、他の家族が行っている等)	無回答	有効数
キ 洗濯	20	198	57	3	13	291
	6.9%	68.0%	19.6%	1.0%	4.5%	
ク ごみ出し	115	79	67	11	16	288
	39.9%	27.4%	23.3%	3.8%	5.6%	
ケ 住宅や車などの維持管理	167	33	72	4	16	292
	57.2%	11.3%	24.7%	1.4%	5.5%	
コ 子どもの世話	0	70	72	102	48	292
	0%	24.0%	24.7%	34.9%	16.4%	
サ 子どもの教育	6	64	80	98	44	292
	2.1%	21.9%	27.4%	33.6%	15.1%	
シ 高齢者の世話や介護	8	45	38	151	50	292
	2.7%	15.4%	13.0%	51.7%	17.1%	
ス 学校や保育園などの送迎	12	58	41	128	53	292
	4.1%	19.9%	14.0%	43.8%	18.2%	
セ 学校行事への参加	3	60	52	125	52	292
	1.0%	20.5%	17.8%	42.8%	17.8%	
ソ 地域活動	84	63	83	34	27	291
	28.9%	21.6%	28.5%	11.7%	9.3%	

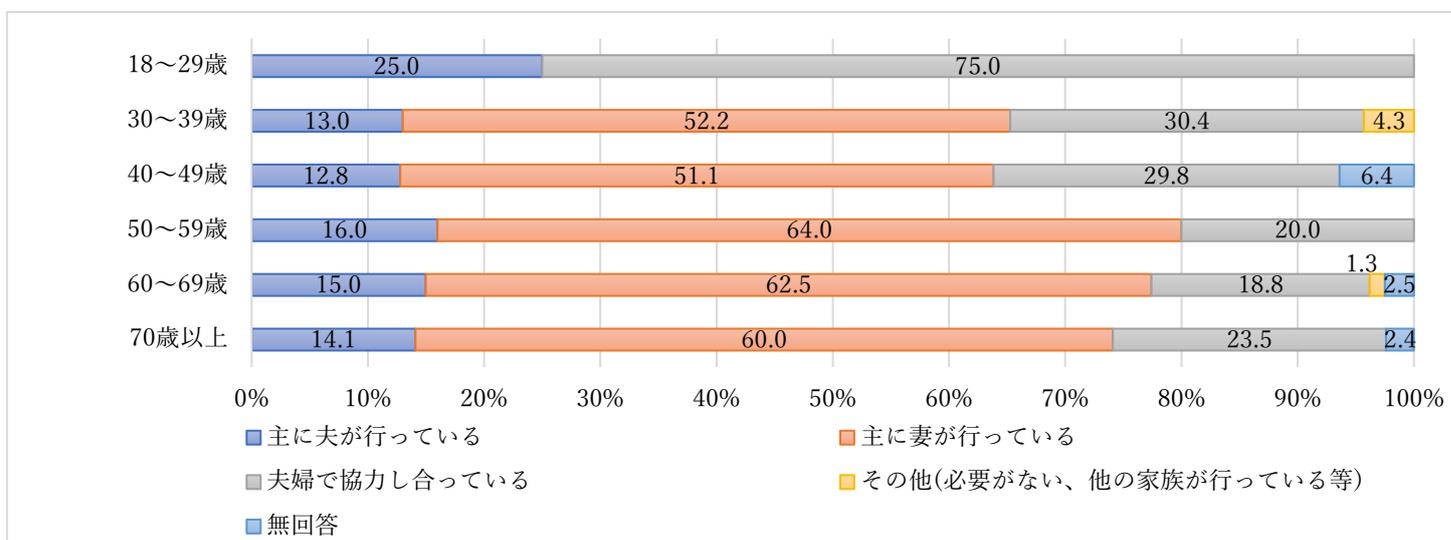
ア 家計全体のやりくり

① 性別



男女ともに「主に妻が行っている」と回答した方が最も多くおよそ6割を占めています。

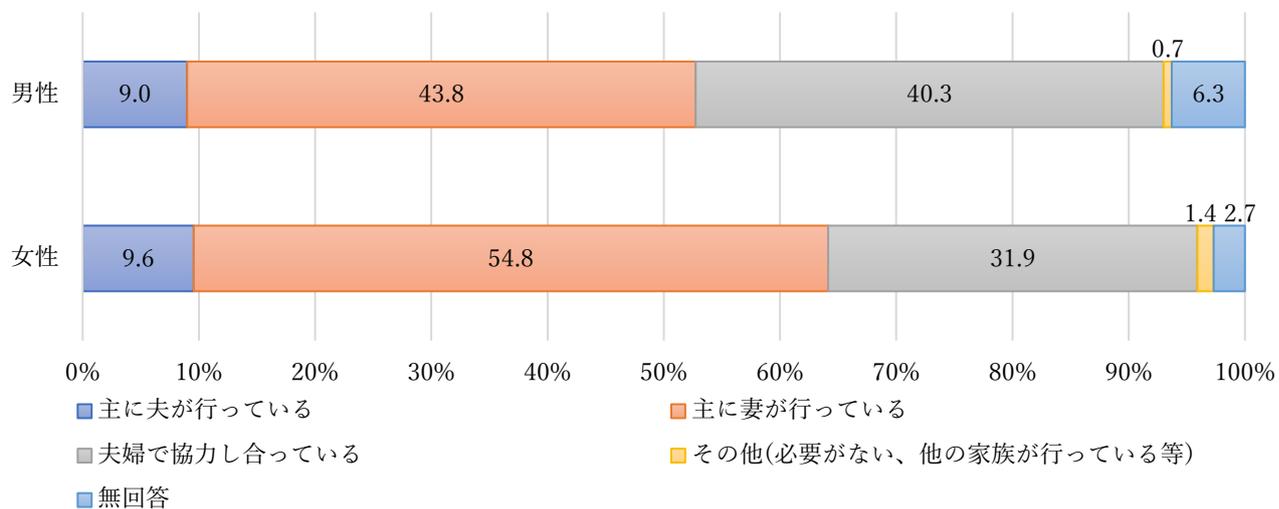
② 年齢



“18～29歳”では、75.0%が「夫婦で協力し合っている」と回答したのに対し、30歳以上のすべての年代で5割以上が「主に妻が行っている」と回答しています。

イ 日常の買い物

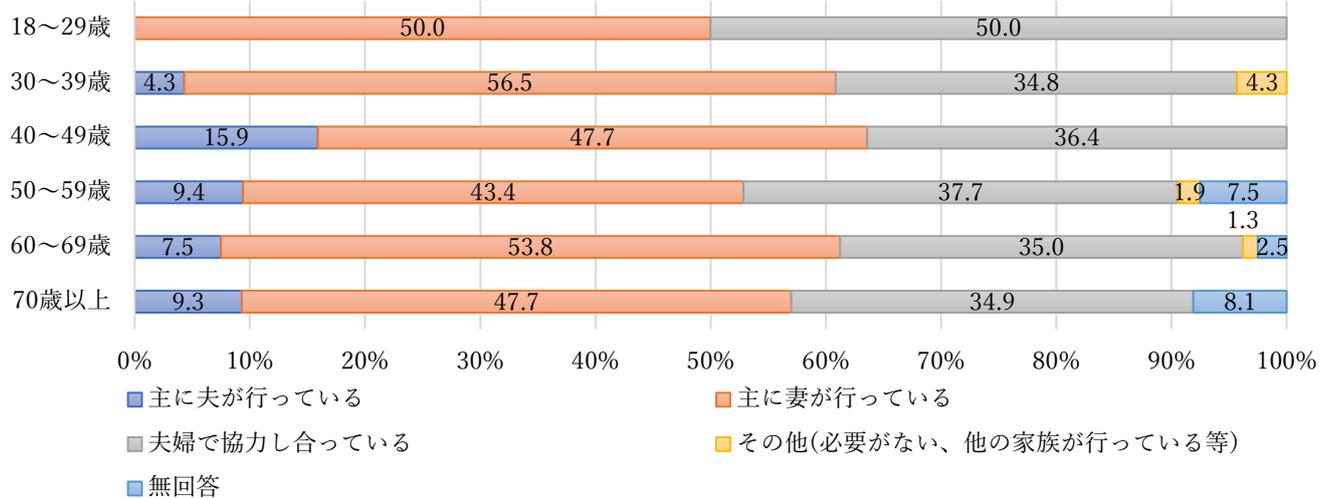
① 性別



男女ともに最も多かった回答は、「主に妻が行っている」となりました。

「主に妻が行っている」と回答した方の割合は、“女性”の方が、“男性”より11.0%高く男女間の認識に差があることがわかります。

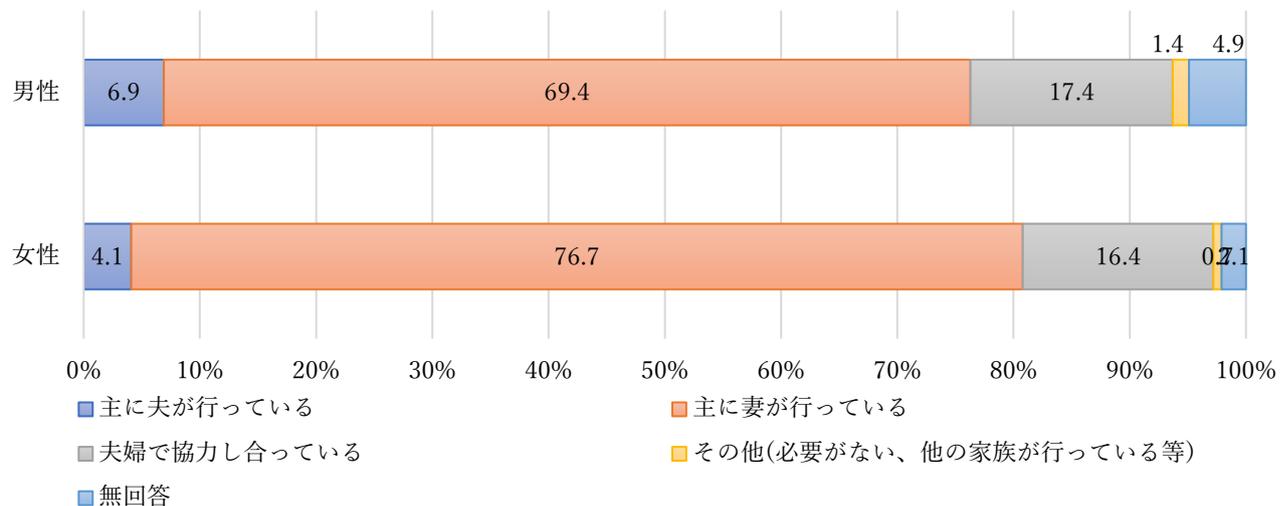
② 年齢



“18~29歳”では、「主に妻が行っている」と「夫婦で協力し合っている」と回答した方が半数ずつでしたが、30歳以上の年代では、すべての年代で「主に妻が行っている」と回答した方が最も多くなっています。

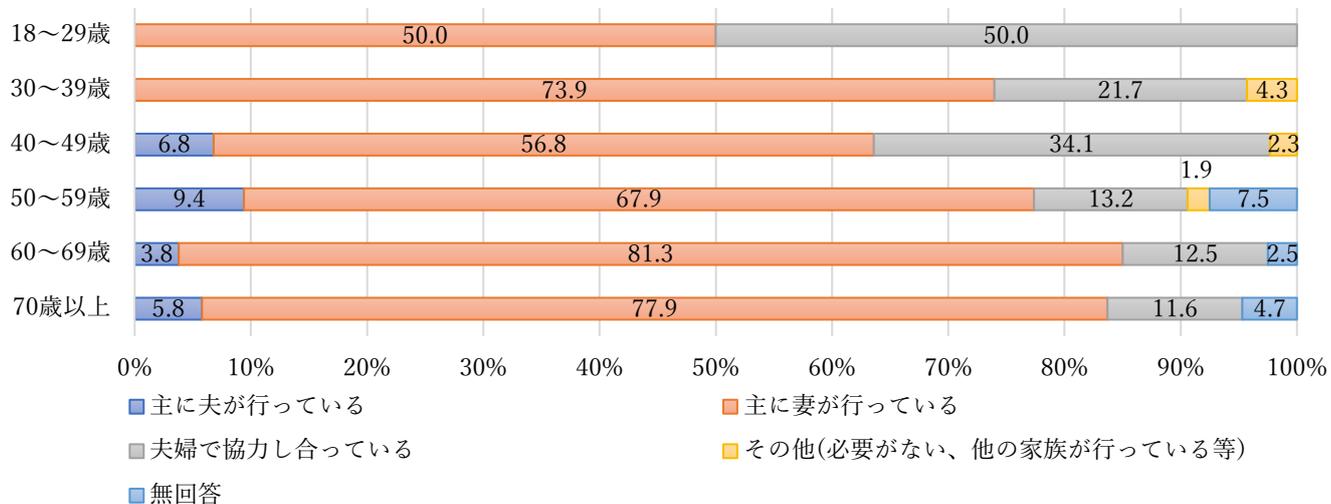
ウ 食事の支度

① 性別



男女ともに「主に妻が行っている」と回答した方が最も多くおよそ7割を占めています。

② 年齢

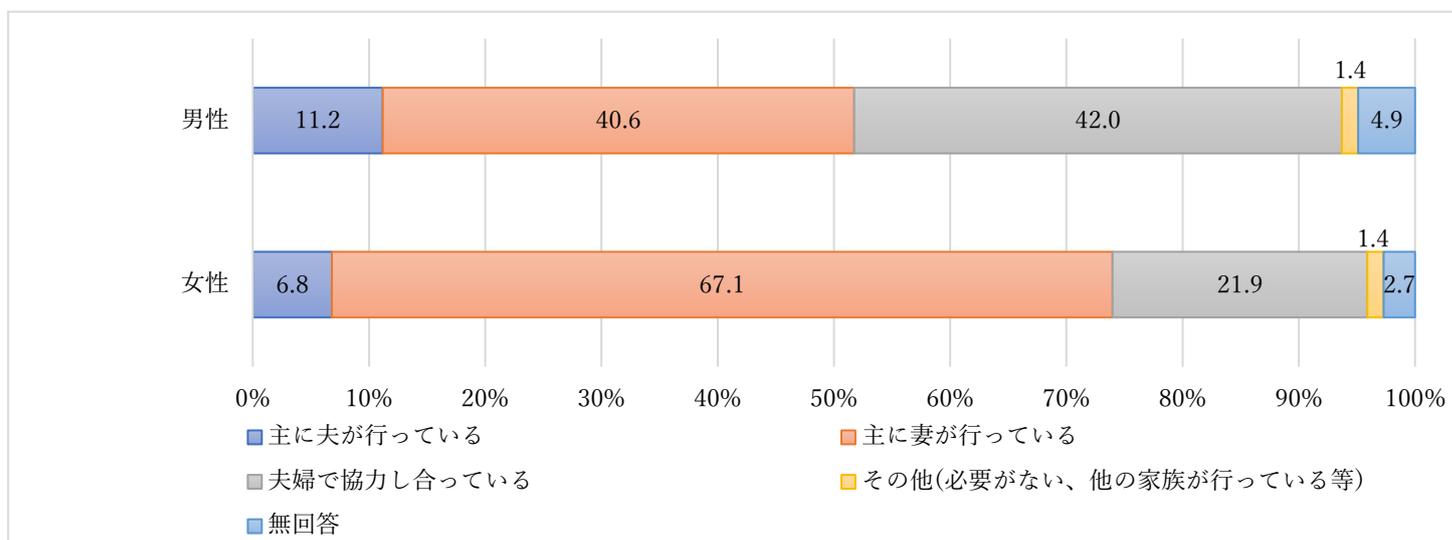


すべての年代において5割以上の方が「主に妻が行っている」と回答しています。

「夫婦で協力し合っている」と回答した方は、“18～29歳”では50.0%でしたが、50歳以上では、すべての年代で15%を下回る結果となりました。

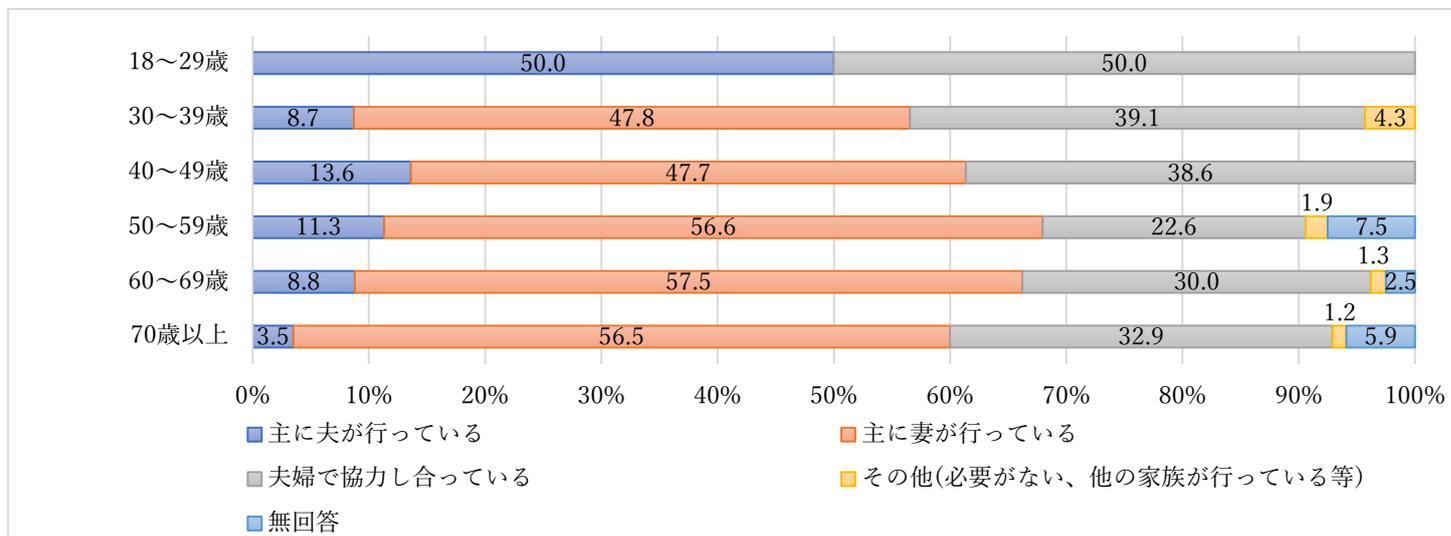
工 食事の後片付け

① 性別



最も多かった回答は、“男性”では、「夫婦で協力し合っている」、「女性”では、「主に妻が行っている」となり、男女間の認識に差があることがわかります。

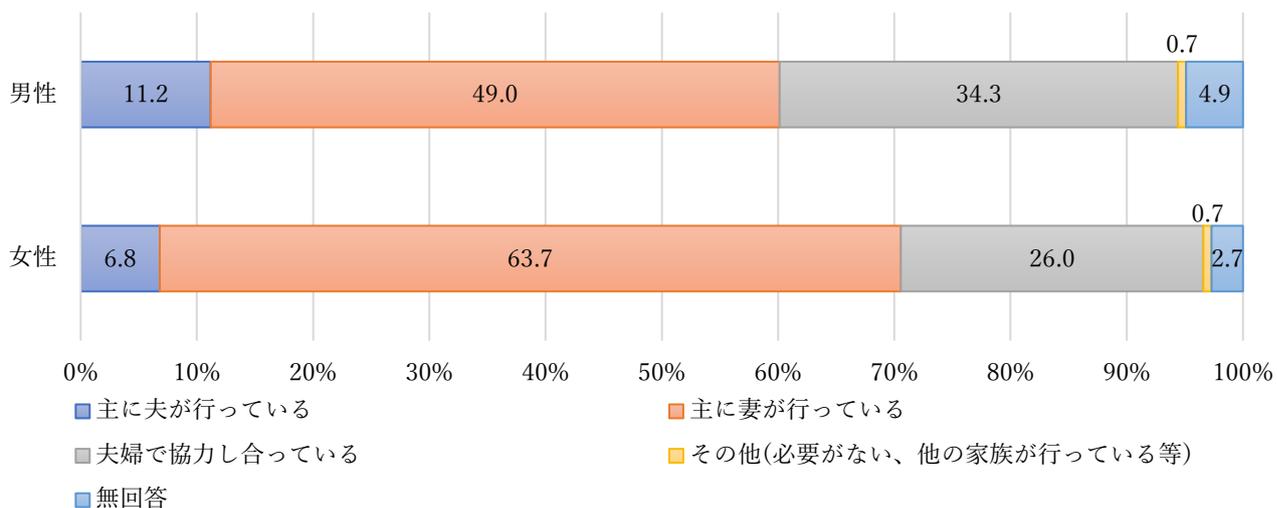
② 年齢



“18～29歳”では、「主に夫が行っている」と「夫婦で協力し合っている」が半数ずつとなりましたが、30歳以上では、すべての年代で、「主に妻が行っている」と回答した方が最も多くなっています。

才 家の中の掃除

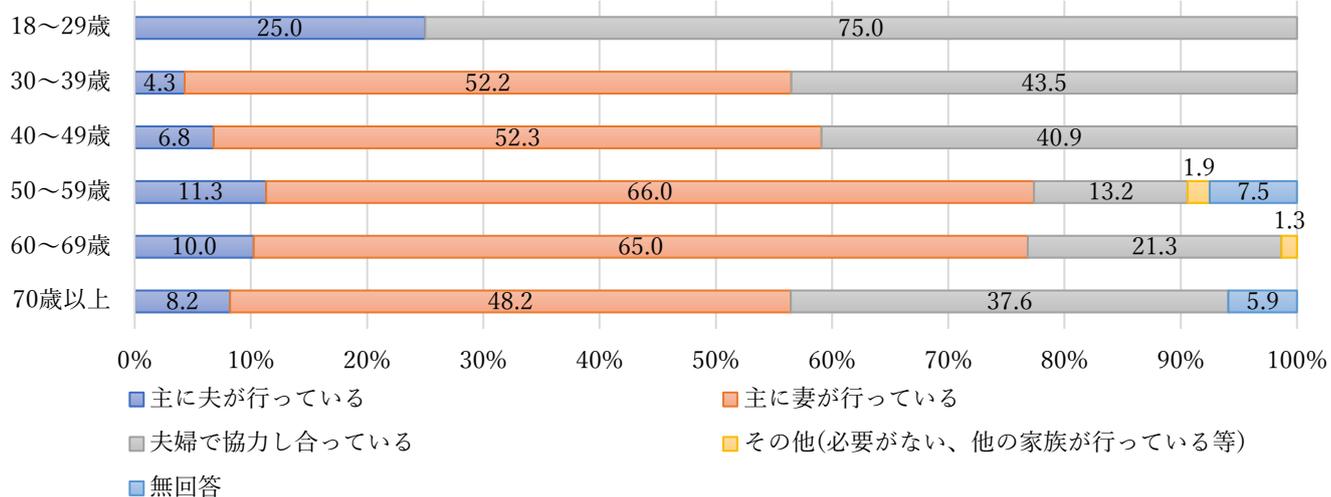
① 性別



男女ともに最も多かった回答は、「主に妻が行っている」となりました。

「主に妻が行っている」と回答した方の割合は、“女性”の方が、“男性”より14.7%高く男女間の認識に差があることがわかります。

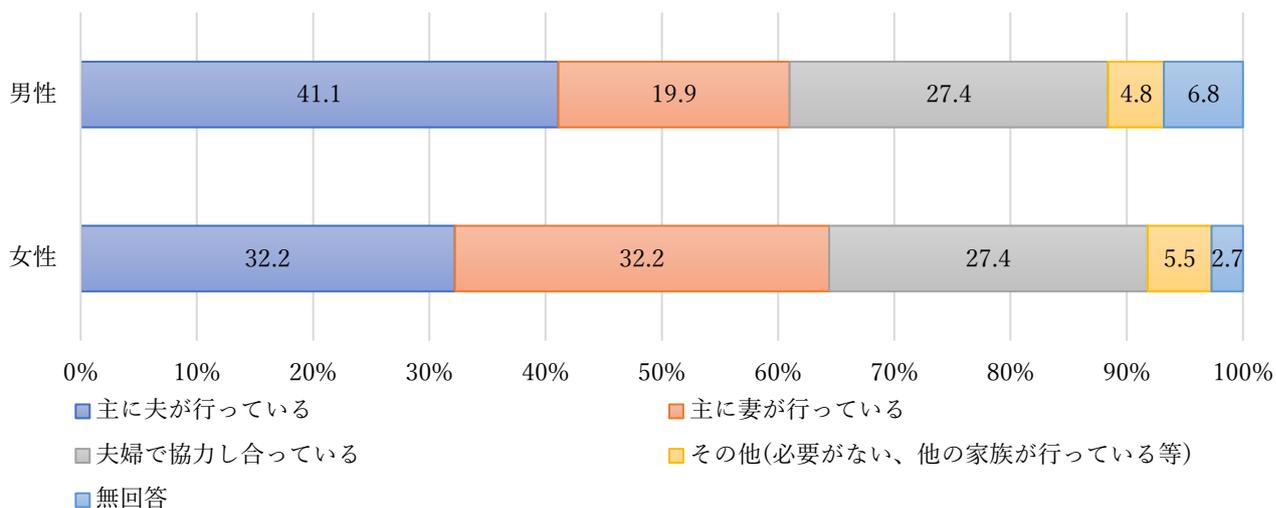
② 年齢



“18～29歳”では、「夫婦で協力し合っている」と回答した方が75.0%を占め、最も高くなりましたが、30歳以上では、すべての年代で「主に妻が行っている」が最も多い回答となっています。

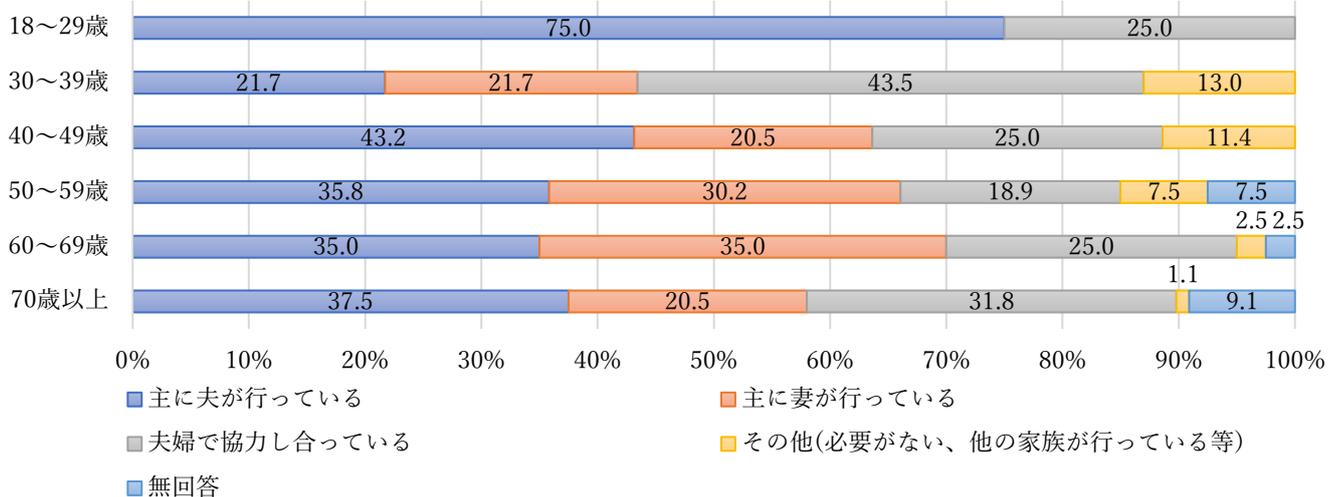
カ 外回りや庭などの掃除

① 性別



最も多かった回答は、“男性”では、「主に夫が行っている」となりました。女性では、「主に夫が行っている」と「主に妻が行っている」と回答した方は、同数となり、男女間の認識に差があることがわかります。

② 年齢

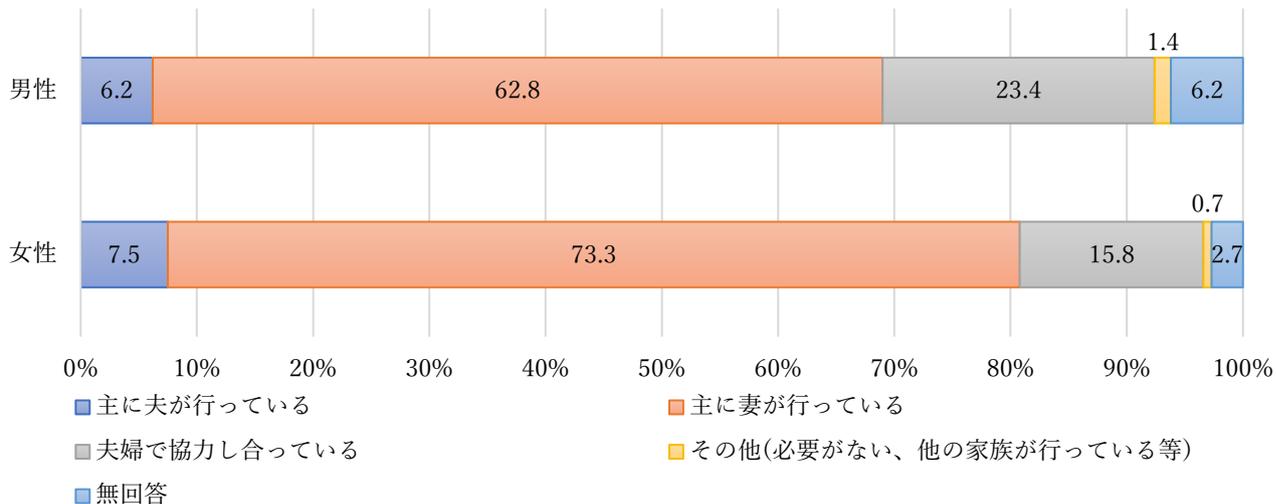


“30～39歳”、“60～69歳”を除くすべての年代で「主に夫が行っている」と回答した方が最も多くなっています。

“30～39歳”では、「夫婦で協力し合っている」と回答した方が最も多く、“60～69歳”では、「主に夫が行っている」と「主に妻が行っている」と回答した方が同数で最も多くなっています。

キ 洗濯

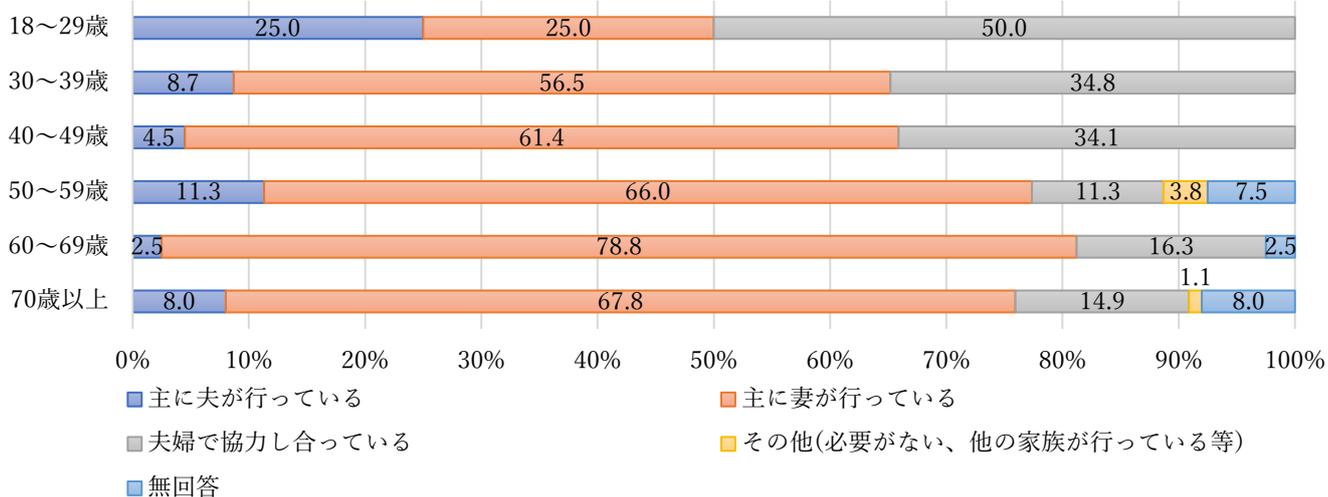
① 性別



男女ともに最も多かった回答は、「主に妻が行っている」となりました。

「主に妻が行っている」と回答した方の割合は、“女性”の方が、“男性”より10.5%高く、男女間の認識に差があることがわかります。

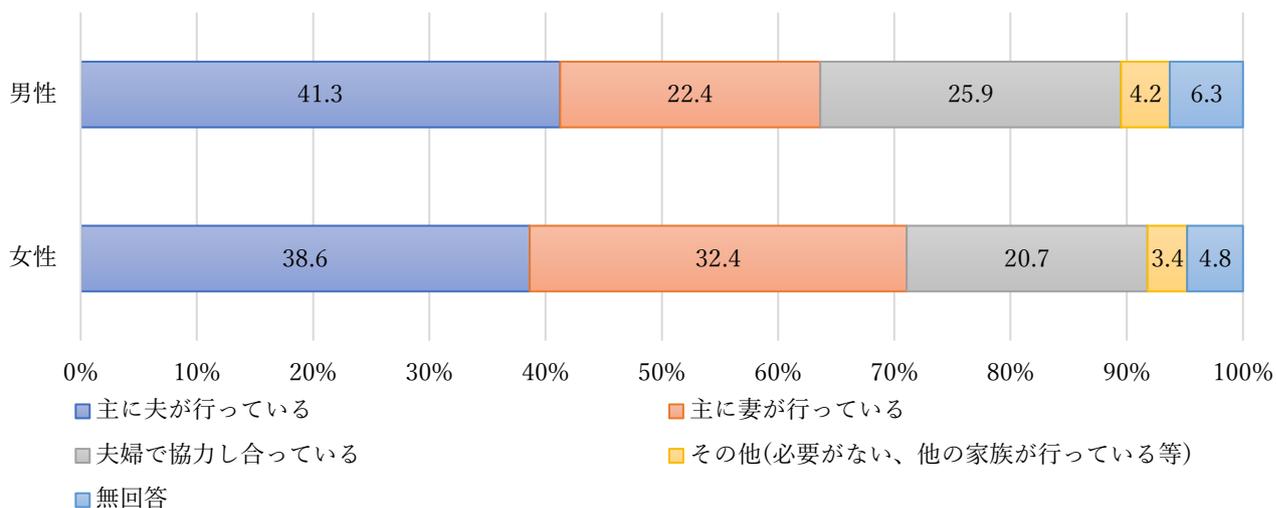
② 年齢



“18～29歳”では、「夫婦で協力し合っている」と回答した方が半数を占め、最も多くなりましたが、30歳以上では、すべての年代で「主に妻が行っている」と回答した方が半数以上を占め、最も多くなっています。

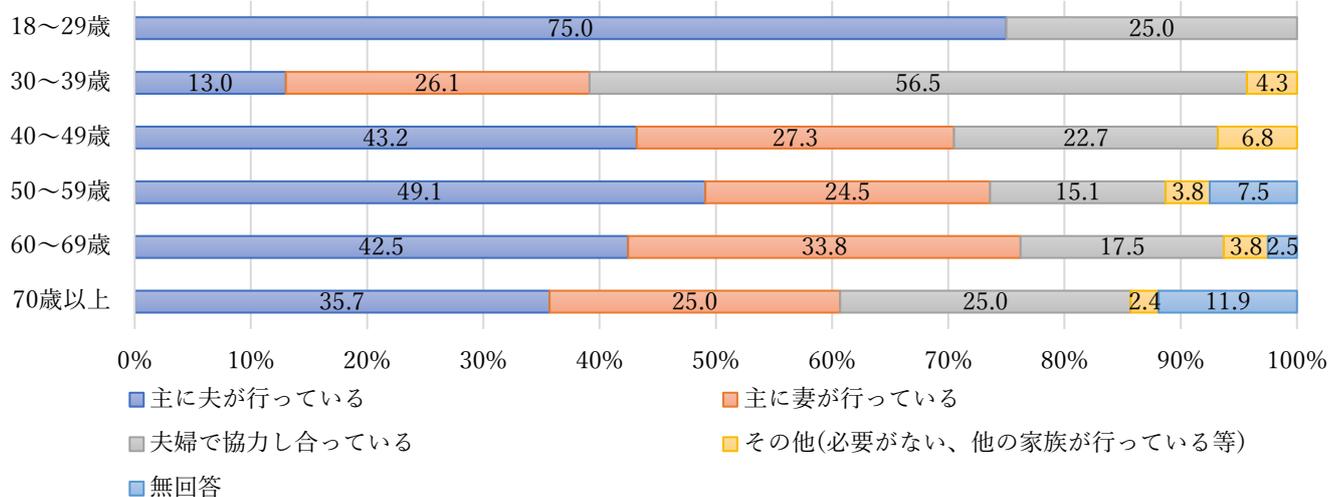
ク ごみ出し

① 性別



男女ともに「主に夫が行っている」と回答した方が最も多く、およそ4割を占めています。

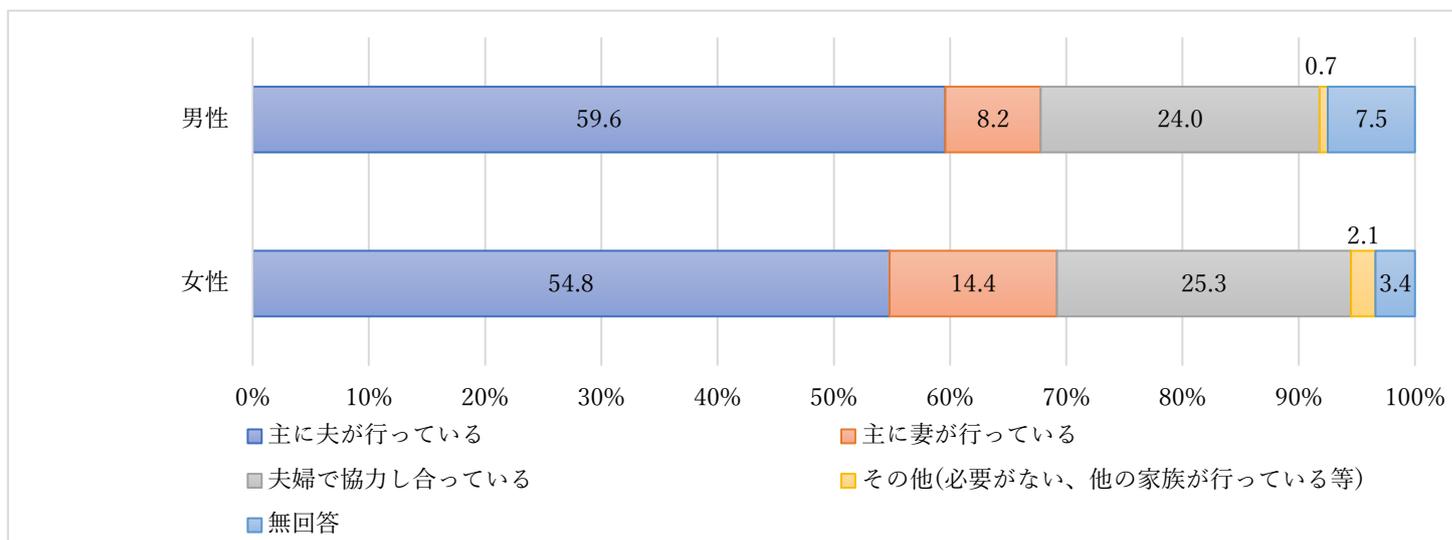
② 年齢



“30～39歳”では、「夫婦で協力し合っている」と回答した方が56.5%を占め、最も多くなりましたが、その他のすべての年代では、「主に夫が行っている」と回答した方が最も多くなっています。

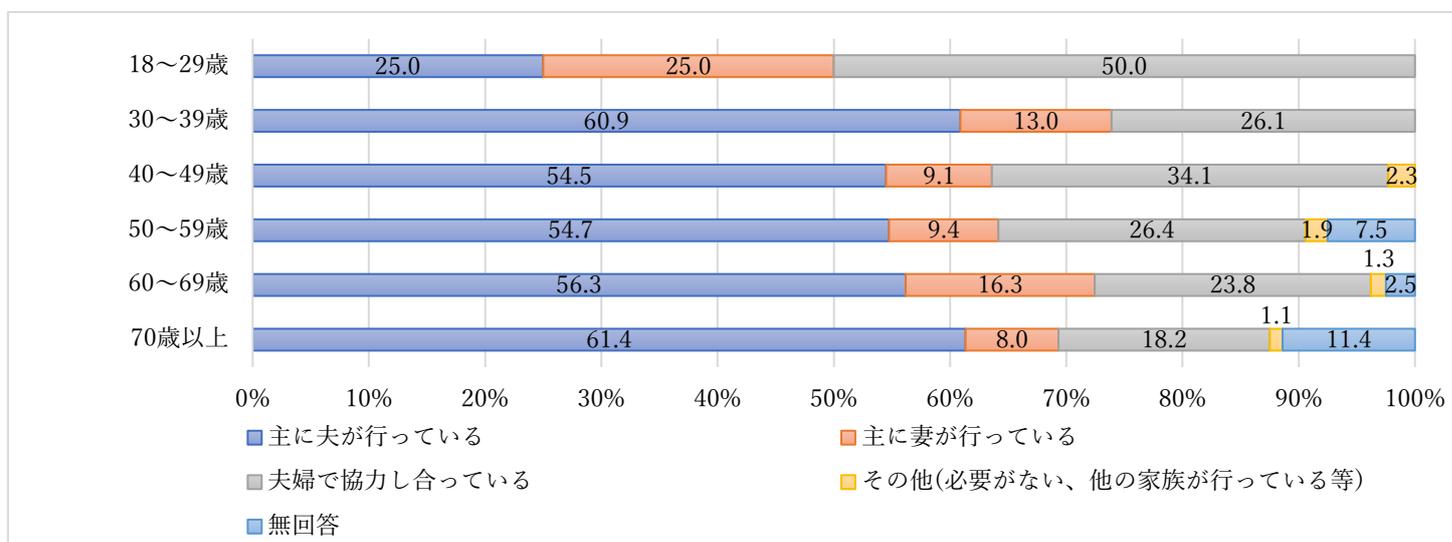
ケ 住宅や車などの維持管理

① 性別



男女ともに「主に夫が行っている」と回答した方が最も多く、半数以上を占めています。

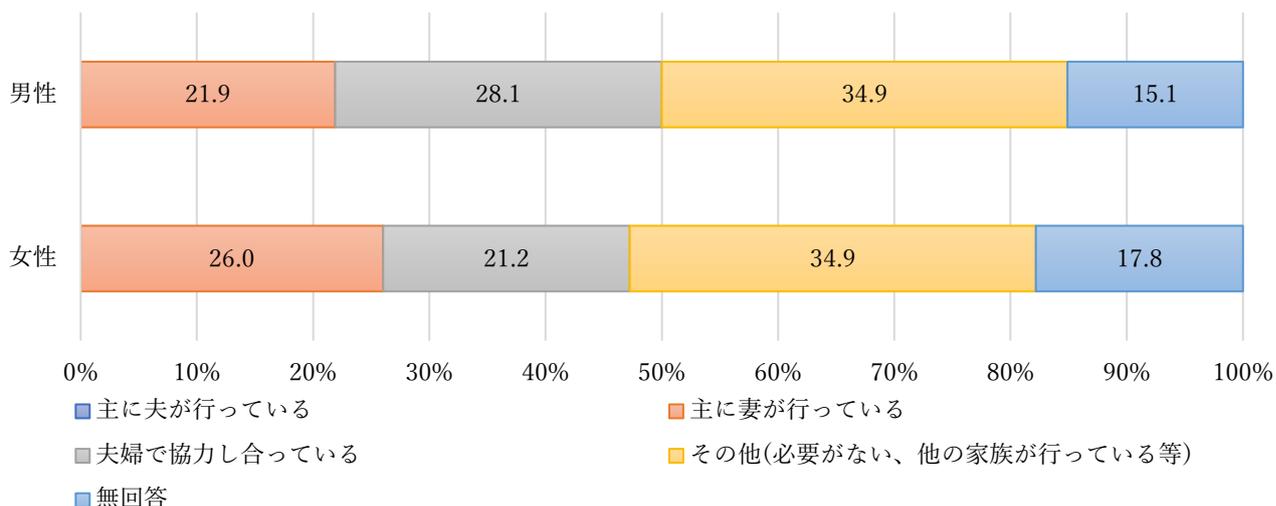
② 年齢



“18～29歳”では、「夫婦で協力し合っている」と回答した方が半数を占め、最も多くなりましたが、30歳以上では、すべての年代で「主に夫が行っている」と回答した方が最も多く、半数以上を占めています。

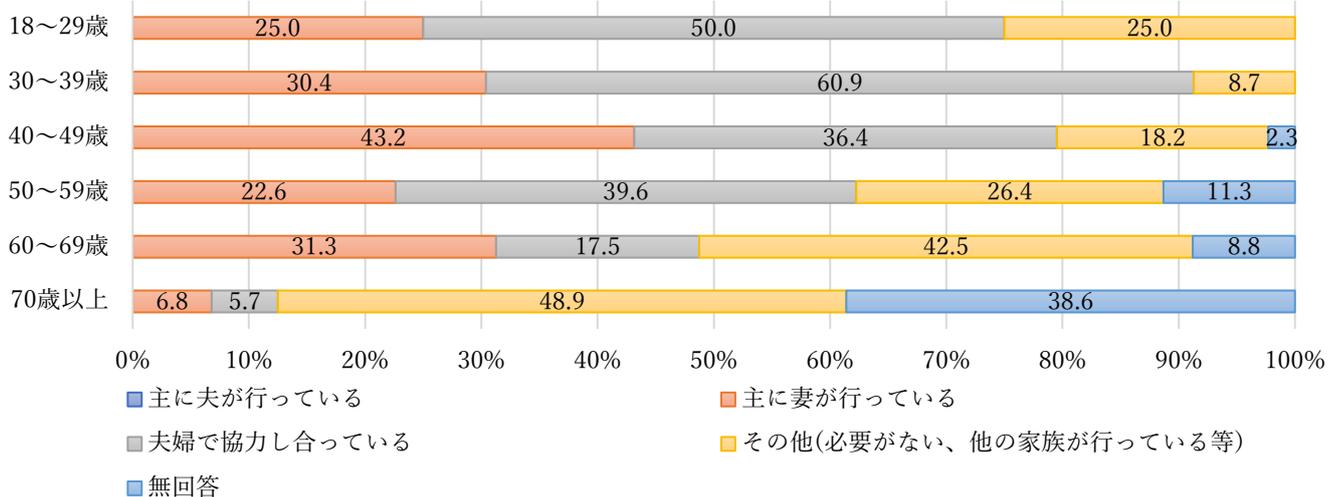
コ 子どもの世話

① 性別



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、“男性”では、「夫婦で協力し合っている」、「女性」では、「主に妻が行っている」となり、男女間の認識に差があることがわかります。

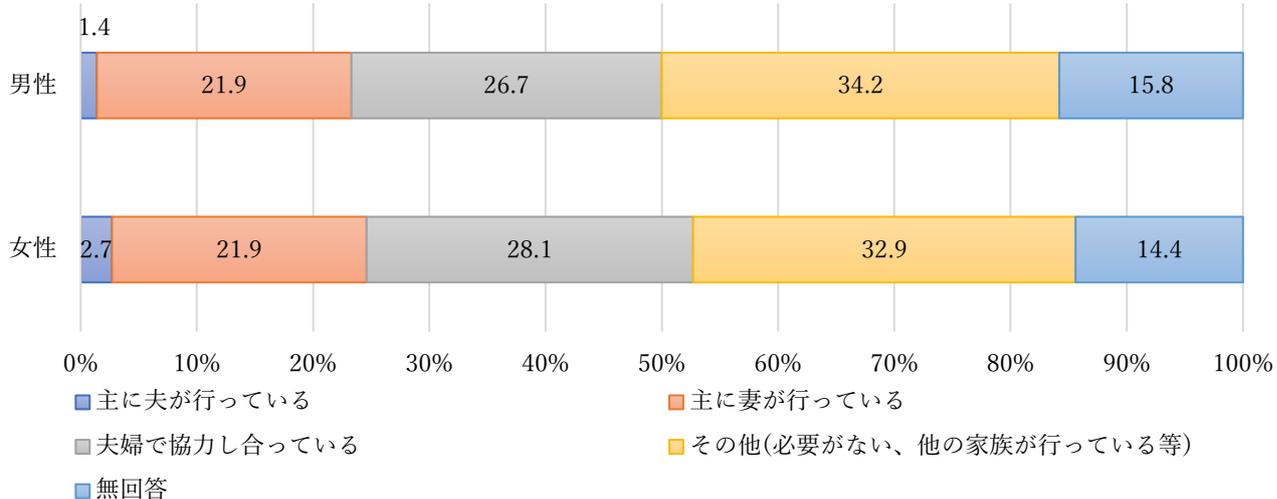
② 年齢



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、“18～29歳”、“30～39歳”、“50～59歳”では、「夫婦で協力し合っている」となり、“40～49歳”、“60～69歳”、“70歳以上”では、「主に妻が行っている」となりました。

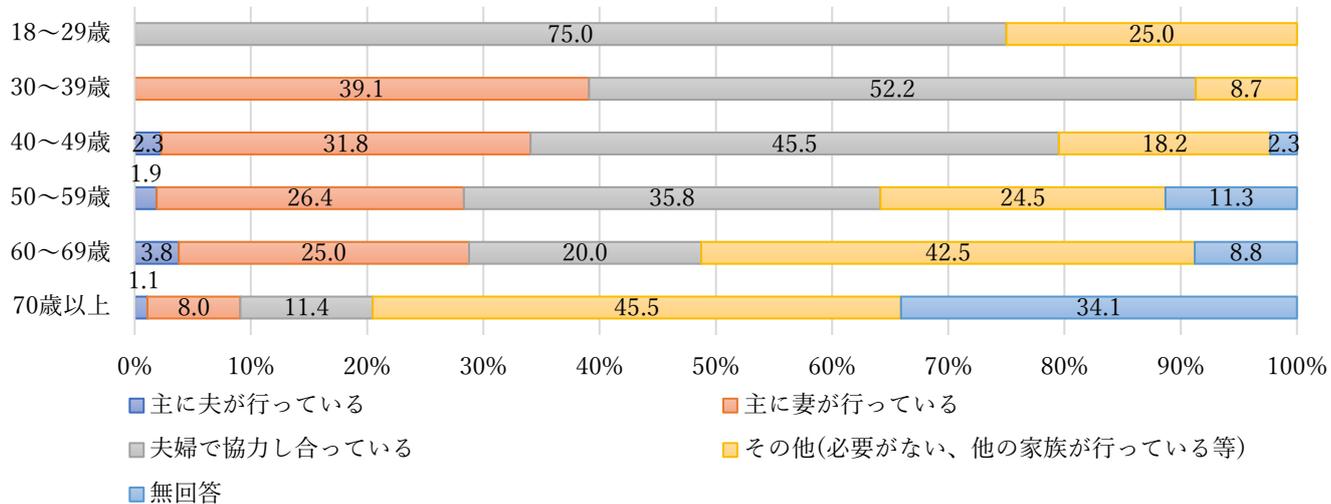
サ 子どもの教育

① 性別



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、男女ともに「夫婦で協力し合っている」となりました。

② 年齢

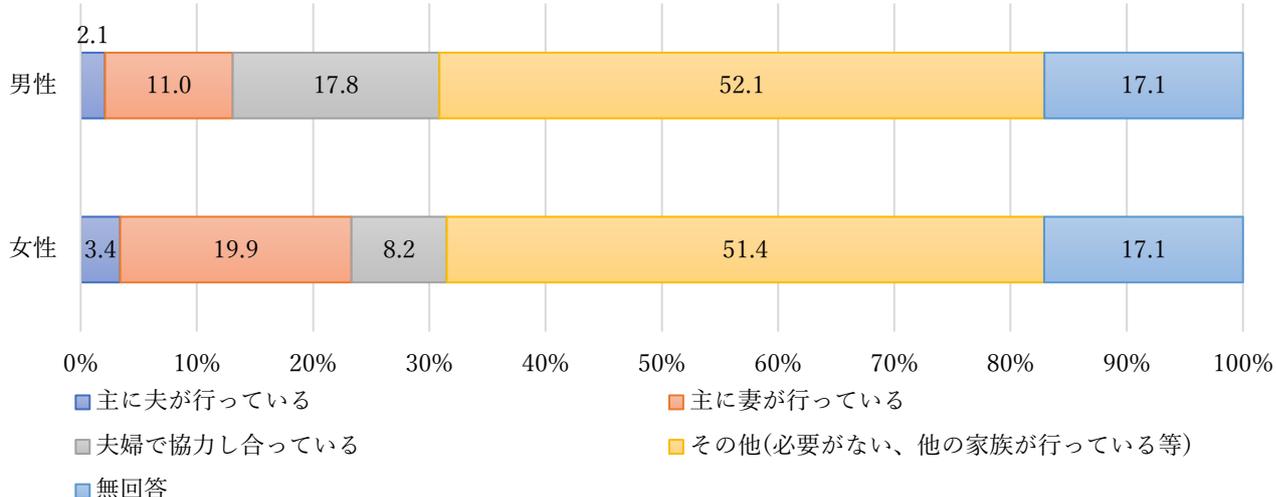


「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、「60～69歳」を除いたすべての年代で、「夫婦で協力し合っている」となりました。

「60～69歳」で最も多かった回答は、「主に妻が行っている」となりました。

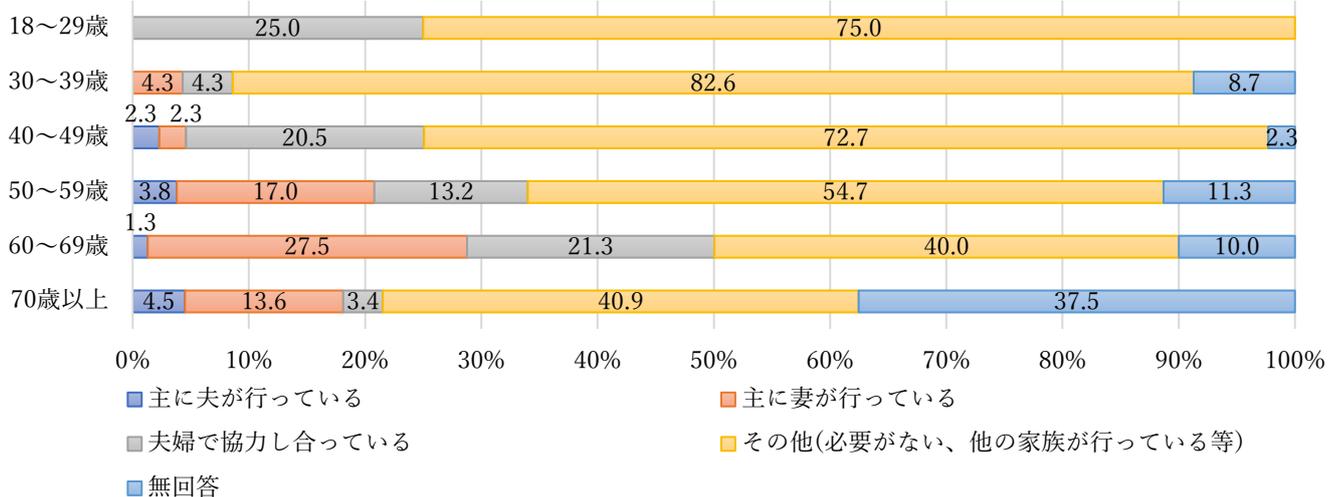
シ 高齢者の世話や介護

① 性別



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、「男性」では、「夫婦で協力し合っている」、「女性」では、「主に妻が行っている」となり、男女間の認識に差があることがわかります。

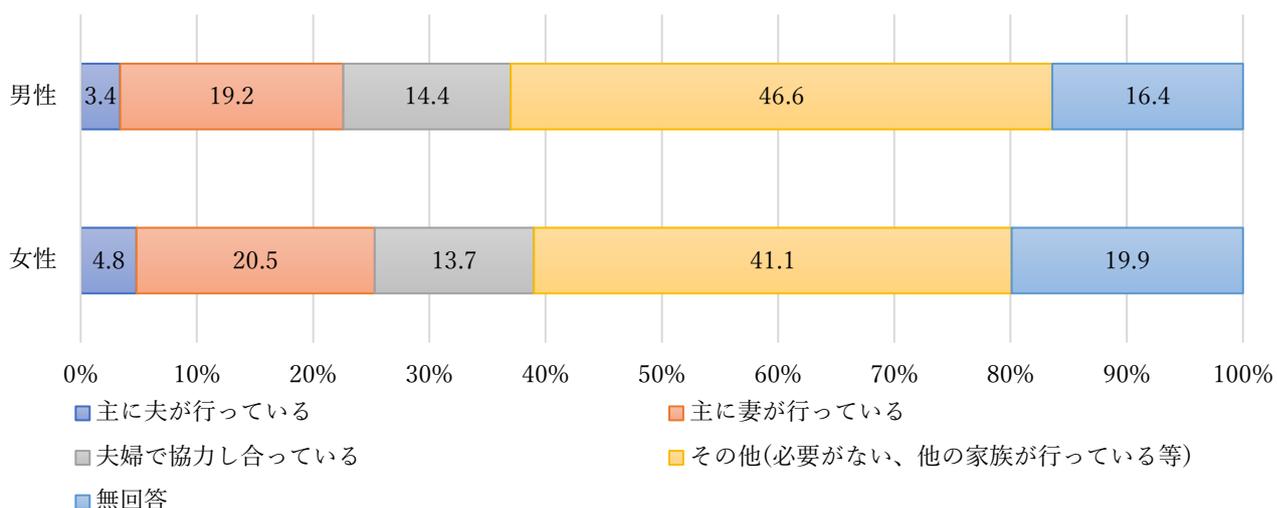
② 年齢



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、「18～29歳」、「40～49歳」では、「夫婦で協力し合っている」となり、「30～39歳」では、「主に妻が行っている」と「夫婦で協力し合っている」が同数となりました。50歳以上の年代では、「主に妻が行っている」と回答した方が最も多くなっています。

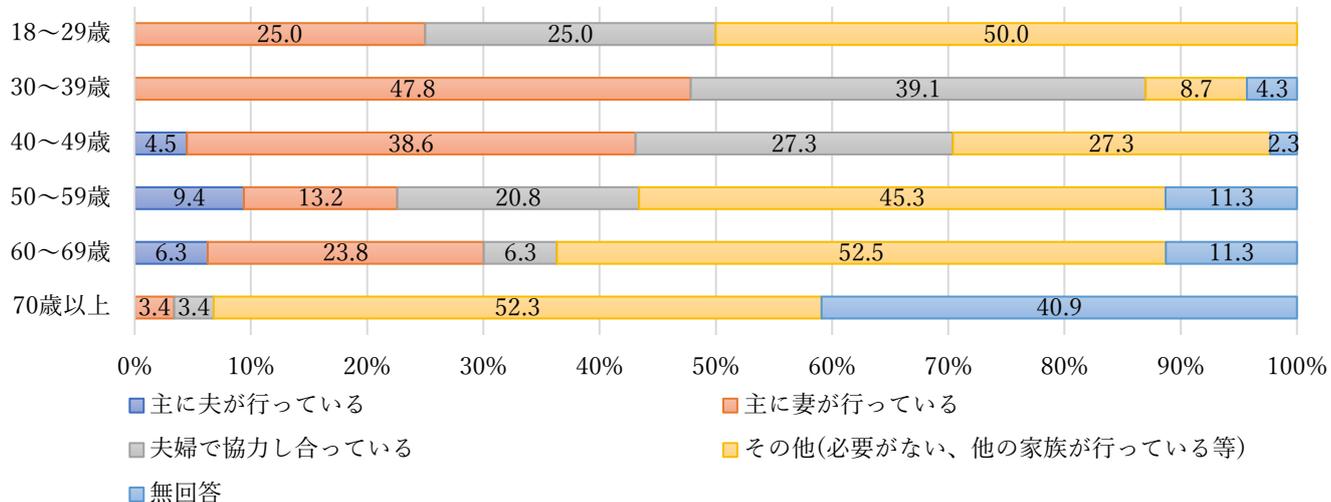
ス 学校や保育園などの送迎

① 性別



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、男女ともに「主に妻が行っている」となりました。

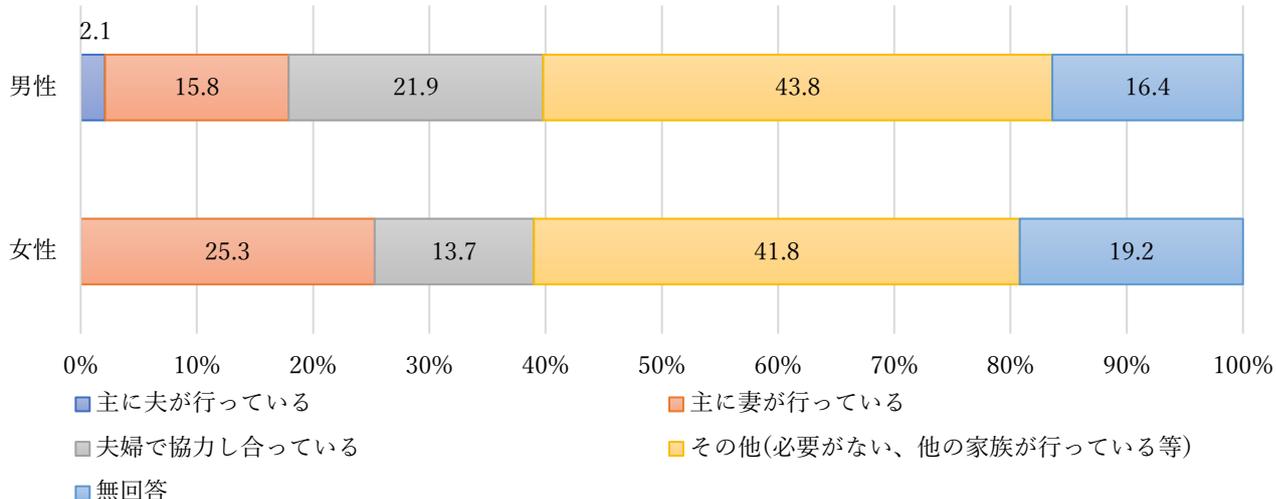
② 年齢



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、“50～59歳”では、「夫婦で協力し合っている」が最も多い回答となっていますが、その他の年代では、「主に妻が行っている」と回答した方が多くなっています。(“18～29歳”、“70歳以上”は「主に妻が行っている」と「夫婦で協力し合っている」が同数)

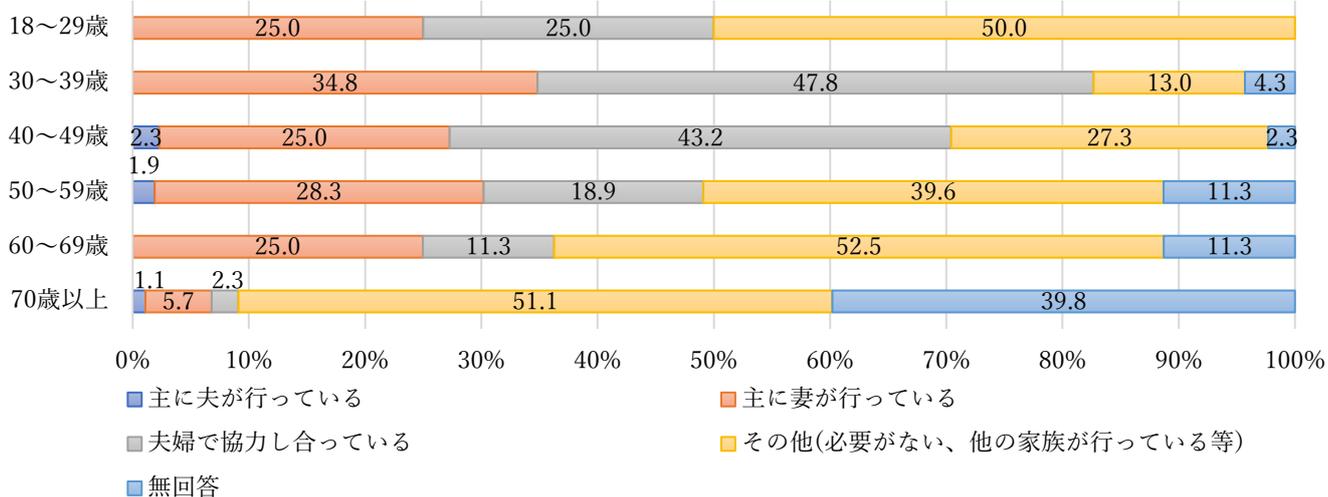
セ 学校行事への参加

① 性別



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多かった回答は、“男性”では、「夫婦で協力し合っている」、「女性”では、「主に妻が行っている」となり、男女間の認識に差があることがわかります。

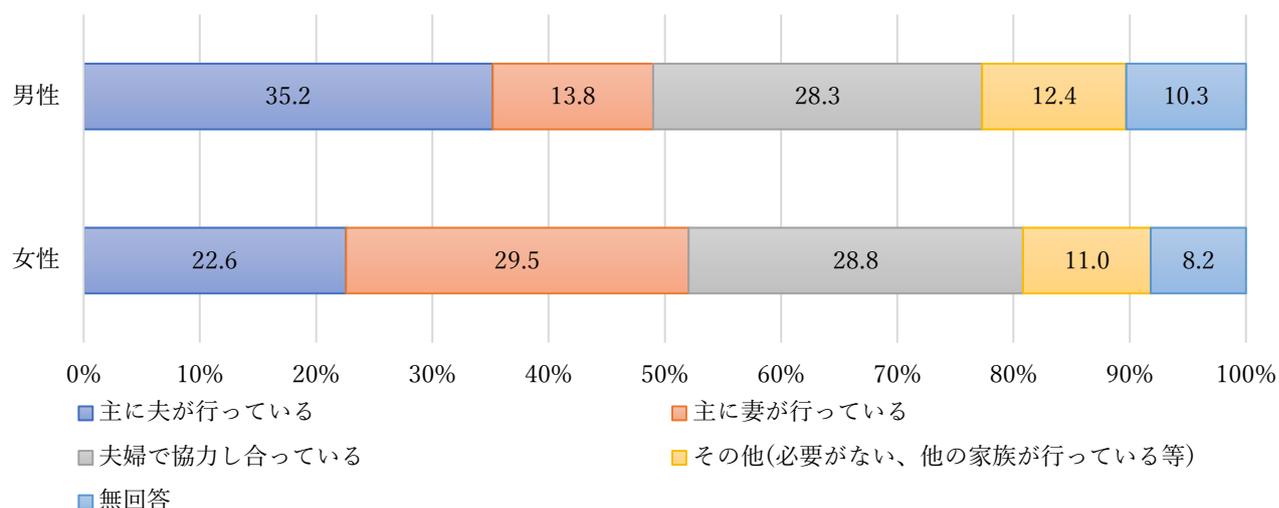
② 年齢



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、“18～29歳”では、「主に妻が行っている」と「夫婦で協力し合っている」が同数で最も多くなっており、“30～39”、“40～49”歳では、「夫婦で協力し合っている」が最も多くなっています。50歳以上では、すべての年代で「主に妻が行っている」が最も多くなっています。

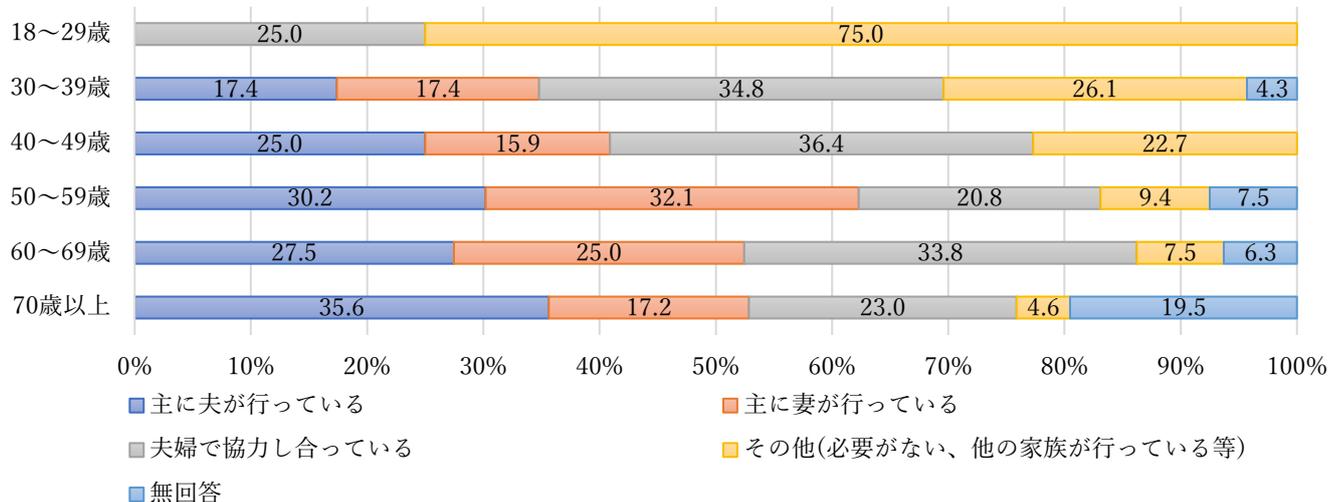
ソ 地域活動

① 性別



最も多かった回答は、“男性”では、「主に夫が行っている」、「女性」では、「主に妻が行っている」となっており、男女間で認識の差があることがわかります。

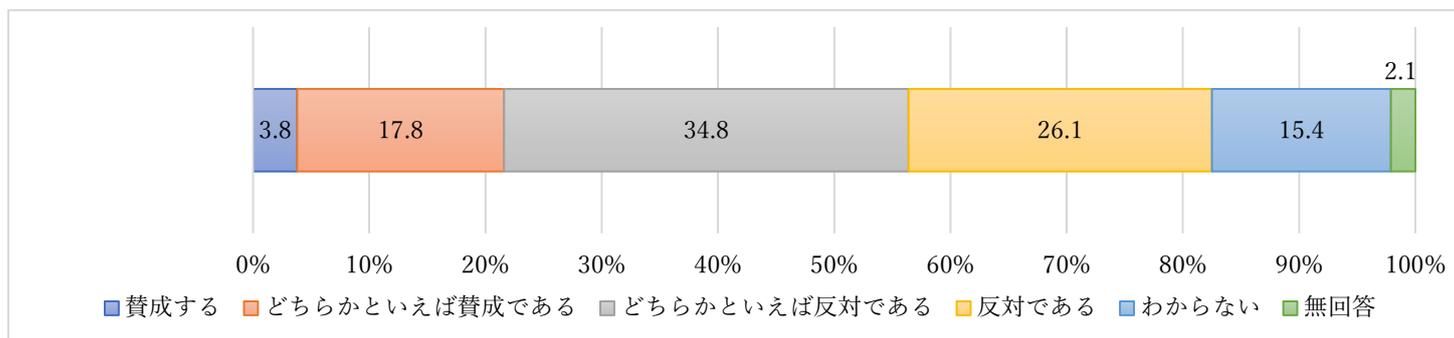
② 年齢



「その他(必要がない、他の家族が行っている等)」と回答した方を除くと、最も多い回答は、“18～29歳”、“30～39歳”、“40～49歳”、“60～69歳”では「夫婦で協力し合っている」となっています。

“50～59歳”では、「主に妻が行っている」、「70歳以上」では、「主に夫が行っている」が最も多い回答となりました。

問9 「男は仕事、女は家事や育児」という考え方について、どう思いますか。(1つに○)

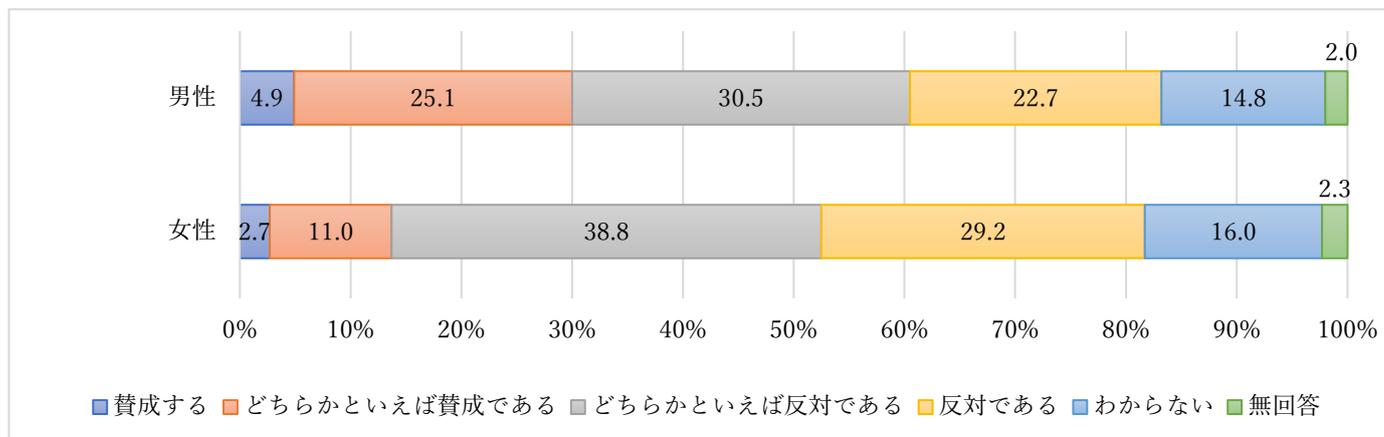


「男は仕事、女は家事や育児」という考え方について「反対である」、「どちらかといえば反対である」は60.9%、「賛成する」、「どちらかといえば賛成である」は、21.6%となりました。

「男は仕事、女は家事や育児」という考え方について反対の回答者が賛成の回答者のおよそ3倍を占めています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 賛成する	16	3.8
2 どちらかといえば賛成である	75	17.8
3 どちらかといえば反対である	147	34.8
4 反対である	110	26.1
5 わからない	65	15.4
無回答	9	2.1
有効票数	422	100.0%

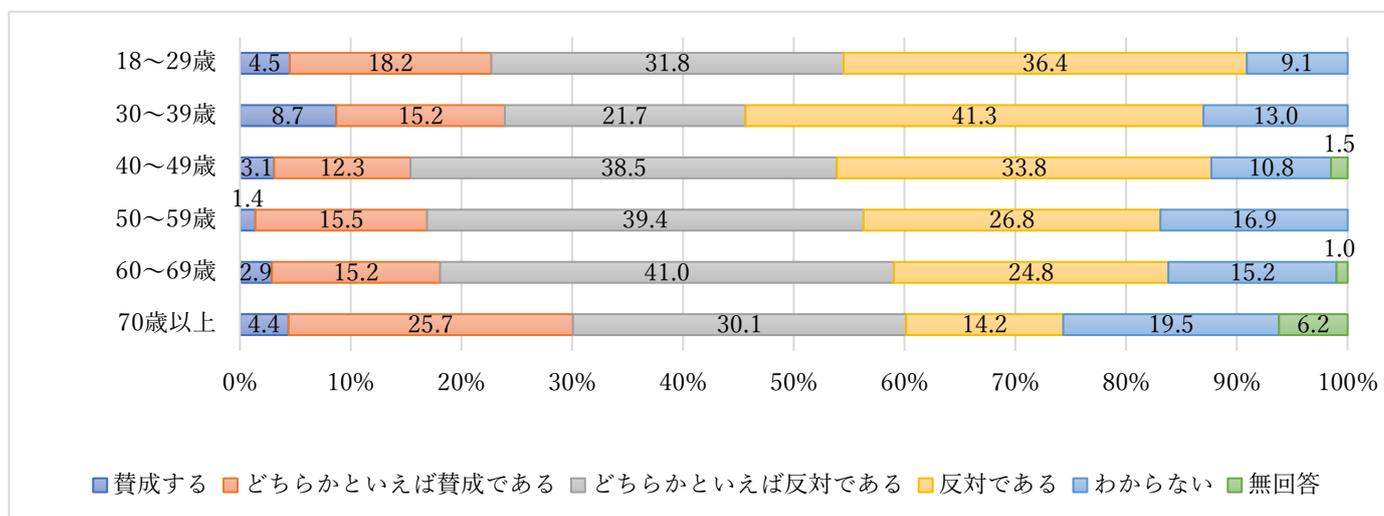
① 性別



「男は仕事、女は家事や育児」という考え方について「反対」、「どちらかといえば反対である」は、“男性”では、53.2%、“女性”では68.0%となり、“女性”の方が14.8%高い結果となっています。

「賛成」、「どちらかといえば賛成である」は、“男性”では、30.0%、“女性”では、13.7%となり“男性”の方が16.3%高い結果となっています。

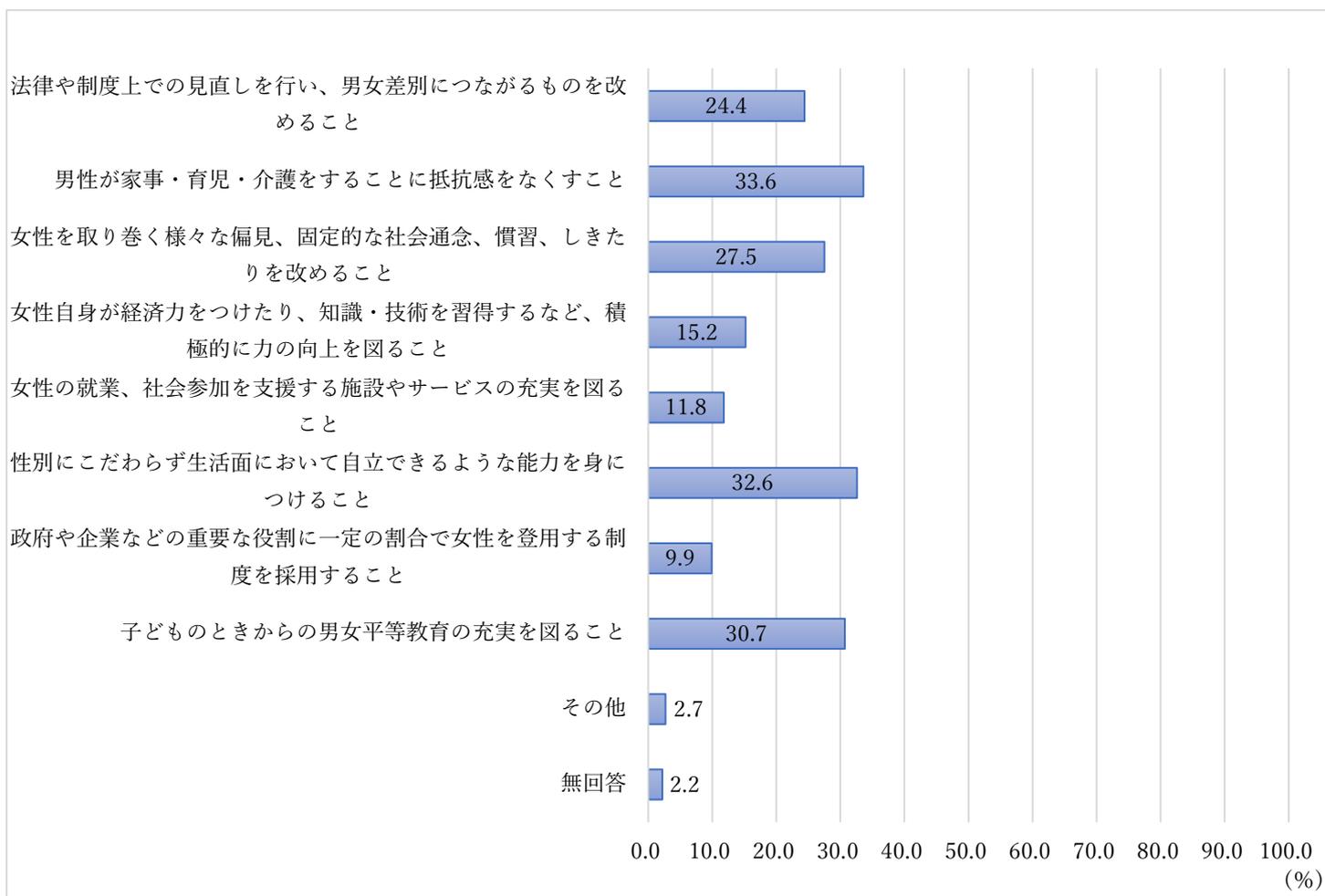
② 年齢



年齢で見ると、「反対」、「どちらかといえば反対である」が最も高いのは、“40～49歳”で72.3%、次いで“18～29歳”の68.2%となっています。

「賛成」、「どちらかといえば賛成である」が最も高いのは、“70歳以上”で30.1%、次いで“30～39歳”の23.9%となっています。

問 10 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が重要であると思いますか。(2 つまで〇)



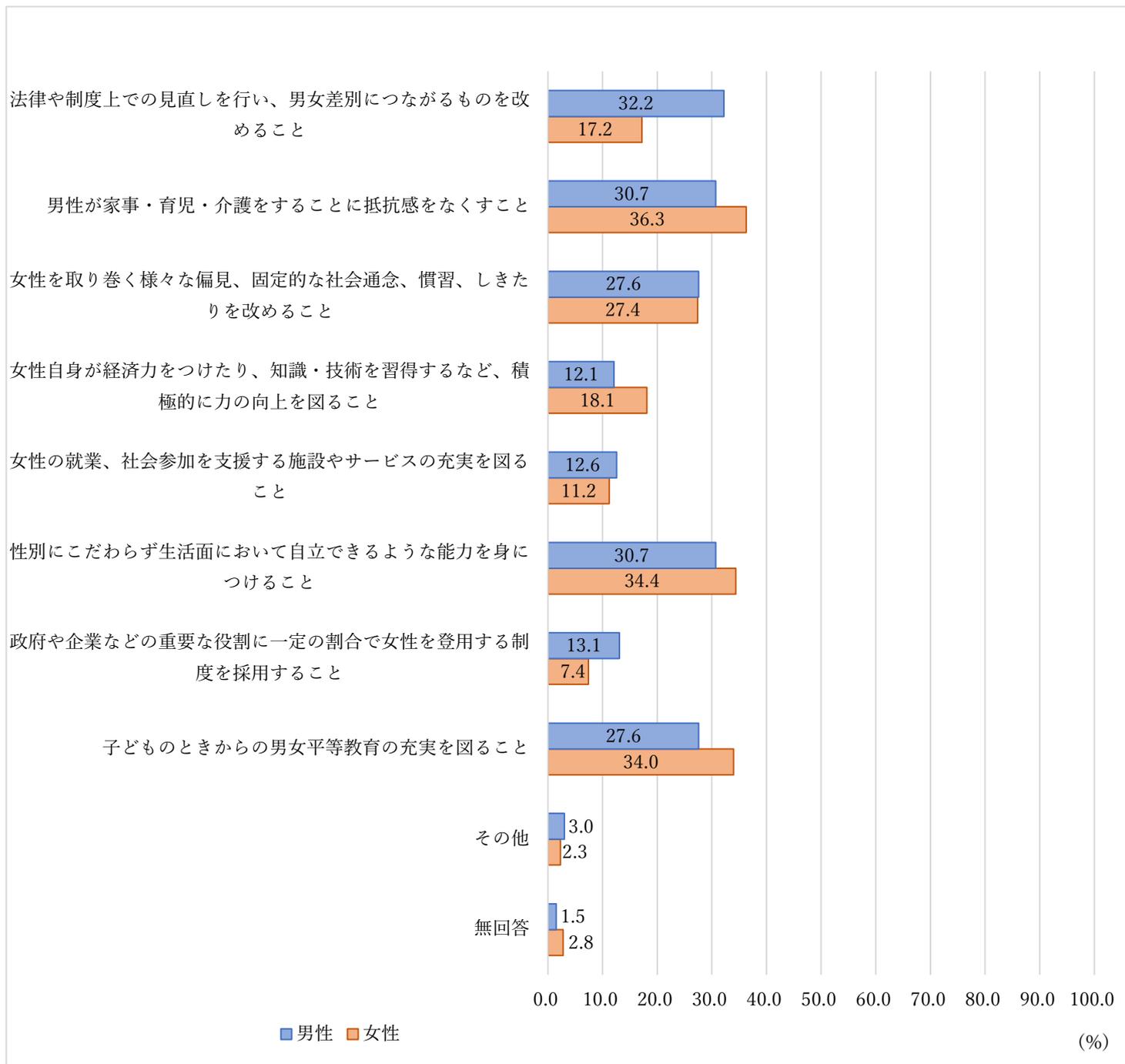
今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要なことについては、「男性が家事・育児・介護をすることに抵抗感をなくすこと」(33.6%)が最も高く、次いで「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」(32.6%)、「子どものときからの男女平等教育の充実を図ること」(30.7%)の順で高くなっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	101	24.4
2 男性が家事・育児・介護をすることに抵抗感をなくすること	139	33.6
3 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	114	27.5
4 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	63	15.2
5 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	49	11.8
6 性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること	135	32.6
7 政府や企業などの重要な役割に一定の割合で女性を登用する制度を採用すること	42	9.9
8 子どものときからの男女平等教育の充実を図ること	128	30.7
9 その他	11	2.7
無回答	9	2.2
有効票数	414	100.0

【その他】

- 社会を健全にするためには法律や制度、学校教育の前に家庭での両親のお手本が必要だと思っています。子供達は良いことと悪い事の判断を両親の行動を見て身に付けて行くと思います。
- 男性が休みやすい制度、手当など。
- 老害といわれる世代がいなくなれば少しは良くなるかも。
- シングルマザー等の女性だけの制度等、男性だから、女性だからという考えがそもそも平等じゃない。
- 8の子供だけではなく、大人も含めて平等の教育の充実が図ることが必要だと思います。
- 女性を隠れみのにしないで、積極参加をする風土を作ること。
- 同じ仕事をしていても男性の方が給料が高い。
- 男性にしかできないこと男性だからやれること反対に女性にしかできないこと女性だから得意とすることなどあると思うのですべてが平等という考え方は社会や生物としての弊害や歪みが出てくる。但し差別は×。
- 核家族をなくす。嫁姑もんだいの解決。
- 教育の中で女性自身の価値観を確立させる。
- わからない。

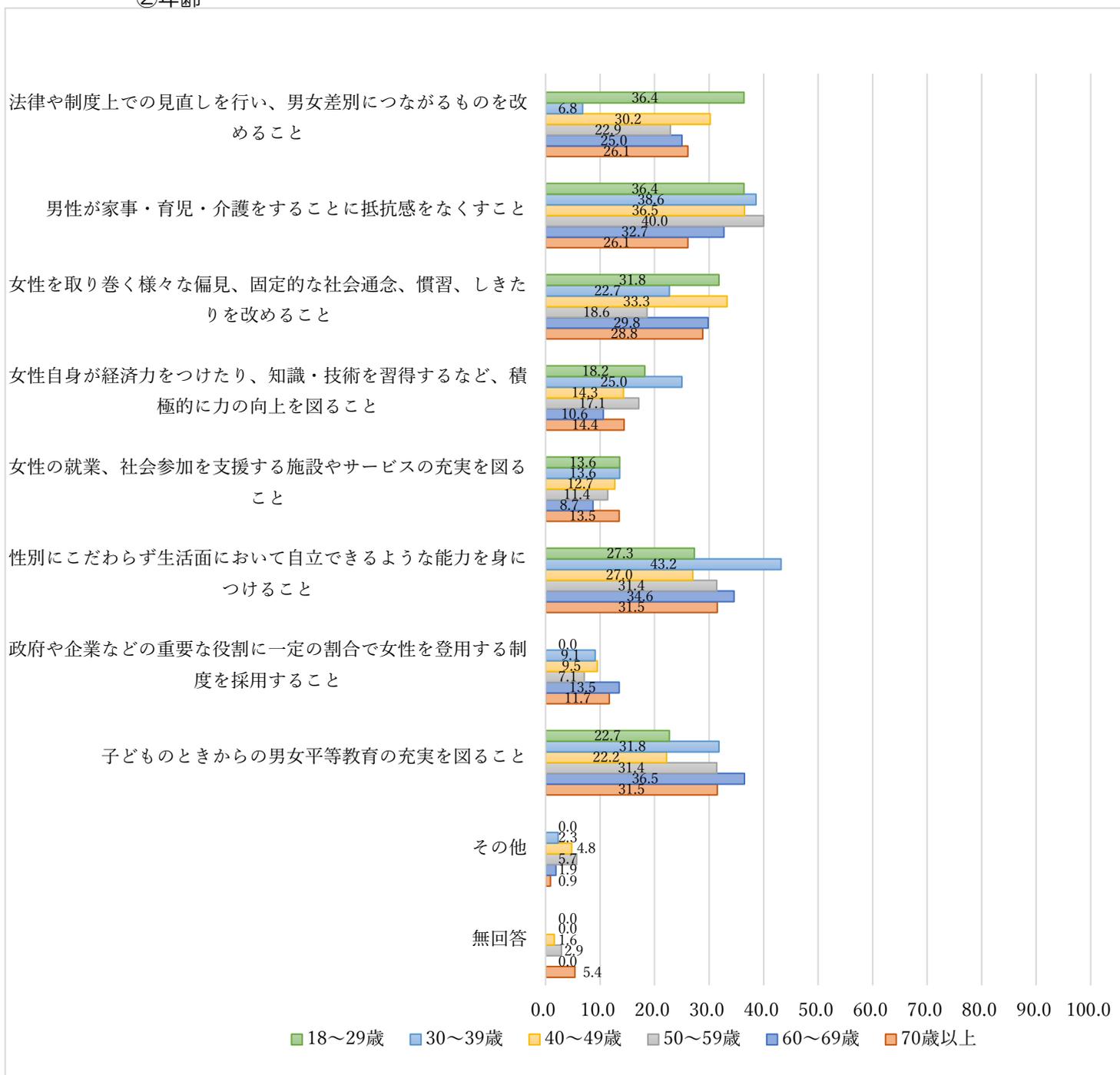
①性別



もっと男女が平等になるために重要なことについて“男性”は、「法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」が最も高く32.2%となっています。

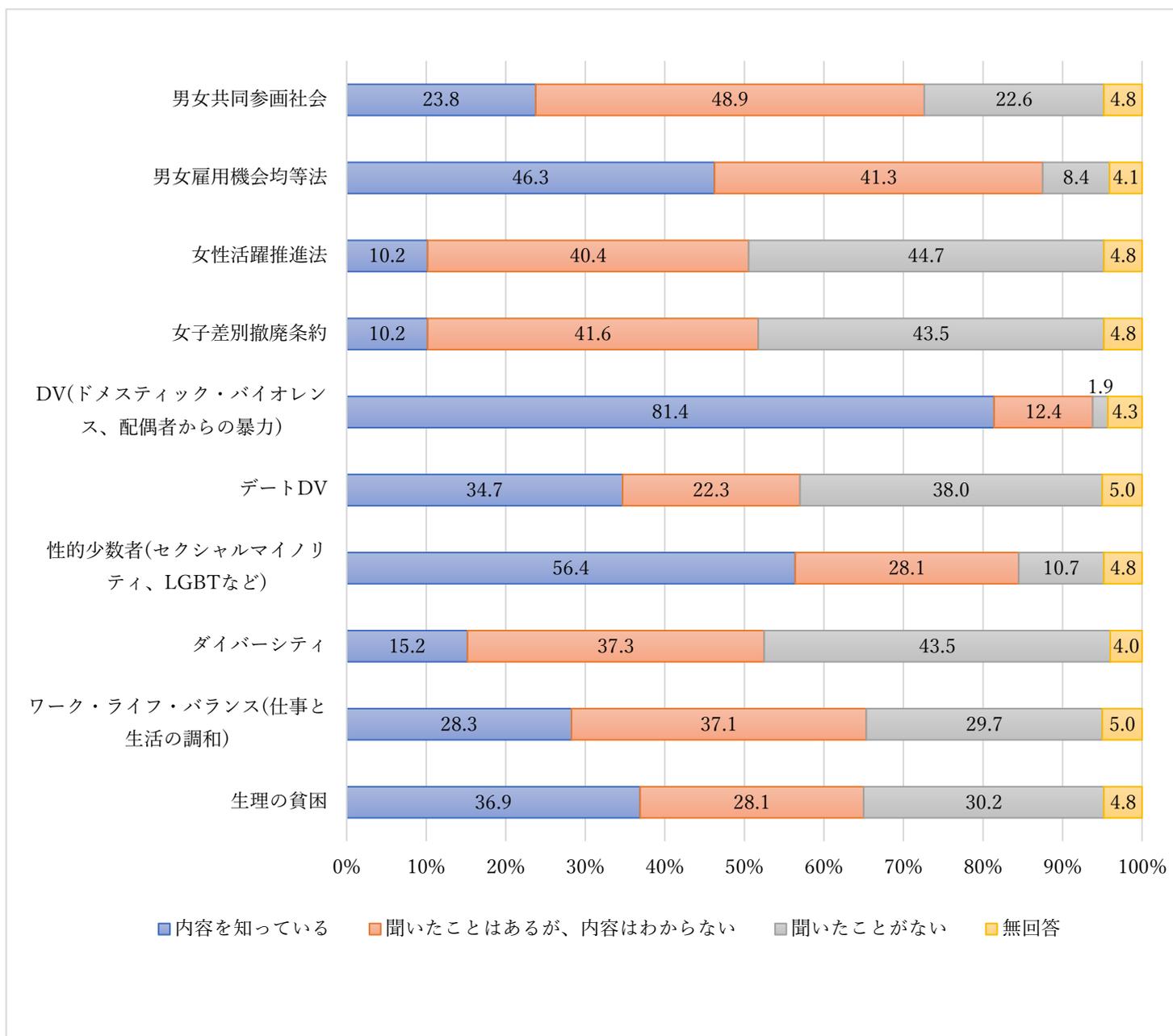
“女性”で最も高いのは、「男性が家事・育児・介護をすることに抵抗感をなくすこと」で36.3%となっています。

②年齢



50歳代以下の年代では、「男性が家事・育児・介護をすることに抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっていますが、60歳代以上の年代では、「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」や「子どものときからの男女平等教育の充実を図ること」の割合が高くなっています。

問 11 あなたは男女共同参画に関する以下の言葉について知っているまたは聞いたことがあるものがありますか。



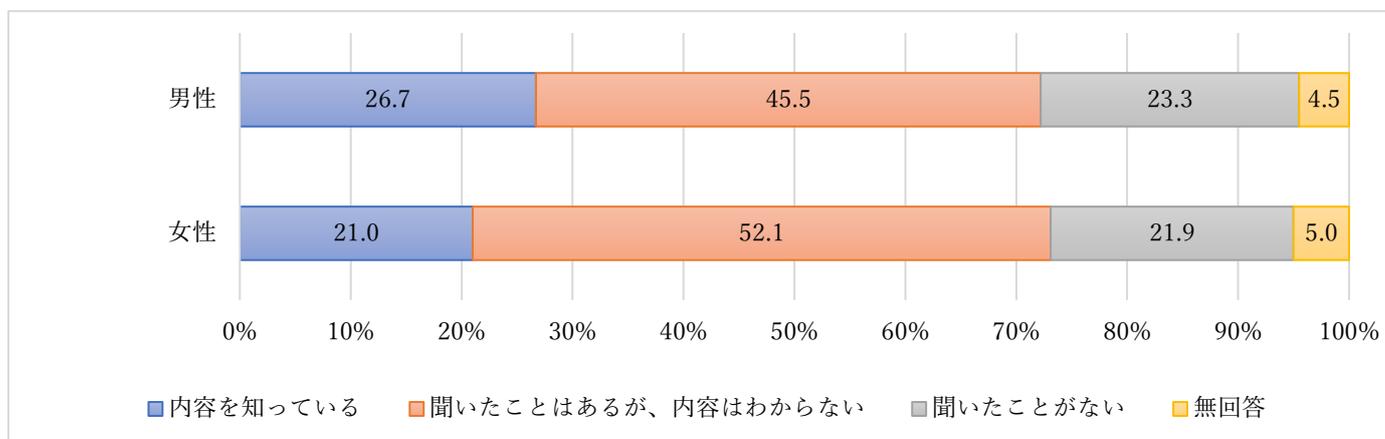
男女共同参画に関する用語について、「内容を知っている」が最も多いのは、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」(81.4%)、次いで「性的少数者(セクシャルマイノリティ、LGBTなど)」(56.4%)、「男女雇用機会均等法」(46.3%)の順で多くなっています。

「聞いたことがない」が最も多いのは、「女性活躍推進法」(44.7%)、次いで「女子差別撤廃条約」と「ダイバーシティ」(43.5%)が同数で多くなっています。

	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容はわからない	聞いたことがない	無回答	有効数
ア 男女共同参画社会	100	206	95	20	421
	23.8%	48.9%	22.6%	4.8%	100.0%
イ 男女雇用機会均等法	194	173	35	17	419
	46.3%	41.3%	8.4%	4.1%	100.0%
ウ 女性活躍推進法	43	170	188	20	421
	10.2%	40.4%	44.7%	4.8%	100.0%
エ 女子差別撤廃条約	43	175	183	20	421
	10.2%	41.6%	43.5%	4.8%	100.0%
オ DV(ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力)	342	52	8	18	420
	81.4%	12.4%	1.9%	4.3%	100.0%
カ デートDV	146	94	160	21	421
	34.7%	22.3%	38.0%	5.0%	100.0%
キ 性的少数者(セクシャルマイノリティ、LGBTなど)	237	118	45	20	420
	56.4%	28.1%	10.7%	4.8%	100.0%
ク ダイバーシティ	64	157	183	17	421
	15.2%	37.3%	43.5%	4.0%	100.0%
ケ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	119	156	125	21	421
	28.3%	37.1%	29.7%	5.0%	100.0%
コ 生理の貧困	155	118	127	20	420
	36.9%	28.1%	30.2%	4.8%	100.0%

ア 男女共同参画社会

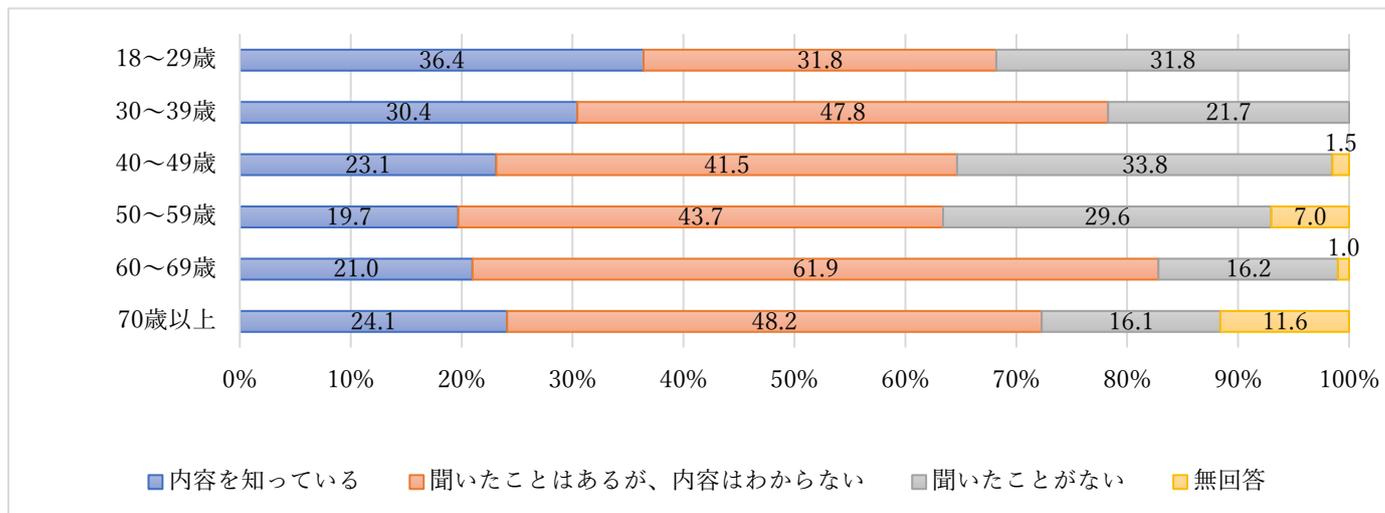
① 性別



「男女共同参画社会」については、「内容を知っている」と回答した方の割合は、“男性”は、26.7%、“女性”は、21.0%となっており、“男性”が“女性”より5.7%高くなっています。

男女とも「聞いたことがない」と回答した方は、20%を上回っています。

② 年齢

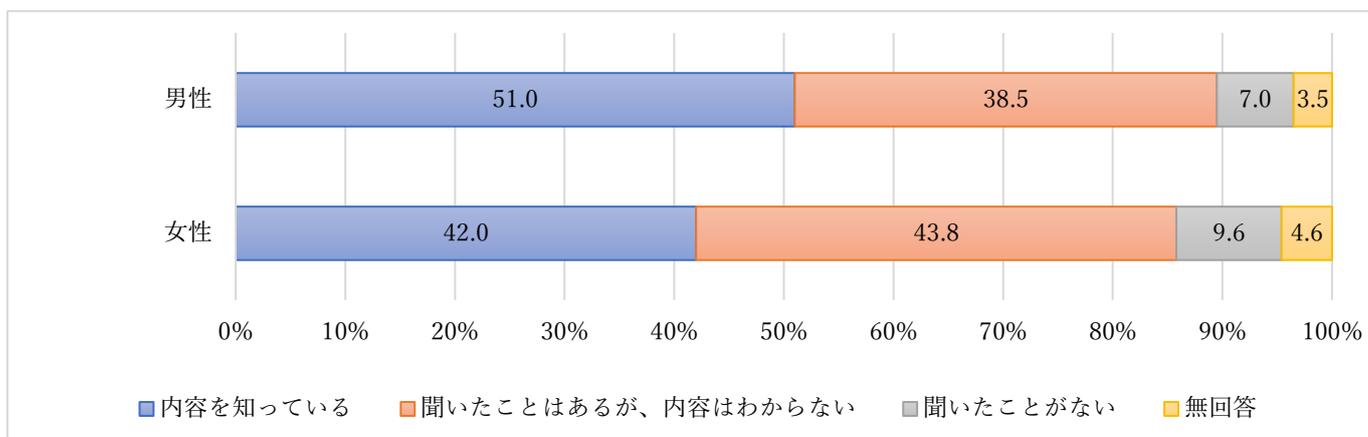


年齢別にみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”、“30～39歳”では、30%を超えていますが、その他の年代では、25%を下回っています。

「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も高いのは、“40～49歳”で33.8%となりました。

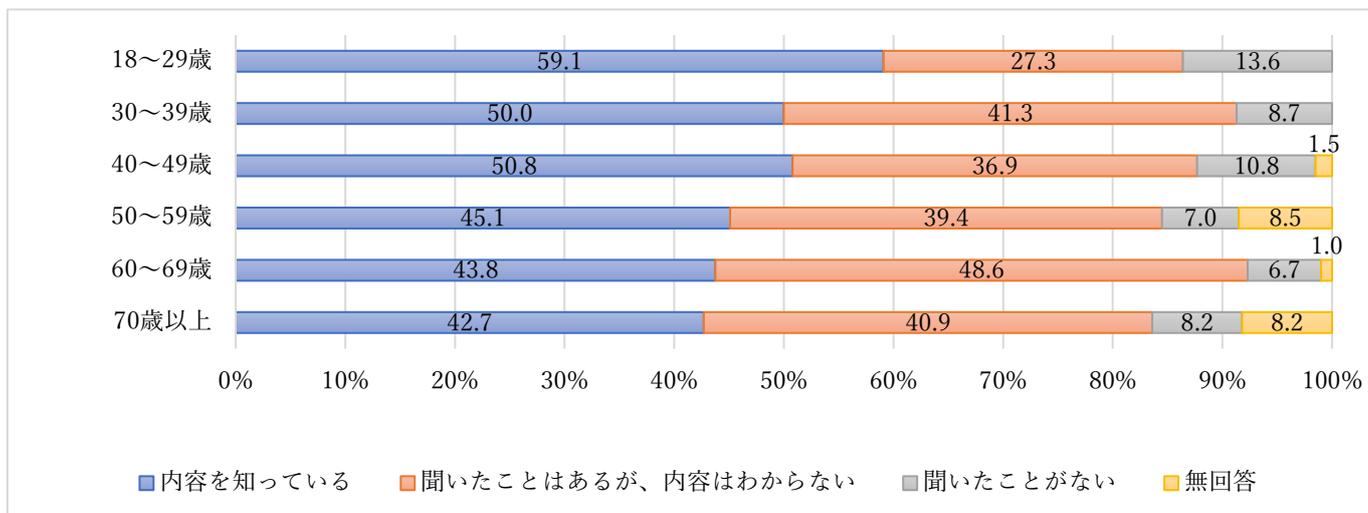
イ 男女雇用機会均等法

① 性別



「男女雇用機会均等法」については、「内容を知っている」と回答した方は、“男性”は、51.0%、“女性”は42.0%となっており、“男性”の方が“女性”より9.0%高くなっています。

② 年齢

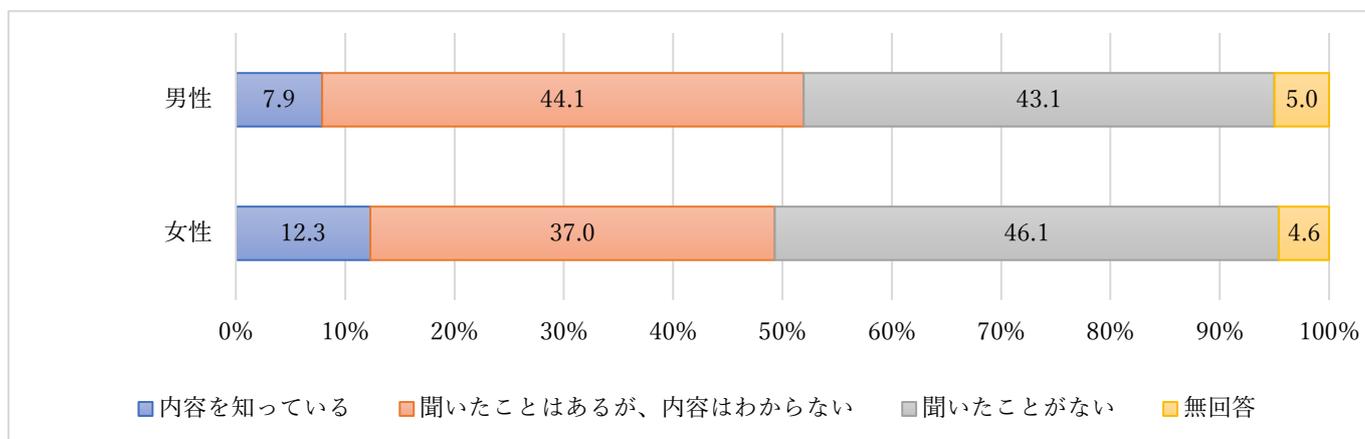


年齢別にみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”が最も高く59.1%となっており、年齢が高くなるにつれて低くなる傾向がみられます。

高い年代では、「聞いたことはあるが、内容はわからない」と回答した方が多くなっています。

ウ 女性活躍推進法

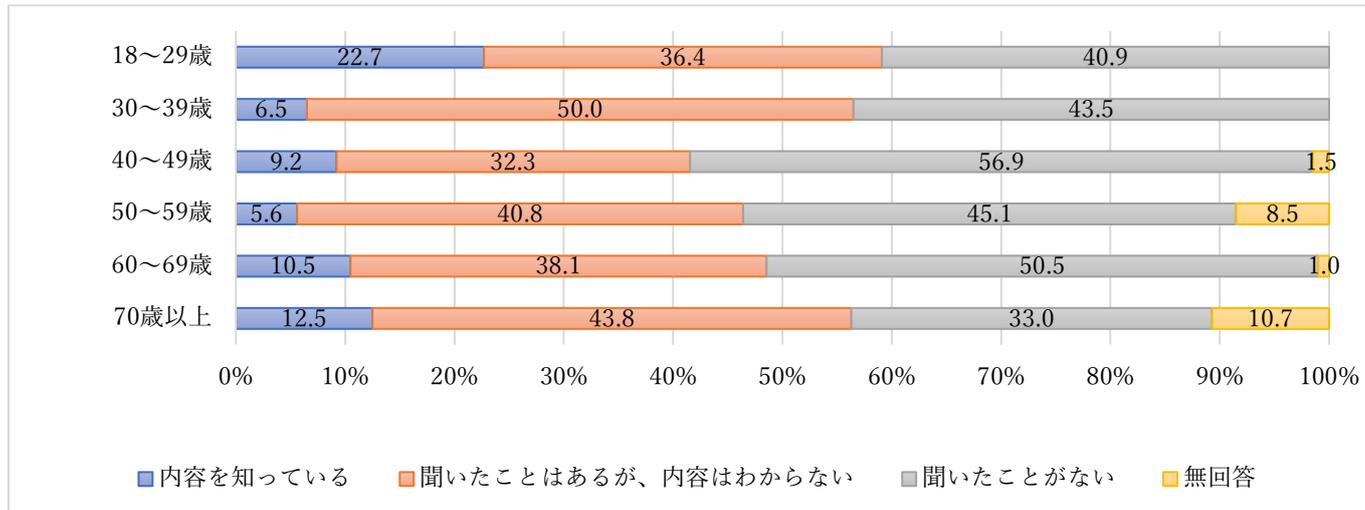
① 性別



性別で見ると最も多かった回答は、“男性”は、「聞いたことはあるが、内容はわからない」で44.1%、“女性”は、「聞いたことがない」で46.1%となりました。

「内容を知っている」と回答した方は、“男性”は、7.9%、“女性”は、12.3%となりました。

② 年齢

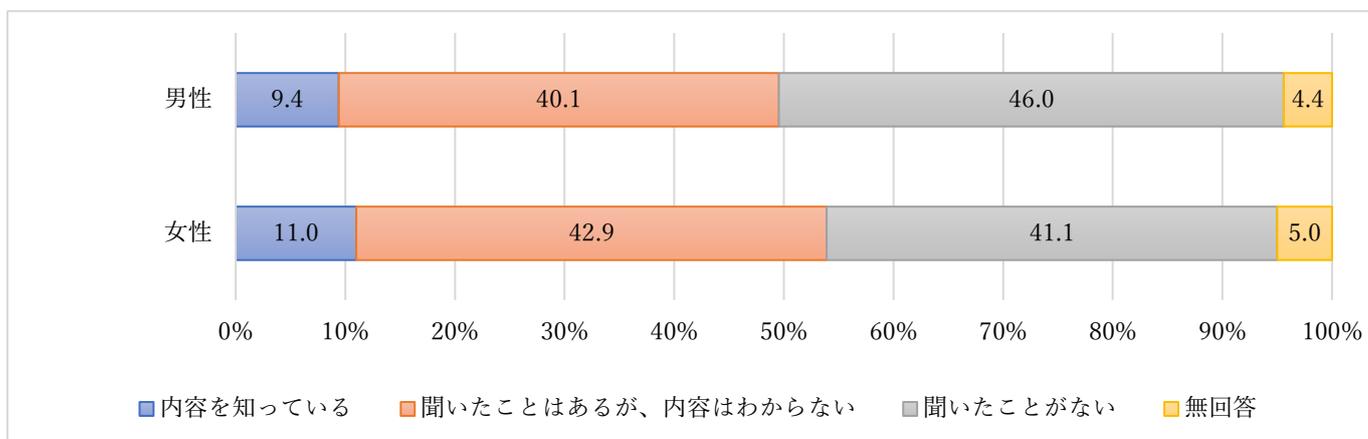


年齢別にみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”が最も高く22.7%となっています。

「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も高いのは、“40～49歳”で56.9%となっています。

工 女子差別撤廃条約

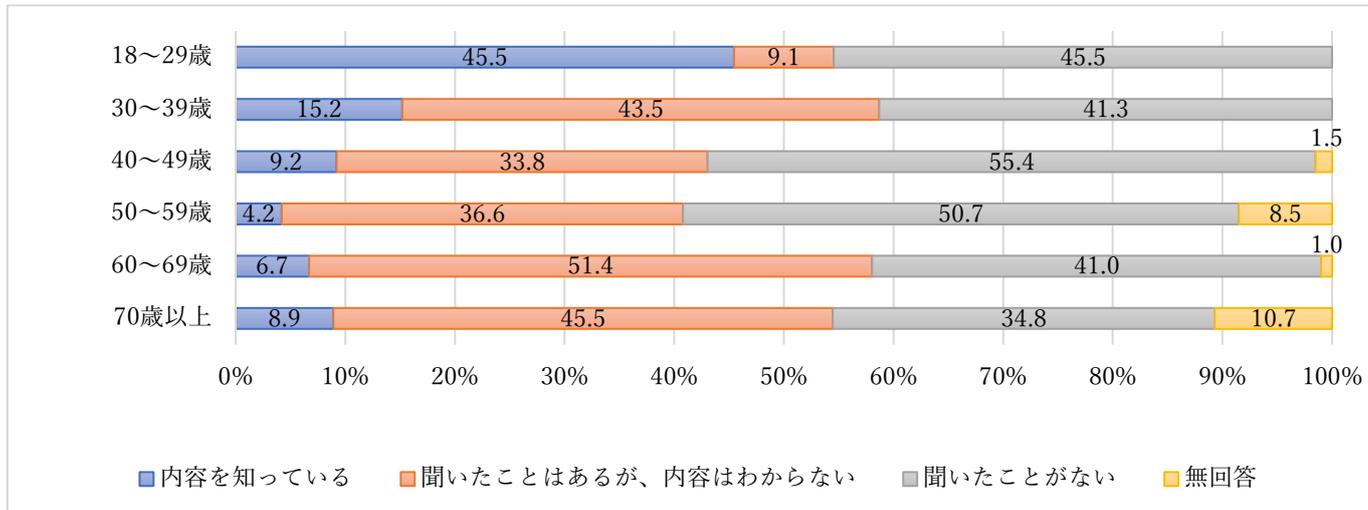
① 性別



性別で見ると最も多かった回答は、“男性”は「聞いたことがない」で46.0%、“女性”は、「聞いたことはあるが、内容はわからない」で42.9%となっています。

「内容を知っている」と回答した方は、“男性”は9.4%、“女性”は11.0%となりました。

② 年齢



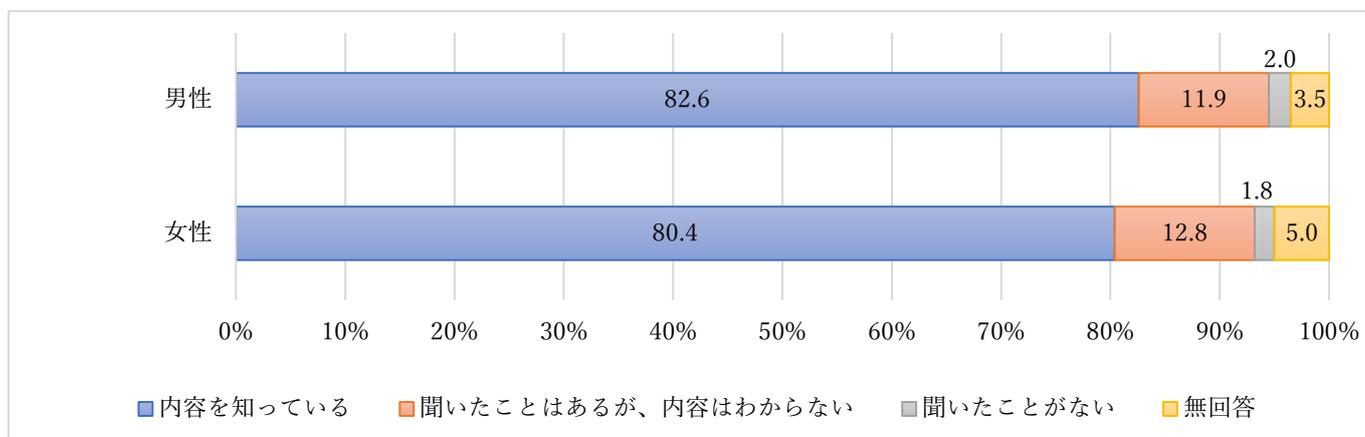
年齢別で見ると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”が最も高く45.5%となっています。

30歳以上の年代では、すべての年代で「内容を知っている」と回答した方は、20%未満となりました。

「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も高いのは、“40～49歳”で55.4%となりました。

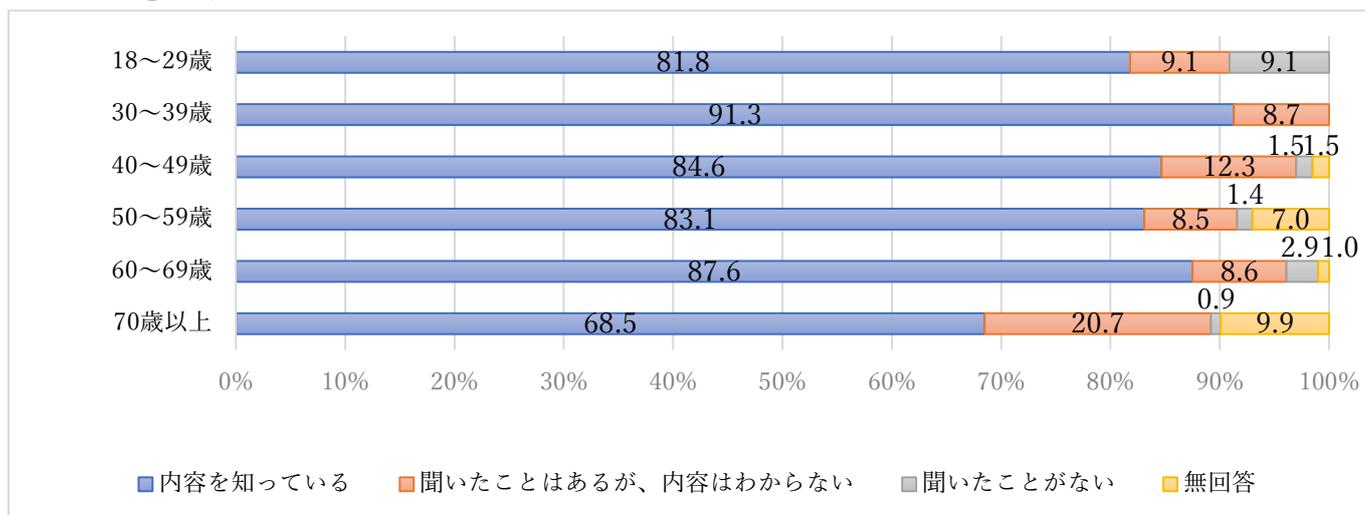
オ DV(ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力)

① 性別



「DV(ドメスティック・バイオレンス、配偶者からの暴力)」については、男女ともに80%以上の方が「内容を知っている」と回答しています。

② 年齢

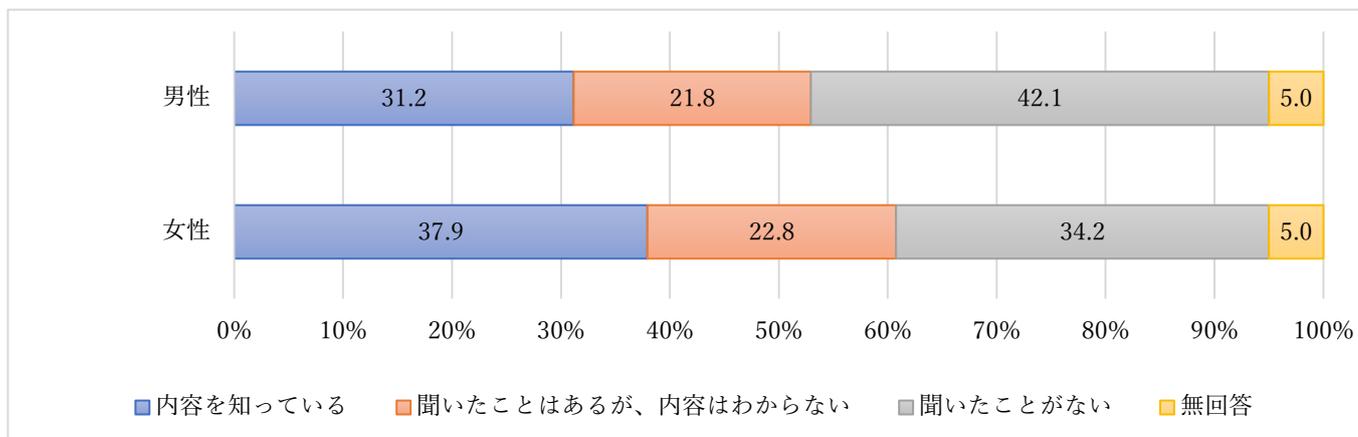


年齢別でみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“30～39歳”が最も高く91.3%となりました。

“70歳以上”を除くすべての年代で、「内容を知っている」と回答した方の割合が80%を超えています。“70歳以上”は、他の年代と比較して「聞いたことはあるが、内容はわからない」と回答した方の割合が高くなっています。

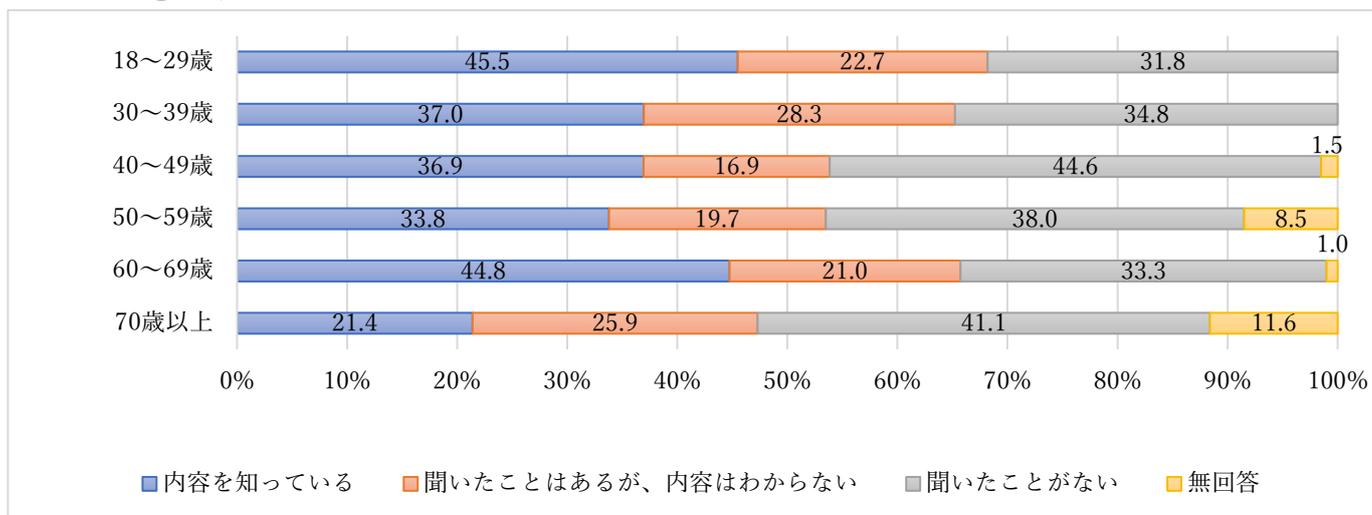
カ デートDV

① 性別



「デートDV」については、「内容を知っている」と回答した方は、“男性”は、31.2%、“女性”は、37.9%となっており、“女性”の方が“男性”より6.7%高くなっています。

② 年齢

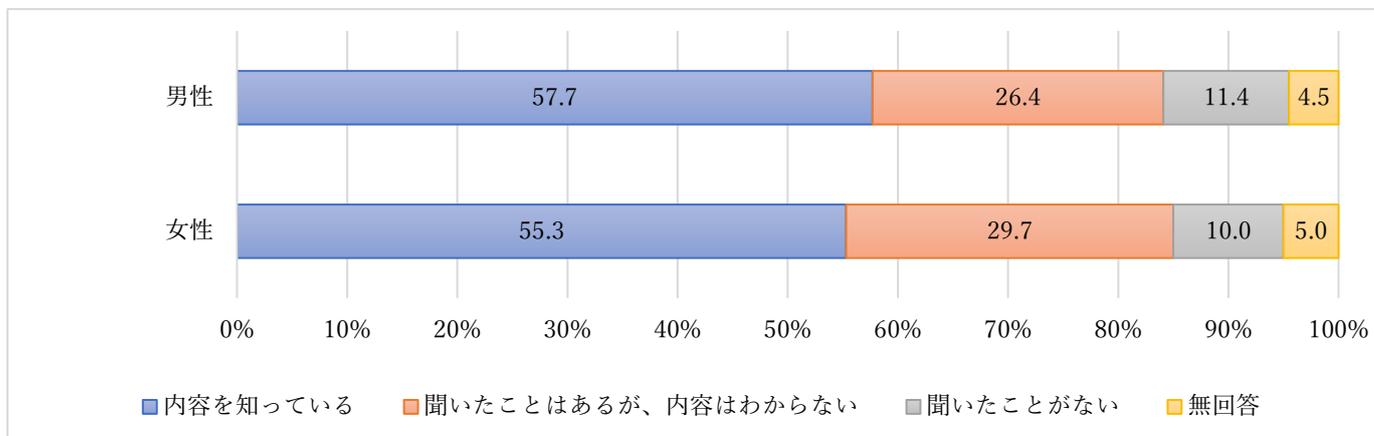


年齢別でみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”が最も高く45.5%、次いで“60～69歳”の44.8%となりました。

「聞いたことがない」と回答した方の割合が最も高いのは、“40～49歳”で44.6%となりました。

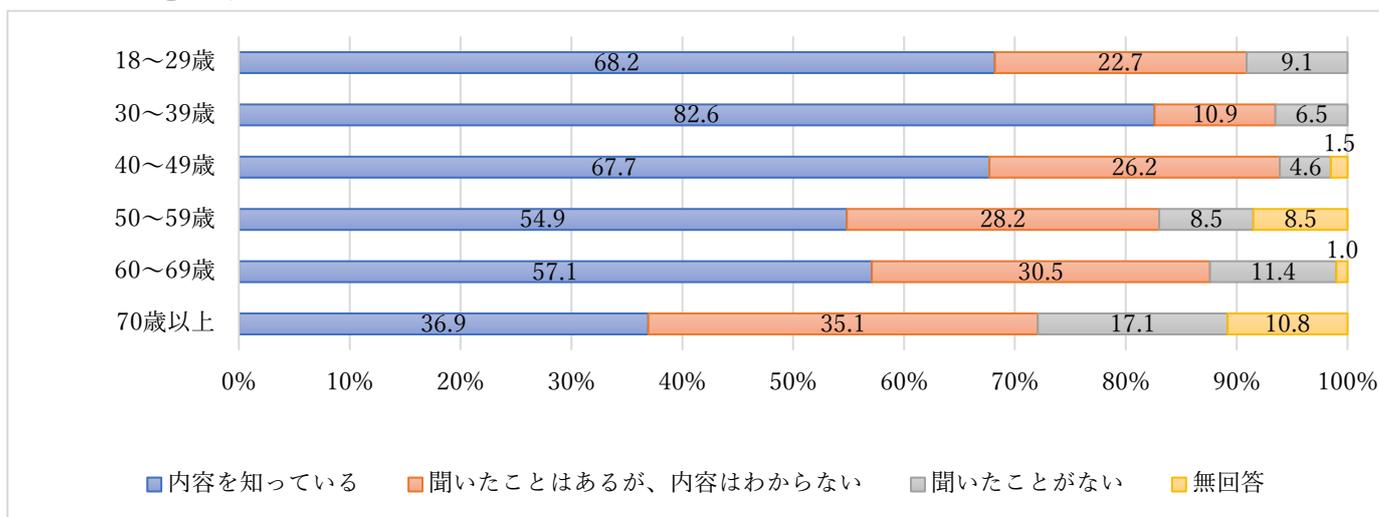
キ 性的少数者(セクシャルマイノリティ、LGBT など)

① 性別



「性的少数者(セクシャルマイノリティ、LGBT など)」については、男女ともに「内容を知っている」と回答した方が最も多く 50%を上回っています。

② 年齢

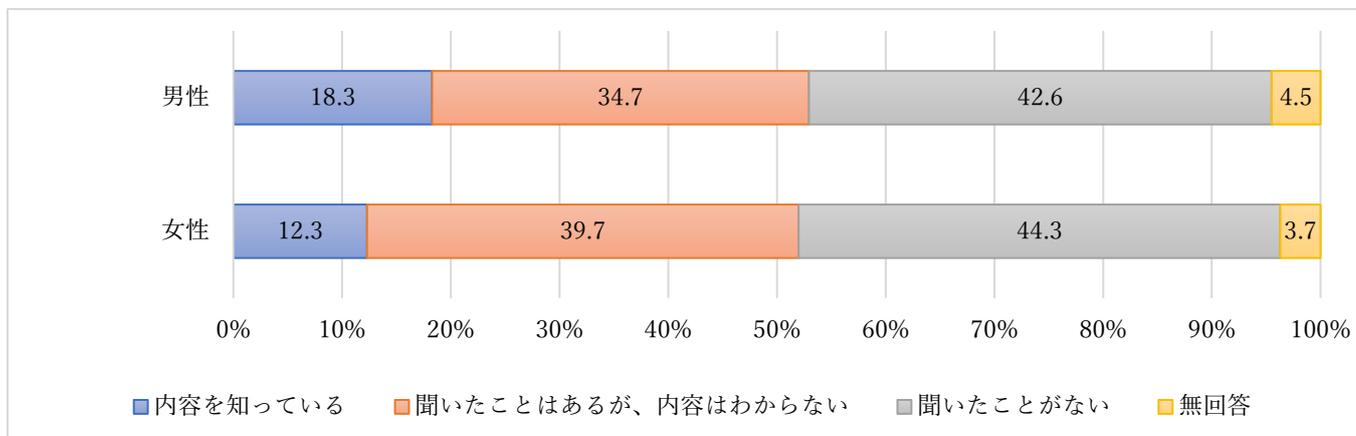


年齢別で見ると「内容を知っている」と回答した方の割合は“30～39 歳”が最も高く 82.6%となっています。

年代が高くなるにつれて「内容を知っている」と回答した方の割合が低くなり、「聞いたことはあるが、内容はわからない」と回答した方の割合が高くなっています。

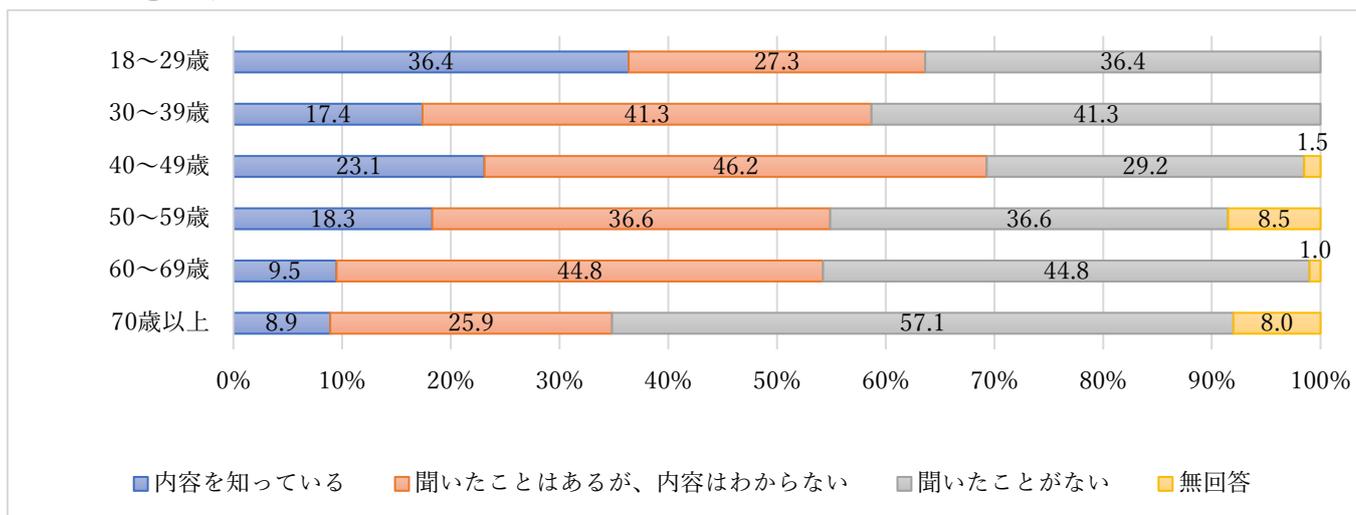
ク ダイバーシティ

① 性別



「ダイバーシティ」については、「内容を知っている」と回答した方は、“男性”は18.3%、“女性”は12.0%となっており、“男性”の方が“女性”より6.3%高くなっています。

② 年齢

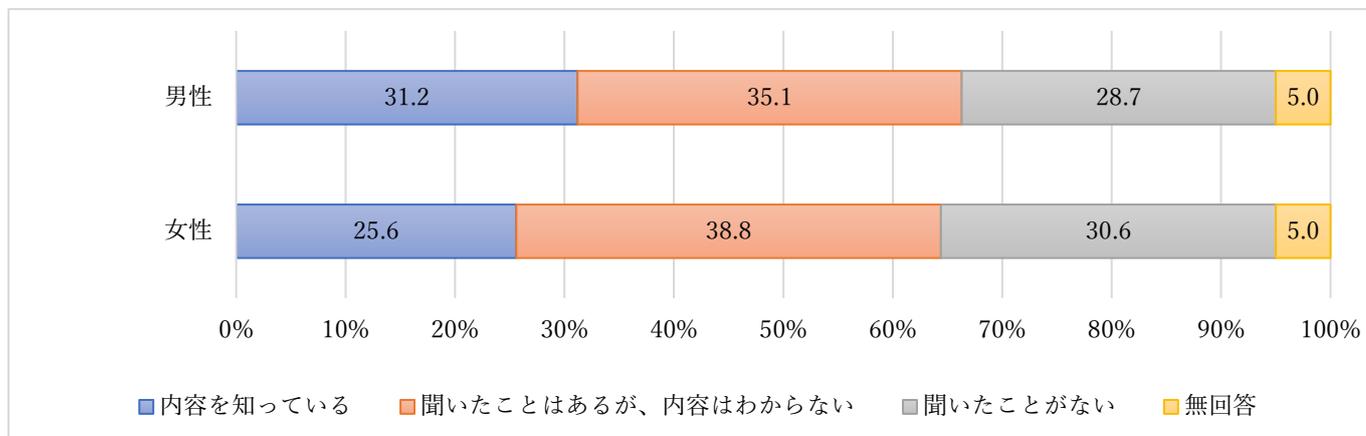


年齢別でみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”が最も高く36.4%となっています。

年代が高くなるにつれて「内容を知っている」と回答した方の割合が低くなり、「聞いたことがない」と回答した方の割合が高くなっています。

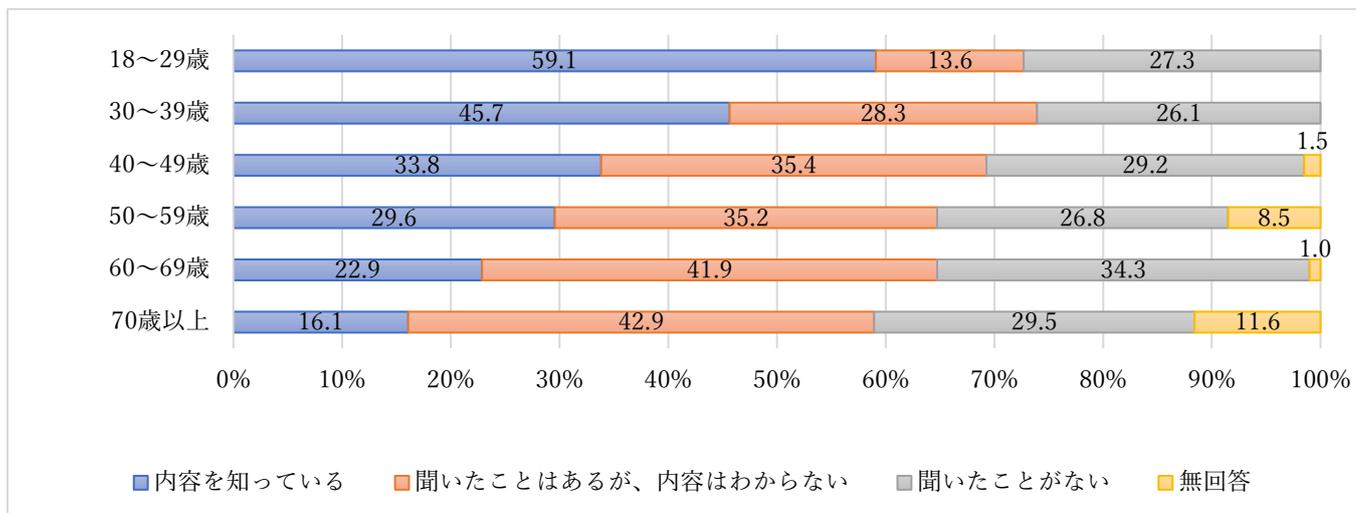
ケ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

① 性別



「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」については、「内容を知っている」と回答した方は、“男性”は、31.2%、“女性”は、25.6%となっており、“男性”の方が“女性”より5.6%高くなっています。

② 年齢

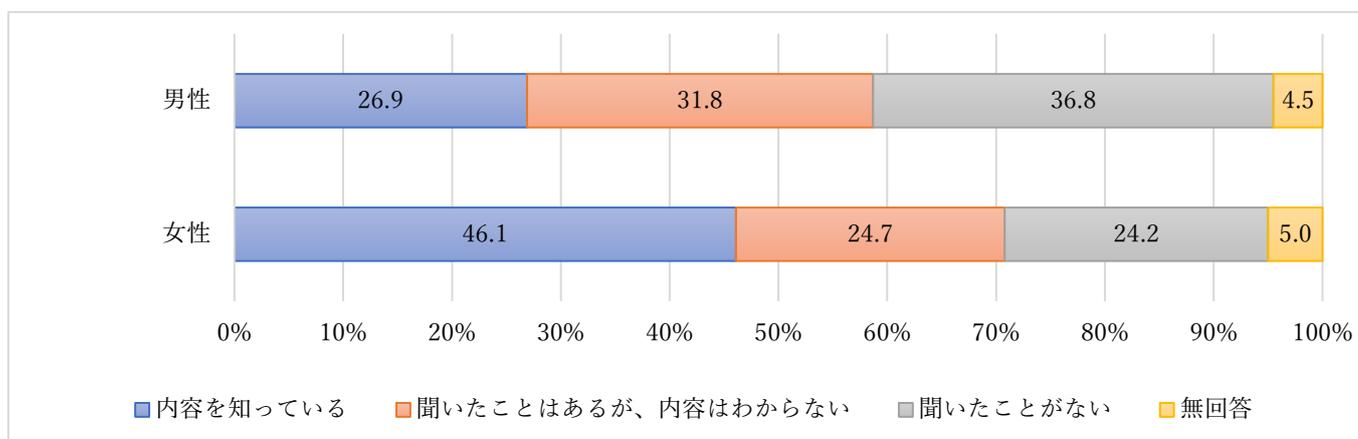


年齢別でみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、“18～29歳”が最も高く59.1%となっています。

年代が高くなるにつれて「内容を知っている」と回答した方の割合が低くなり、「聞いたことはあるが、内容はわからない」と回答した方の割合が高くなっています。

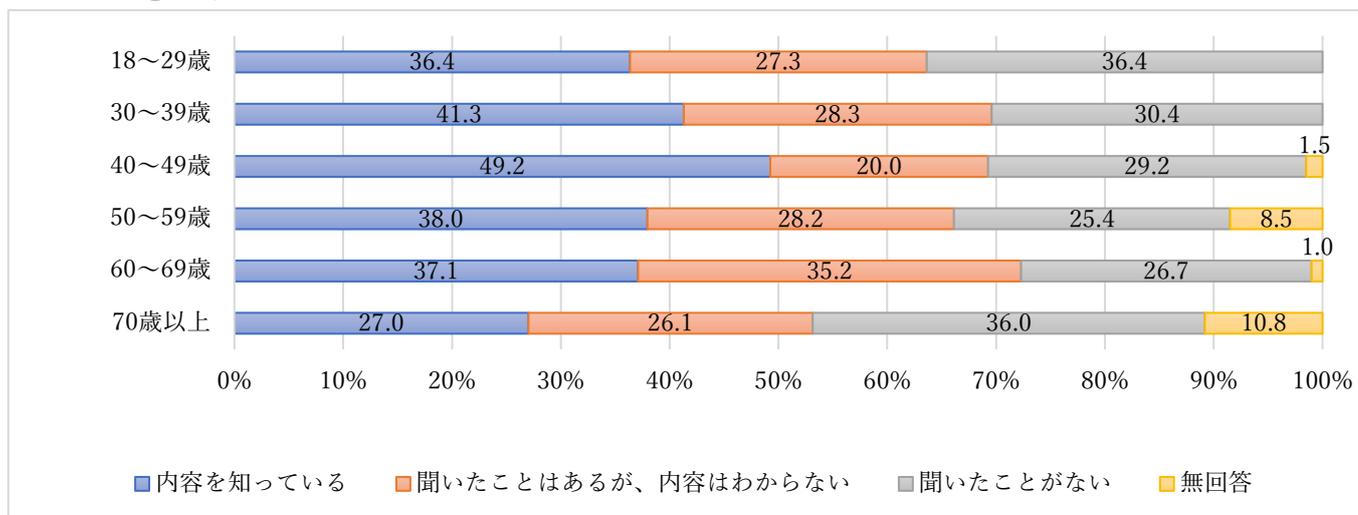
コ 生理の貧困

① 性別



「生理の貧困」については、「内容を知っている」と回答した方は、「男性」は、26.9%、「女性」は46.1%となっており、「女性」の方が「男性」より19.2%高くなっています。

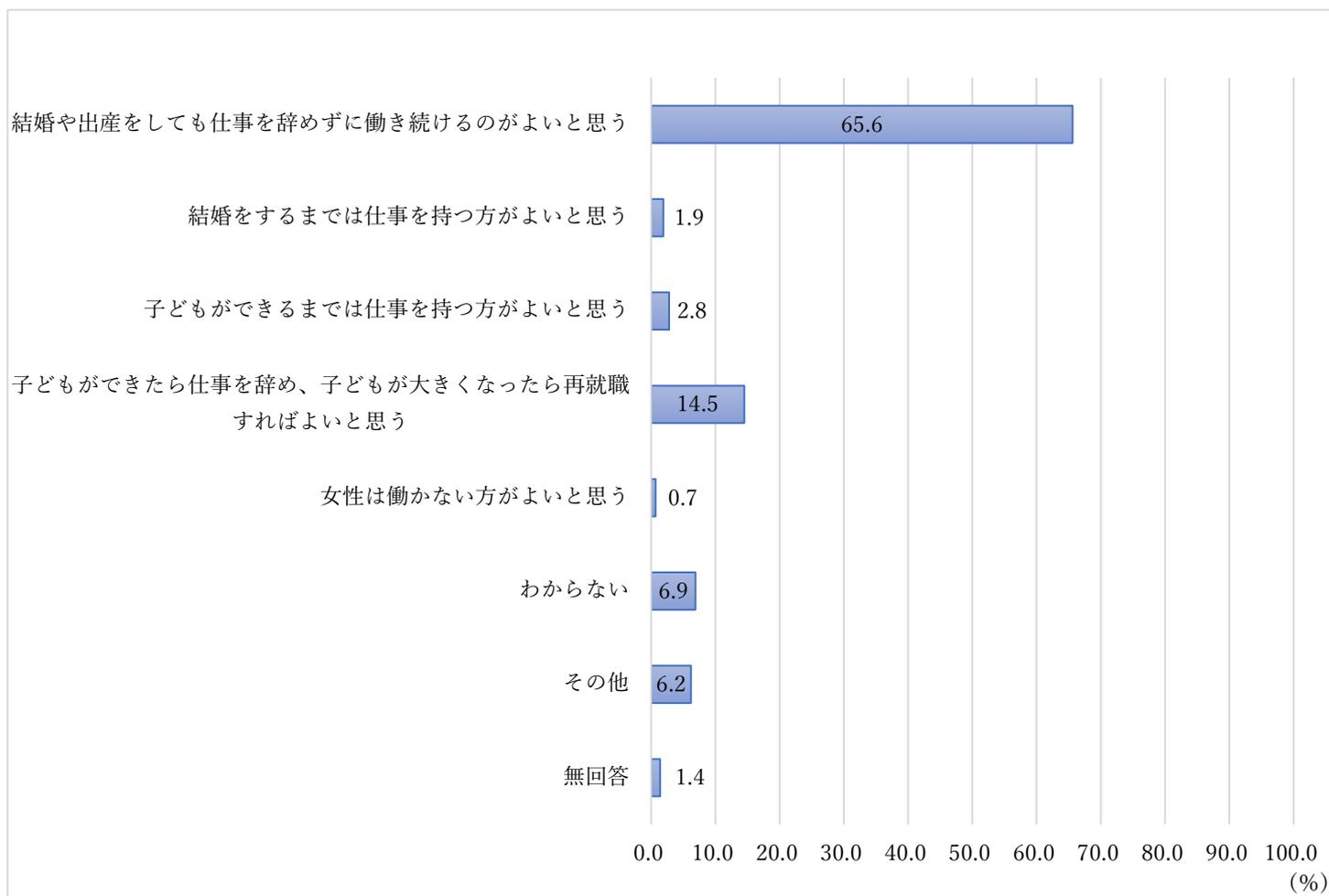
② 年齢



年齢別でみると「内容を知っている」と回答した方の割合は、「40～49歳」が最も高く49.2%となっています。

「聞いたことがない」と回答した方の割合は、「18～29歳」が最も高く36.4%となっています。

問 12 あなたは女性が社会に出て働くことについて、どう考えますか。(1つに○)



女性が社会に出て働くことについて、最も多いのは、「結婚や出産をしても仕事を辞めずに働き続けるのがよいと思う」(65.6%)となっており、次いで「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職すればよいと思う」(14.5%)、「わからない」(6.9%)の順で多くなっています。

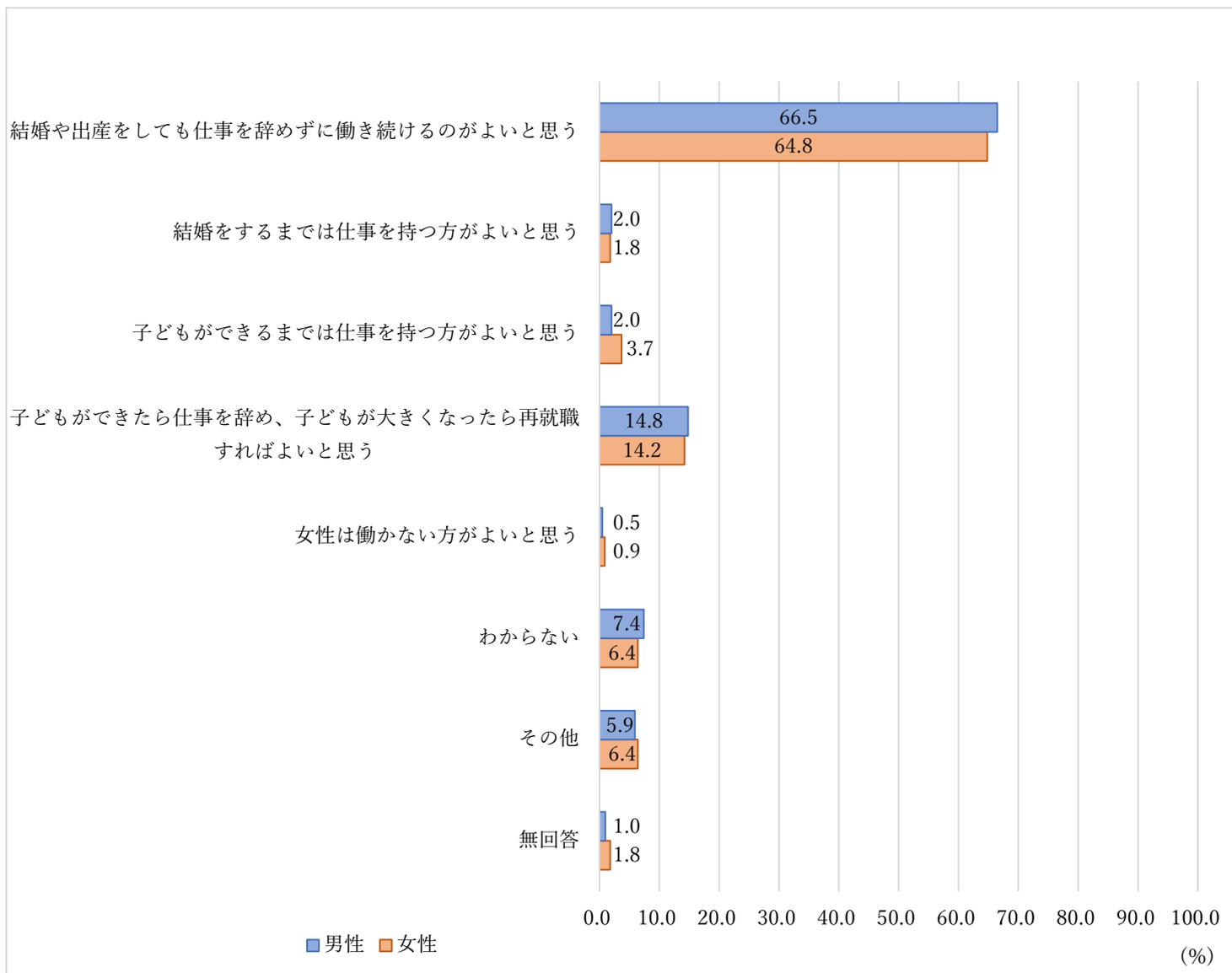
選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 結婚や出産をしても仕事を辞めずに働き続けるのがよいと思う	277	65.6
2 結婚をするまでは仕事を持つ方がよいと思う	8	1.9
3 子どもができるまでは仕事を持つ方がよいと思う	12	2.8
4 子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職すればよいと思う	61	14.5
5 女性は働かない方がよいと思う	3	0.7
6 わからない	29	6.9
7 その他	26	6.2
無回答	6	1.4
有効票数	422	100.0

【その他】

- ・「〇〇するのがよい」とは思わない。その人の家庭環境などいろいろ踏まえた上でですが、個人の自由だと思います。
- ・結婚や出産時の女性の意思を尊重すべきと思う。辞めずに働き続けるのが、男女平等とか共同参画社会かとは違うと思う。
- ・良いと思うが職種や個人各々の条件によると思うので 1 とは選択できない。
- ・男女問わず、働くことはあたりまえ。
- ・自分の意志で決めれば良い。
- ・各家庭の考えで行うことが大切。
- ・夫婦で話し合い協力出来るなら働く方が良い。
- ・仕事をする(続ける)ことは、個々の考え方や能力の違いがあるので一くくりでは語れない。
- ・その人ごとに状況が違うのでいちがいには言えないと思う。
- ・家庭の生活状態で異なる。
- ・個人の自由だと思う。
- ・1 と 4 で当事者の考え方により選択できる様にすれば良いと思う。
- ・各夫婦の考えによる。
- ・育児は女性にとって特別な実りある役目と思っています。子供は 1 才～3 才までは特に母親や父親の愛を必要とするものと、考えています。(個人的な経験から)
- ・働くことは、自立につながると思う。いつまで働くかは、決めなくていいのでは。
- ・それぞれの状況で決めればよいと思う。
- ・(家庭)生活内で働かざるを得ない人も居るので、回答の選択肢がみあたらないと思った。
- ・自分のペースで仕事を辞たり、働いたりでいいと思う。
- ・働くことができる環境と体力があれば働いた方が良い。
- ・各家庭の経済状況によると思います。

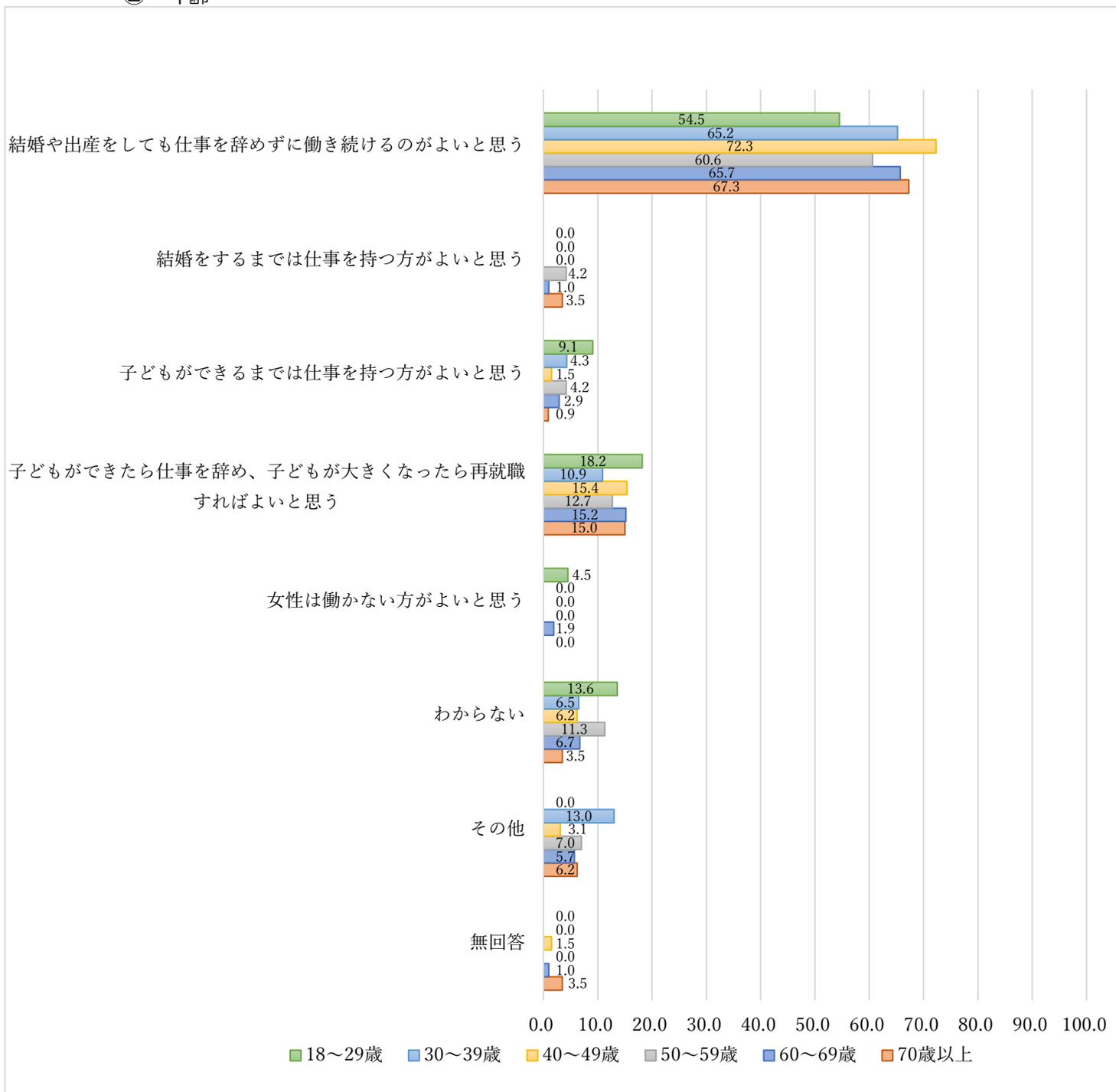
- 状況による。
- 個人の自由である。
- どちらも可。女性本人が決める事。
- 経済的に不安がなければ 4 がよいと思う。

① 性別



男女ともに「出産をしても仕事を辞めずに働き続けるのがよいと思う」が最も高く 60% 以上を占め、次いで「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職すればよいと思う」が高くなっています。

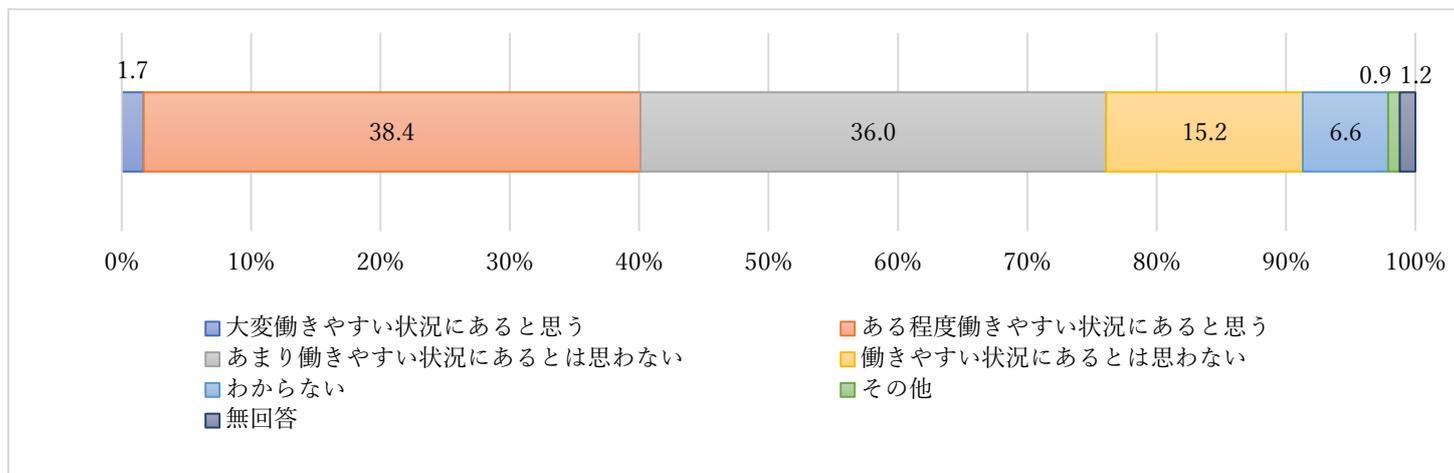
② 年齢



各年代で「結婚や出産をしても仕事を辞めずに働き続けるのがよいと思う」が高く半数以上を占めています。

次に多いのは“30~39歳”では、「その他」となっていますが、“30~39歳”以外の年代では、「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職すればよいと思う」が多くなっています。

問 13-1 現在の社会は、女性にとって働きやすいと思いますか。(1 つに〇)



現在の社会は、女性にとって働きやすいかどうかについて、最も多いのは、「ある程度働きやすい状況にあると思う」で38.4%となっており、次いで「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」(36.4%)、「働きやすい状況にあるとは思わない」(15.2%)の順で多くなっています。

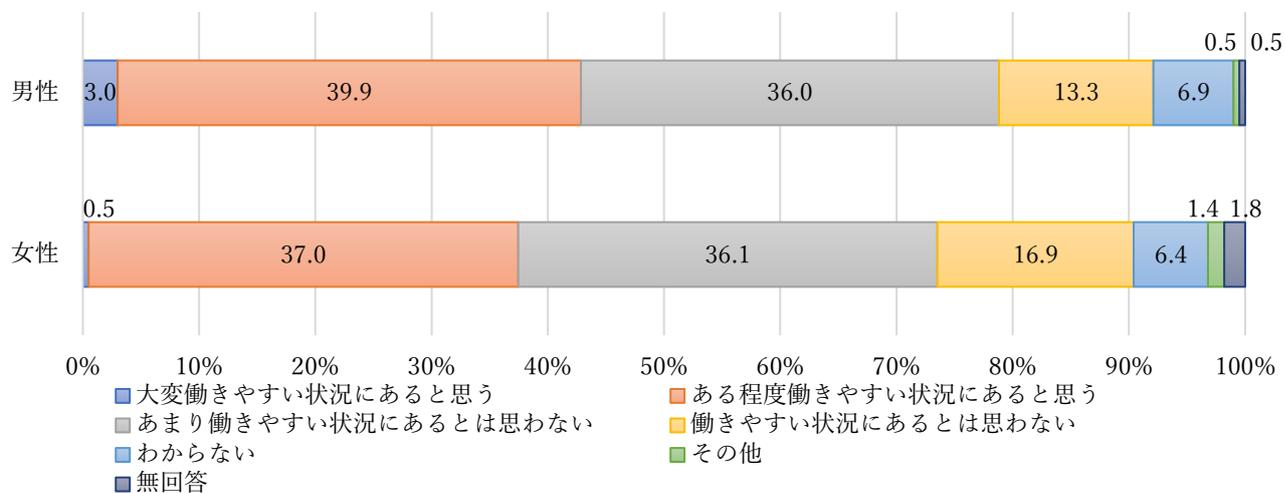
最も多い回答は、「ある程度働きやすい状況にあると思う」ですが、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」と「働きやすい状況にあるとは思わない」の計が半数以上を占めています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 大変働きやすい状況にあると思う	7	1.7
2 ある程度働きやすい状況にあると思う	162	38.4
3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない	152	36.0
4 働きやすい状況にあるとは思わない	64	15.2
5 わからない	28	6.6
6 その他	4	0.9
無回答	5	1.2
有効票数	422	100.0

【その他】

- 職場によって異なる。
- 職場によるのではないか。
- 昔より働きやすくなっていると思いますが、それに甘えている女性も多くなっていると思う。働く責任を自覚する女性をめざしてほしい。
- 働きやすいがどんな状態なのかがわからない・・・。

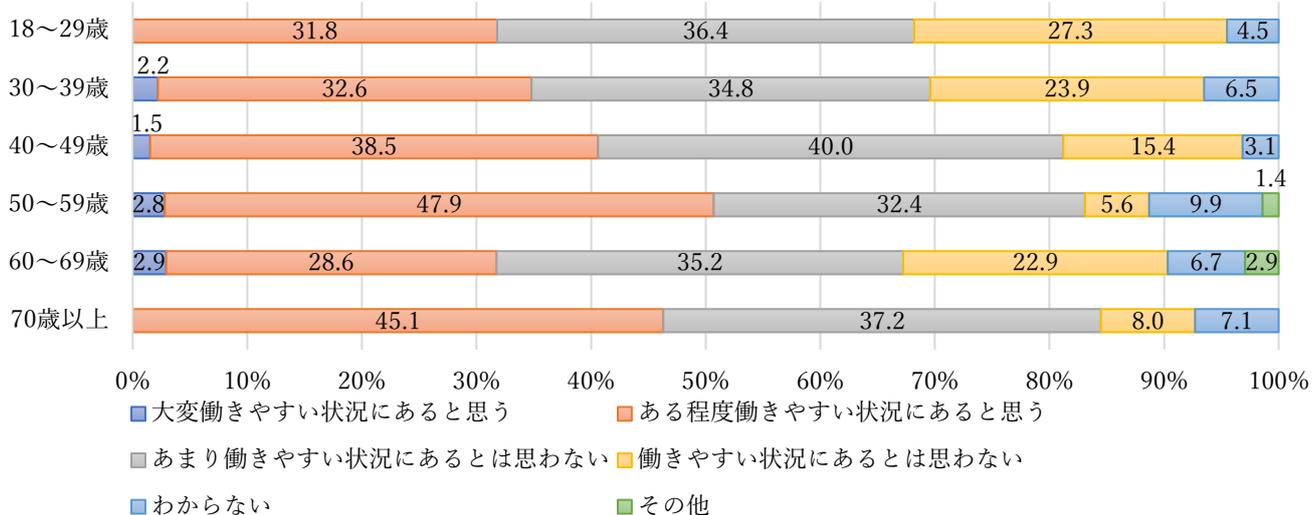
①性別



男女ともに「ある程度働きやすい状況にあると思う」が最も高く、次いで「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」、「働きやすい状況にあるとは思わない」の順で高くなっています。

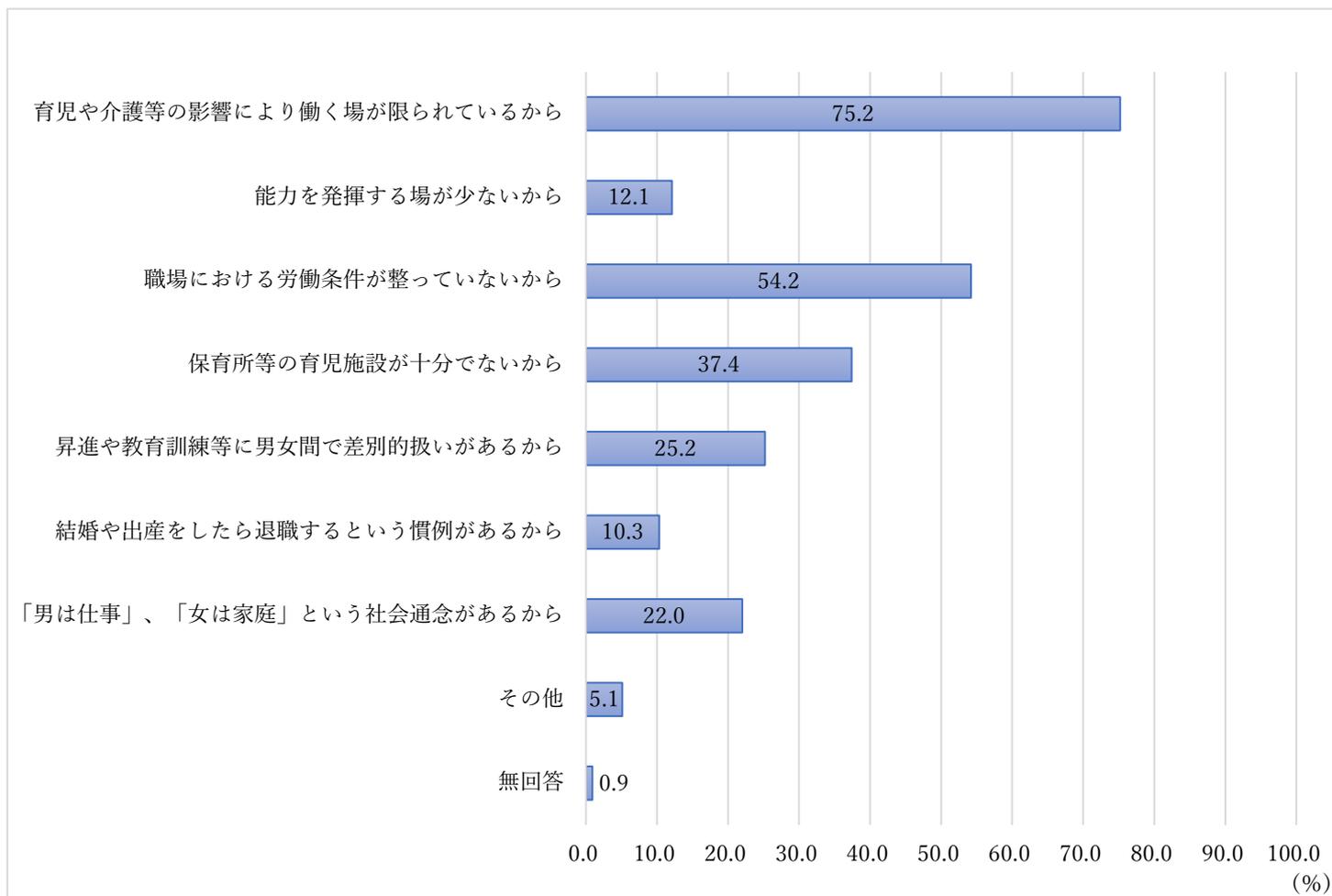
「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」・「働きやすい状況にあるとは思わない」と回答した方は、男女ともに半数近くを占めています。

② 年齢



年代別でみると最も多い回答は、“50～59歳”、“70歳以上”は、「ある程度働きやすい状況にあると思う」となっておりますが、その他の年代では、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」となっています。

問 13-2 問 13-1 で「3.あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または、「4.働きやすい状況にあるとは思わない」と回答した方にお伺いします。それはどのような理由からですか。(3 つまで〇)



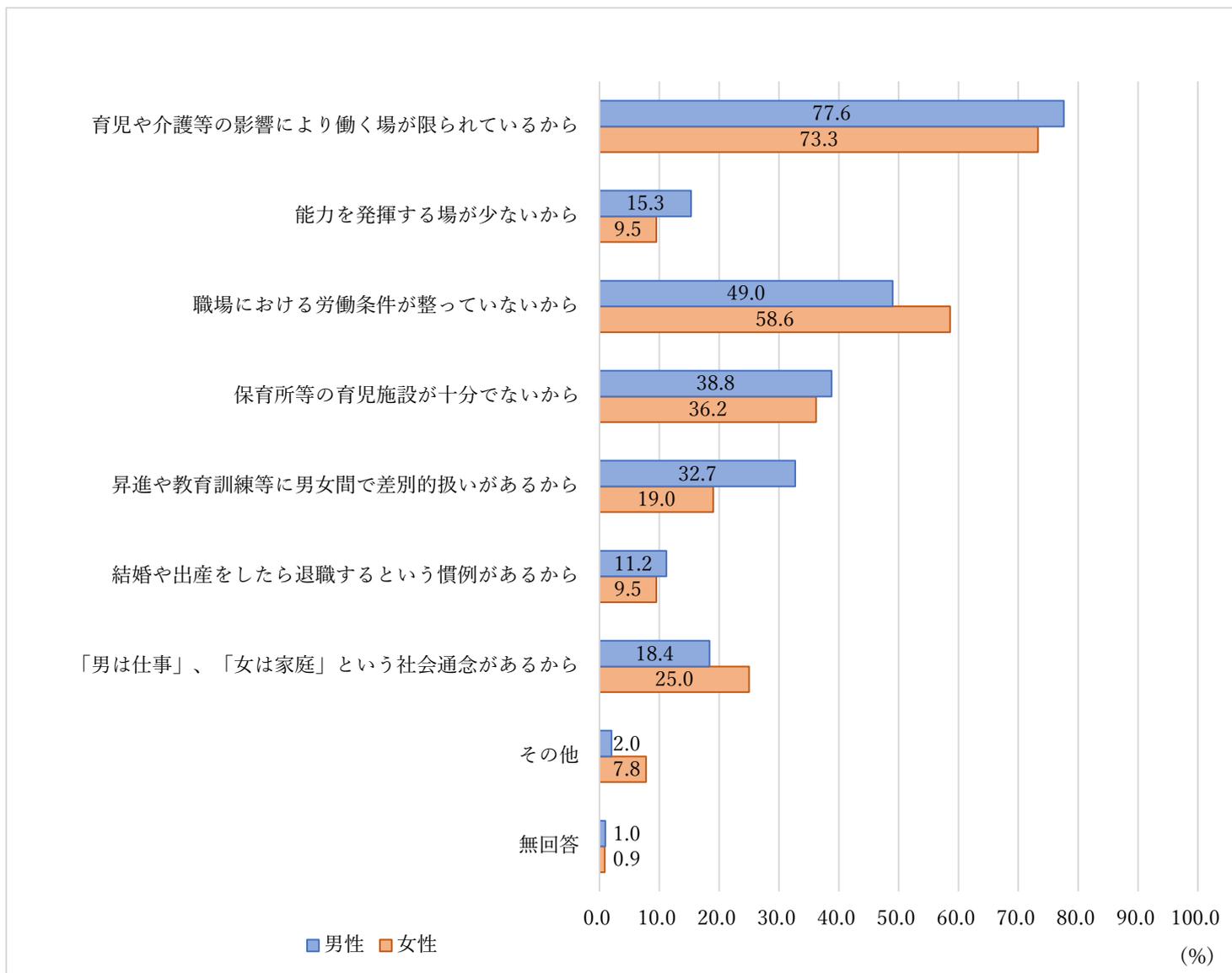
女性が働きやすい状況にあるとは思わない理由について最も多いのは、「育児や介護等の影響により働く場が限られているから」(75.2%)となっており、次いで「職場における労働条件が整っていないから」(54.2%)、「保育所等の育児施設が十分でないから」(37.4%)の順で多くなっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 育児や介護等の影響により働く場が限られているから	161	75.2
2 能力を発揮する場が少ないから	26	12.1
3 職場における労働条件が整っていないから	116	54.2
4 保育所等の育児施設が十分でないから	80	37.4
5 昇進や教育訓練等に男女間で差別的扱いがあるから	54	25.2
6 結婚や出産をしたら退職するという慣例があるから	22	10.3
7 「男は仕事」、「女は家庭」という社会通念があるから	47	22.0
8 その他	11	5.1
無回答	2	0.9
有効票数	214	100.0

【その他】

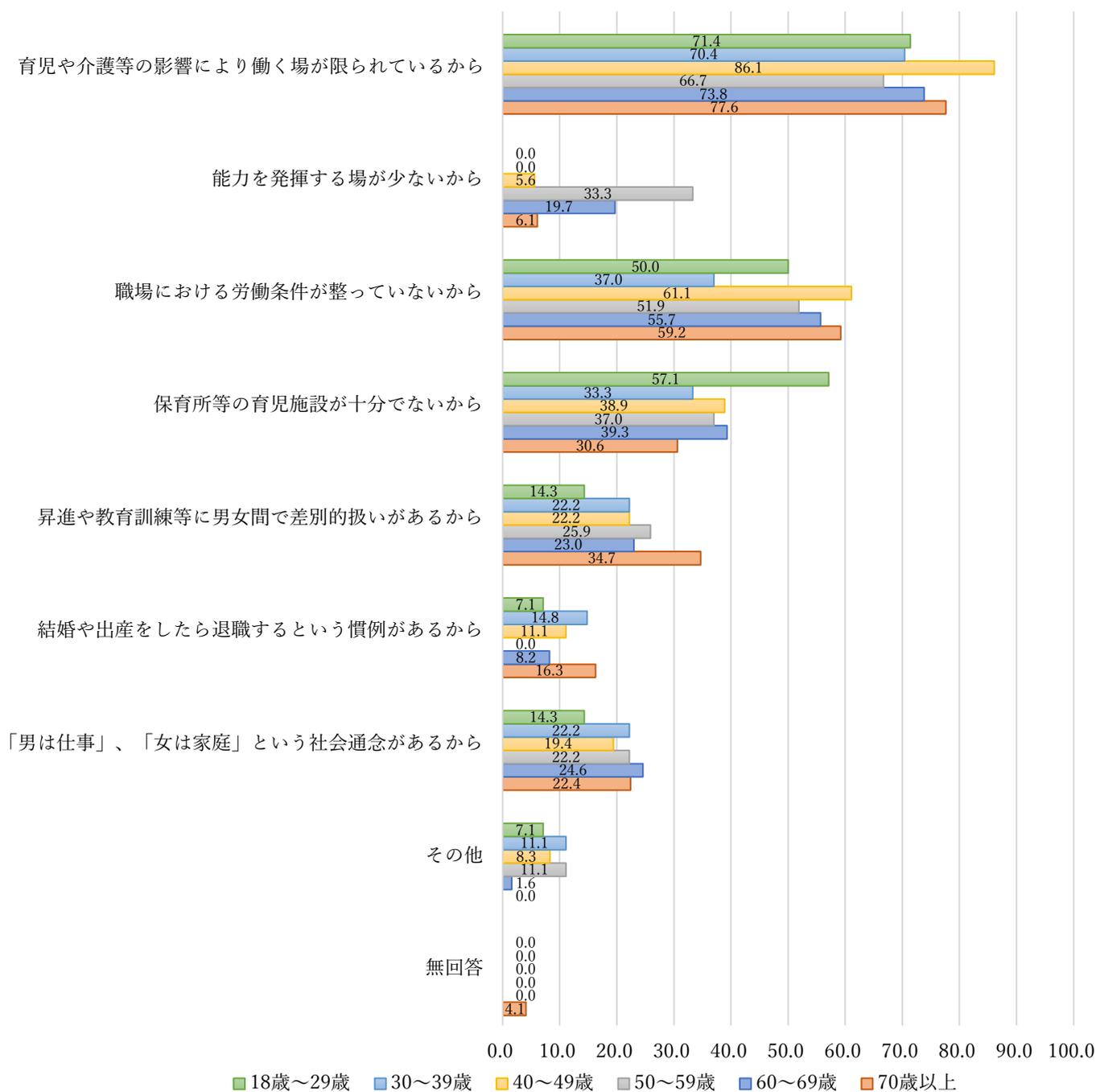
- 女性は弱者として見られやすい。(立場が弱い)
- 子供にとって母親は家に居た方がイイ。
- 職場の理解不足。子どもの体調不良時、休むような制度はあるが、上司が理解して協力してくれないと使えない。休むと嫌な顔をされる。傷つくような言葉をかけられる。制度が整っているだけではダメだと思う。子どもの体調不良で心配な上に職場で嫌な思いをすると(休むと)子どもを何人も産もうという気になれない。少子化が進むのも納とくする。
- 正社員とパートの差が多すぎる。パートの方が社員よりずっと働いている。
- 子供がいると急に休まざらなければならないときに休みづらい。
- 7のような考えの人間が上の立場にいる限り変わらないから。
- 仕事を休みづらい(子ども体調不良の時)。
- 年齢不問とあっても現実には違う会社がある。
- 家族の協力がなかなか得られないから。子供が急な病気、けがなどへの対応。
- 男女で給料の差が有る。

① 性別



男女ともに「育児や介護等の影響により働く場が限られているから」が最も高く、次いで「職場における労働条件が整っていないから」、「保育所などの育児施設が十分でないから」の順で高くなっています。

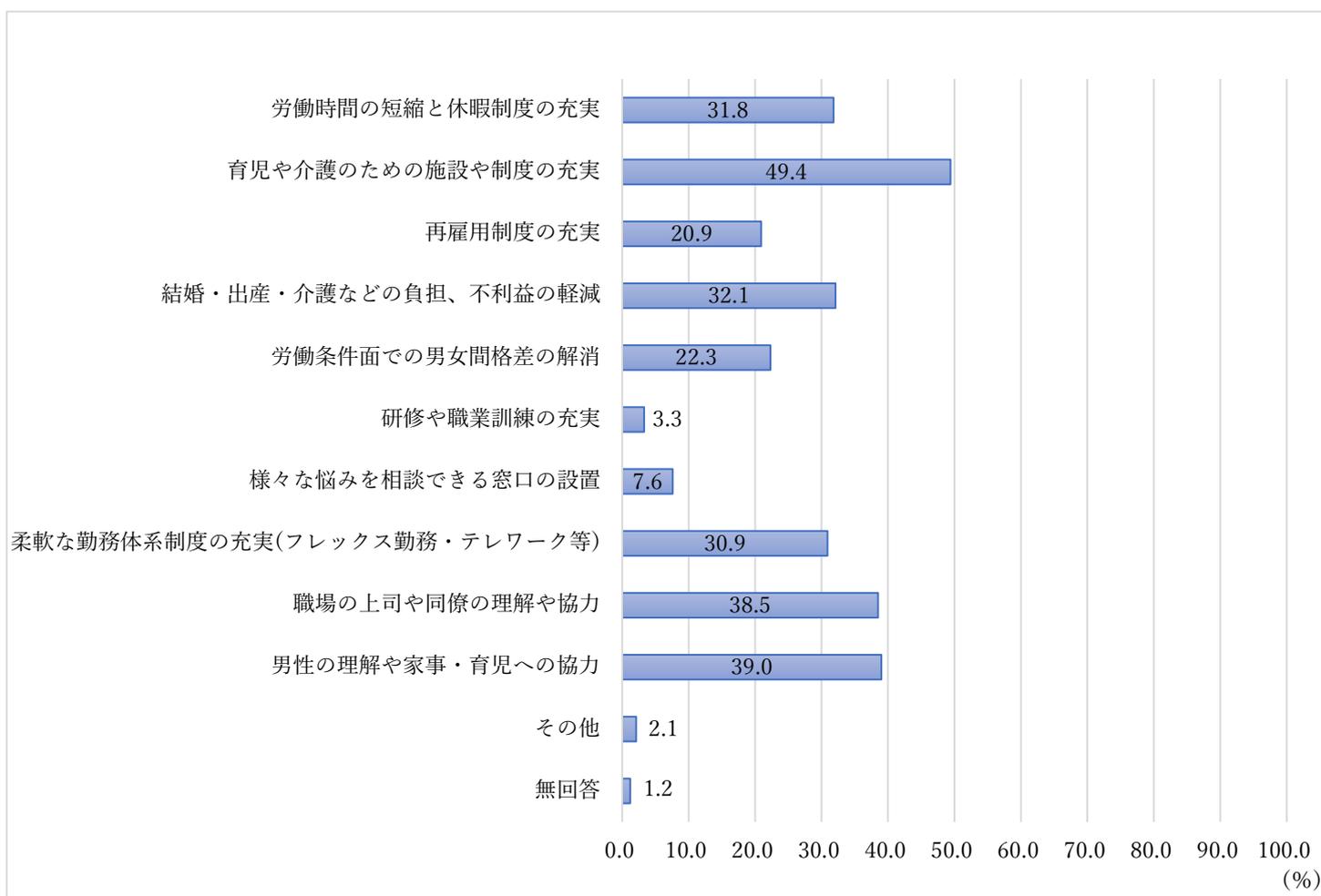
② 年齢



すべての年代で「育児や介護等の影響により働く場が限られているから」が最も高く回答の6割以上を占めています。

次いで高いのは、「18～29歳」は、「保育所等の育児施設が十分でないから」となっており、30歳以上の年代では、すべての年代で「職場における労働条件が整っていないから」となっています。

問 14 今よりも女性が働きやすくなるためには、どんなことが必要だと思いますか。(3 つまで)



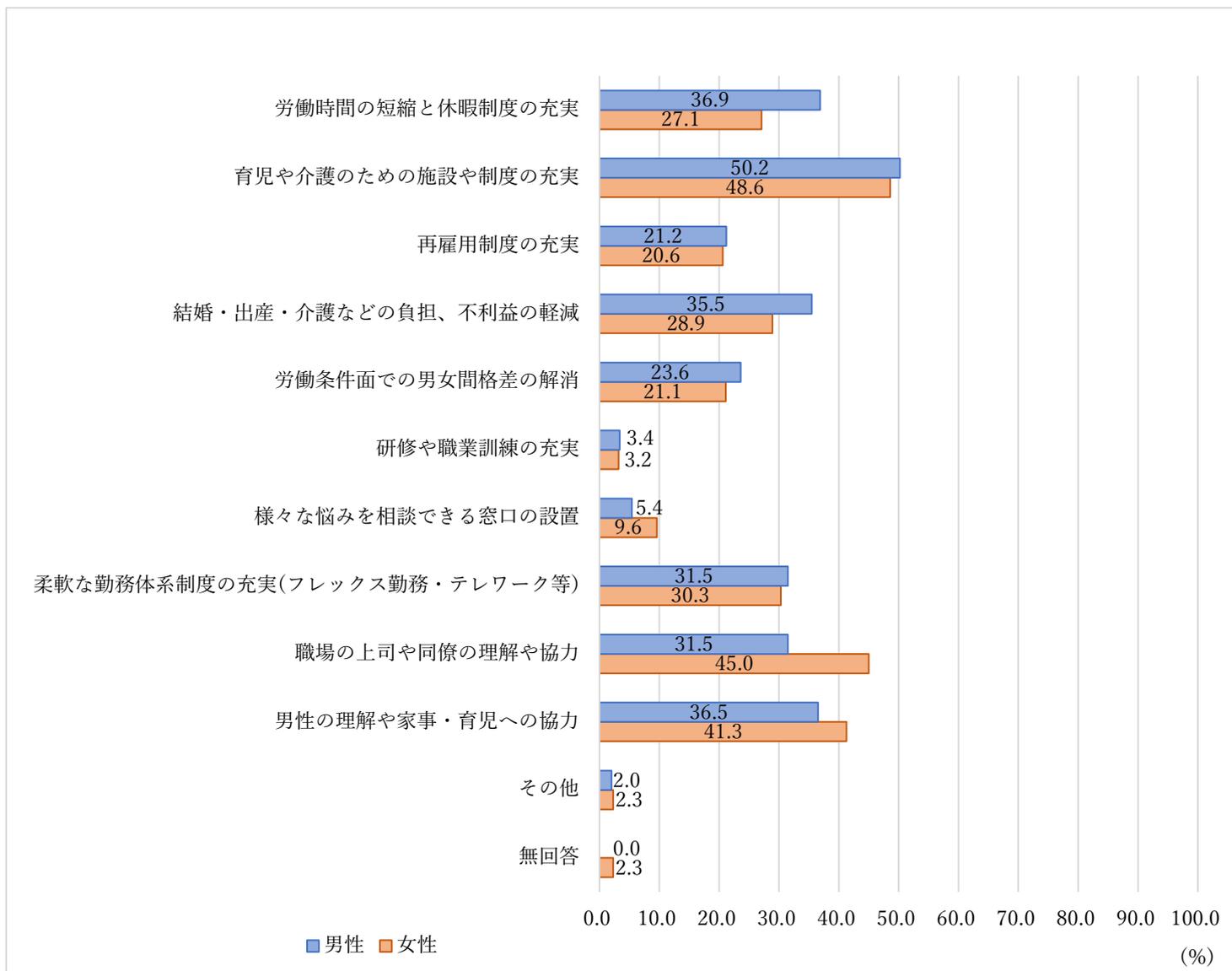
今よりも女性が働きやすくなるために必要なことについて最も多いのは、「育児や介護のために施設や制度の充実」(49.4%)となっており、次いで「男性の理解や家事・育児への協力」(39.4%)、「職場の上司や同僚の理解や協力」(38.5%)の順で多くなっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 労働時間の短縮と休暇制度の充実	134	31.8
2 育児や介護のための施設や制度の充実	208	49.4
3 再雇用制度の充実	88	20.9
4 結婚・出産・介護などの負担、不利益の軽減	135	32.1
5 労働条件面での男女間格差の解消	94	22.3
6 研修や職業訓練の充実	14	3.3
7 様々な悩みを相談できる窓口の設置	32	7.6
8 柔軟な勤務体系制度の充実(フレックス勤務・テレワーク等)	130	30.9
9 職場の上司や同僚の理解や協力	162	38.5
10 男性の理解や家事・育児への協力	164	39.0
11 その他	9	2.1
無回答	5	1.2
有効票数	421	100.0

【その他】

- どんな仕事でも働いただけ良しと思え。
- 育児休暇を取得しても育児のみするのでは全く意味がないと思うから。女性が仕事をして帰宅したあとの負担が増えることが予想されるから。
- 戦前、戦中派の人達の考え方が、今だに社会に根強くありそれを若い世代が普通だと思ってしまうことが問題。要するに老害の排除が必要。
- 職場の人数不足。
- 性別にとらわれない環境の創出。
- 女性だけ優遇される。
- 本人の努力。
- 働きやすいかどうかは仕事内容にもよると思う。女性が働きやすい場合もある。
- わからない。

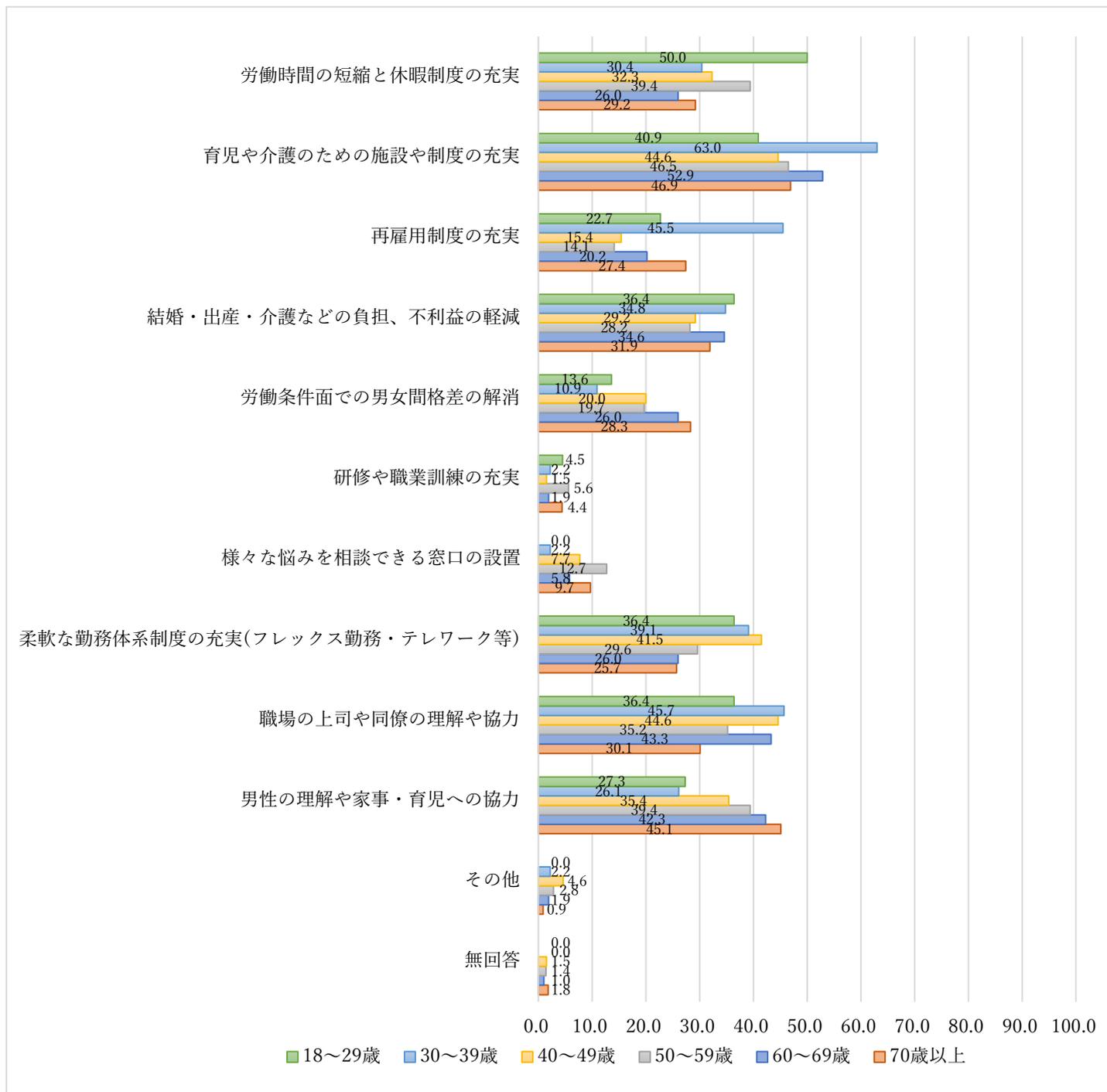
① 性別



男女ともに「育児や介護のための施設や制度の充実」が最も高くなっており、およそ半数を占めています。

次いで高いのは、男性は、「労働時間の短縮と休暇制度の充実」、「男性の理解や家事・育児への協力」となっており、女性では、「職場の上司や同僚の理解や協力」、「男性の理解や家事・育児への協力」となっています。

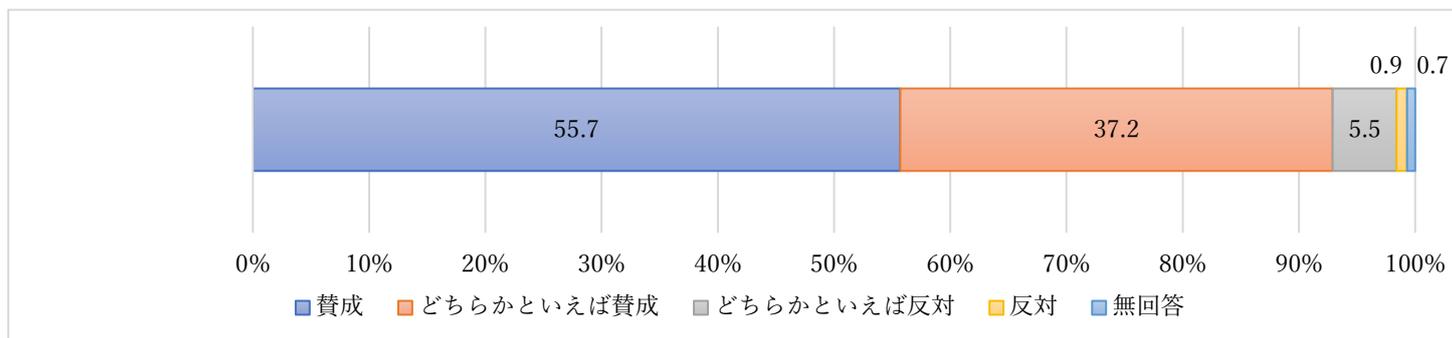
② 年齢



年代別にみると「育児や介護のための施設や制度の充実」がすべての年代で高い傾向にあり、すべての年代で回答の4割以上を占めています。

“18~29歳”で最も高いのは、「労働時間の短縮と休暇制度の充実」となり、その他の年代では、「職場の上司や同僚の理解や協力」や「男性の理解や家事・育児への協力」が高い傾向にあります。

問 15-1 あなたは男性が育児休暇を取得することについて、どう思いますか。(1つに○)

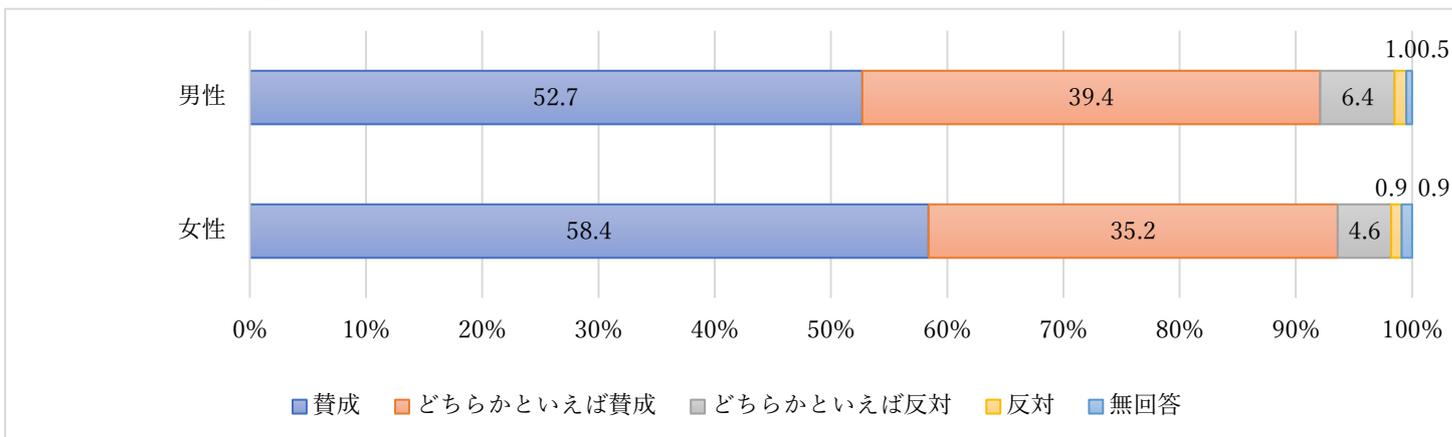


男性が育児休暇を取得することについて最も多いのは、「賛成」で 55.7%となり、次いで「どちらかといえば賛成」(37.2%)となっています。

「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した方は、全体の9割以上を占めています。

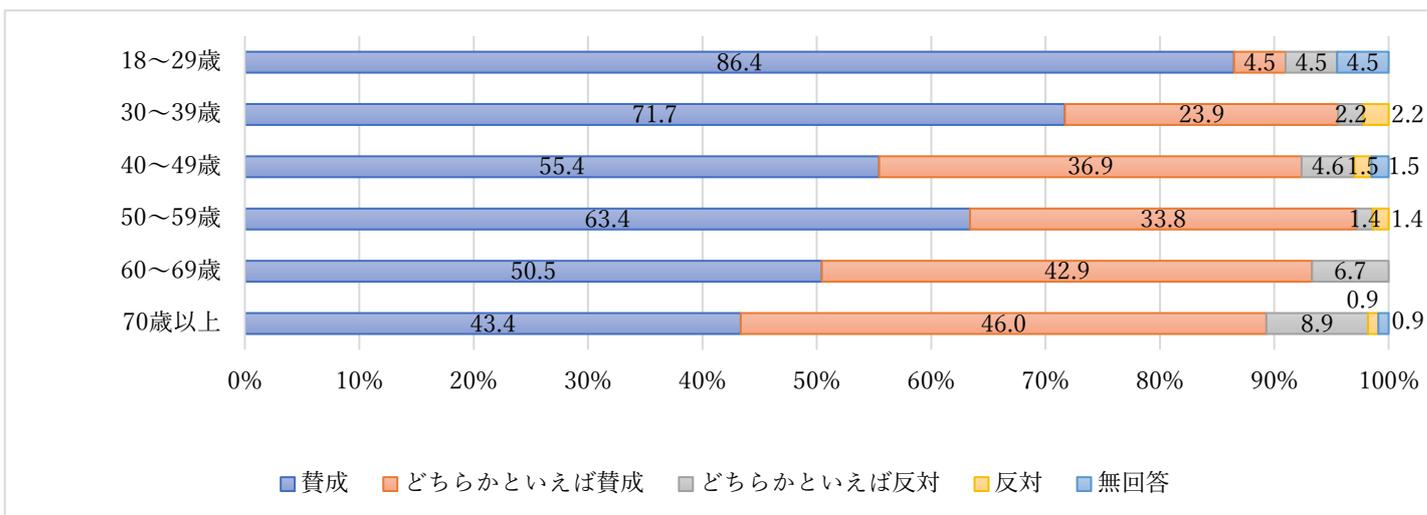
選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 賛成	235	55.7
2 どちらかといえば賛成	157	37.2
3 どちらかといえば反対	23	5.5
4 反対	4	0.9
無回答	3	0.7

① 性別



男女ともに「賛成」が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」となっています。「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した方は、男女ともに9割以上を占めています。

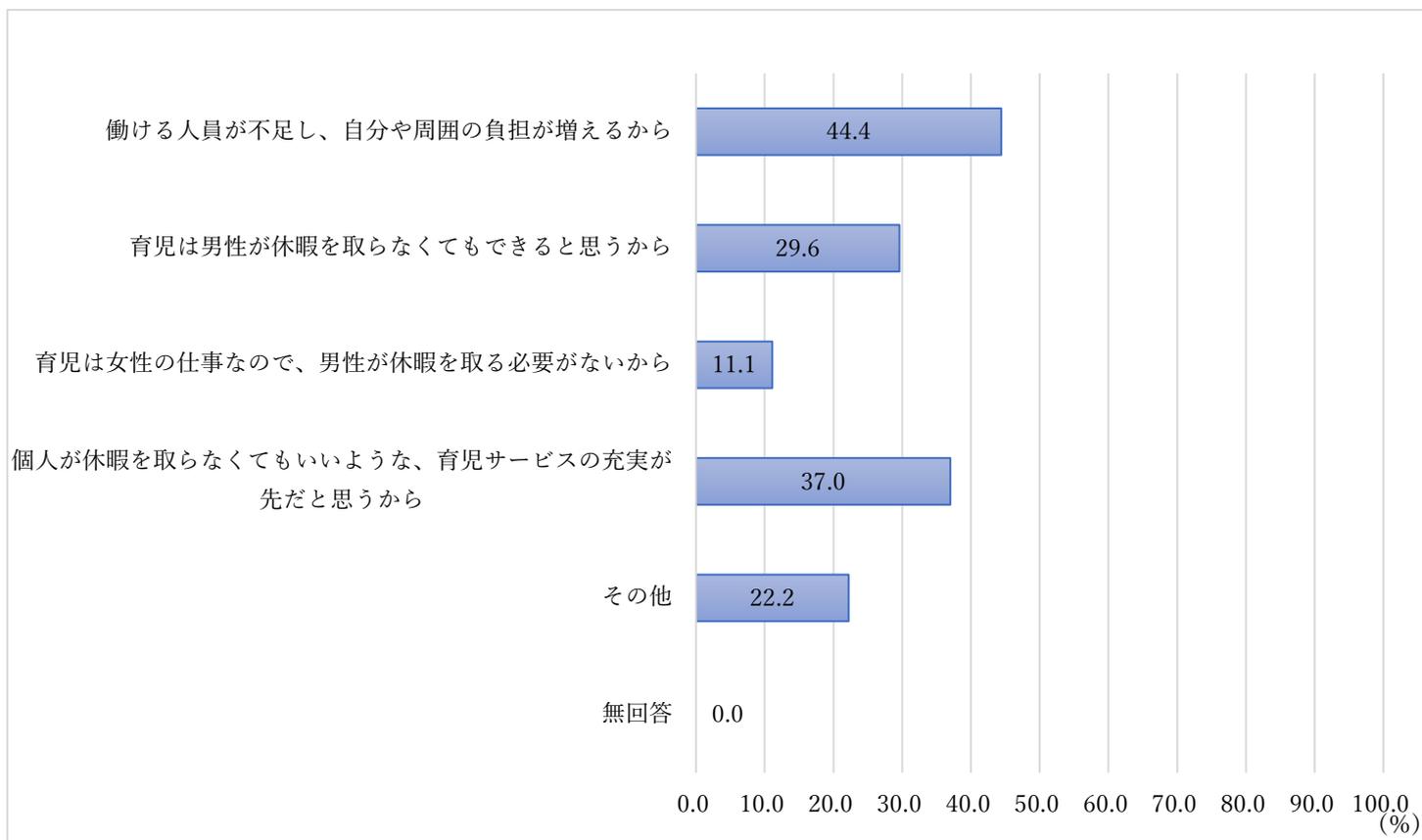
② 年齢



年代別でみると“70歳以上”では「どちらかといえば賛成」が最も高くなっていますが、その他の年代では、「賛成」が最も高くなっています。

年代が高くなるにつれて「賛成」と回答した方の割合は低くなり、「どちらかといえば賛成」と回答した方が高くなる傾向がみられます。

問 15-2 問 15-1 で「3.どちらかといえば反対」または、「4.反対」と回答した方にお伺いします。それはどのような理由からですか。(2 つまで〇)



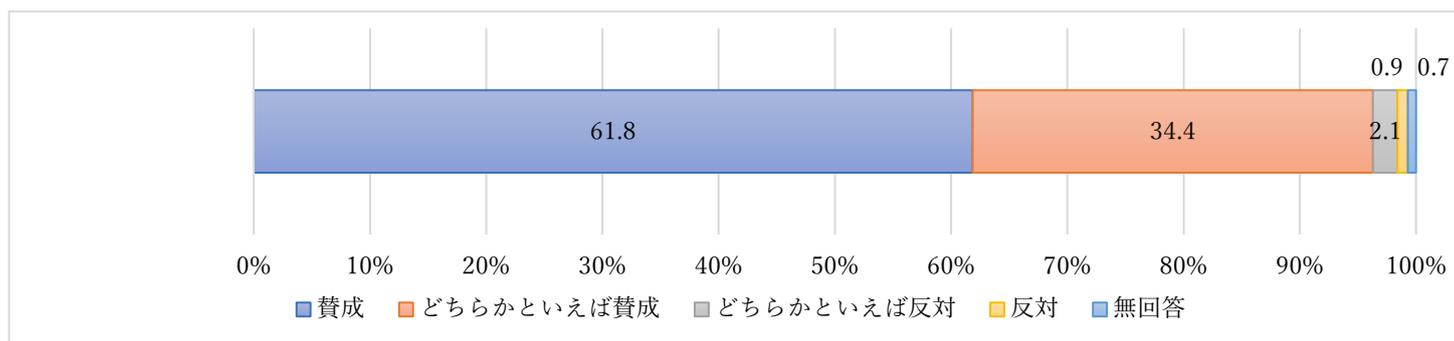
男性が育児休暇を取得することに反対する理由について最も多いのは、「働ける人員が不足し、自分や周囲の負担が増えるから」(44.4%)となっており、次いで「個人が休暇を取らなくてもいいような、育児サービスの充実が先だと思うから」(37.0%)となっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 働ける人員が不足し、自分や周囲の負担が増えるから	12	44.4
2 育児は男性が休暇を取らなくてもできると思うから	8	29.6
3 育児は女性の仕事なので、男性が休暇を取る必要がないから	3	11.1
4 個人が休暇を取らなくてもいいような、育児サービスの充実が先だと思うから	10	37.0
5 その他	6	22.2
無回答	0	0.0
有効票数	27	100.0

【その他】

- 男性が育児休暇を取っても育児の役に(あまり)立たない。ずる休みのようになるから。
- 子供は2人で作ったので2人の責任。
- すべて会社勤めに関する事。漁業生活には関係ないと思う。
- 育児と夫の世話で負担が増すと思うから。
- 男性が育児休暇を利用して、女性の負担軽減になっているかわからないから。

問 16-1 あなたは男性が介護休暇を取得することについて、どう思いますか。(1つに○)

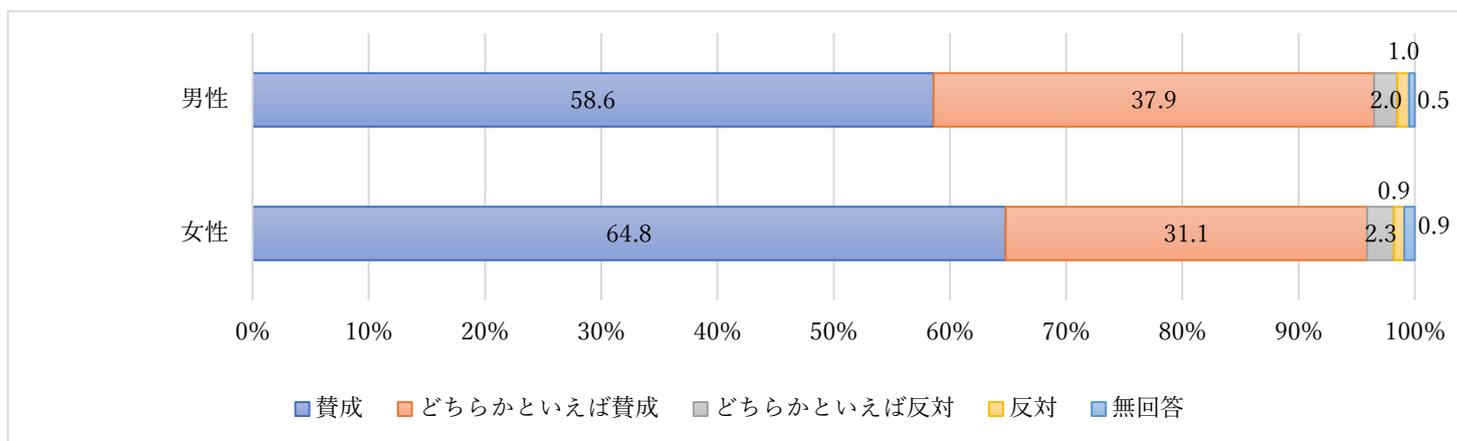


男性が介護休暇を取得することについて最も多いのは、「賛成」(61.8%)となり、次いで「どちらかといえば賛成」(34.4%)となっています。

「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した方は、全体の9割以上を占めています。

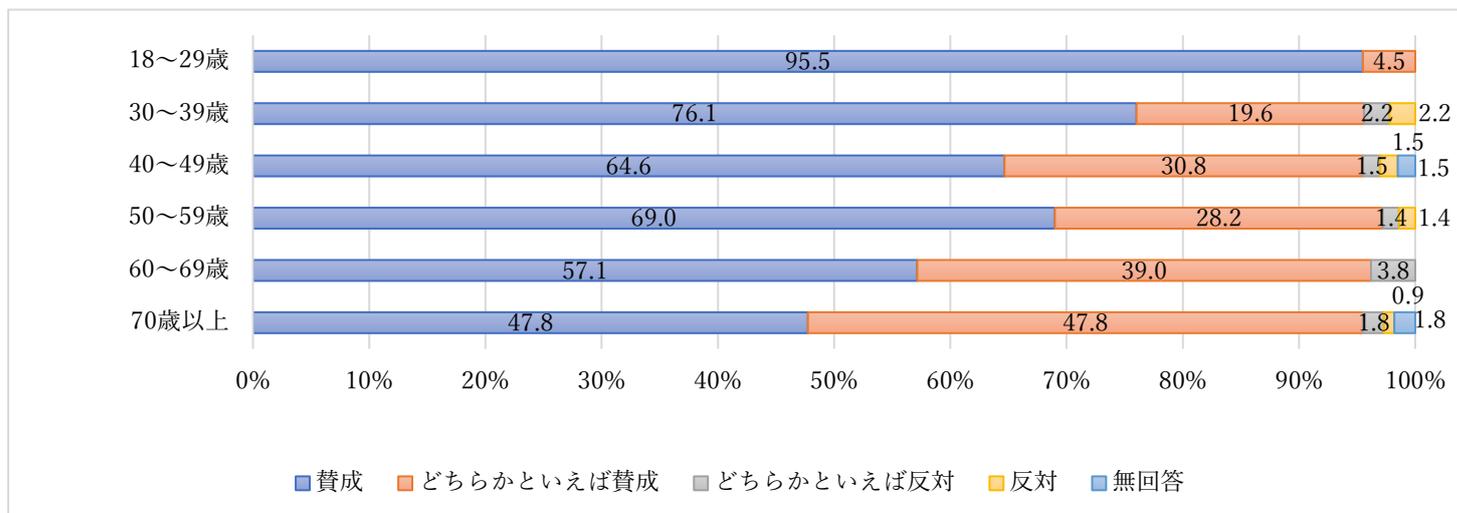
選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 賛成	261	61.8
2 どちらかといえば賛成	145	34.4
3 どちらかといえば反対	9	2.1
4 反対	4	0.9
無回答	3	0.7

① 性別



男女ともに「賛成」が最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」となっています。「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した方は、男女ともに9割以上を占めています。

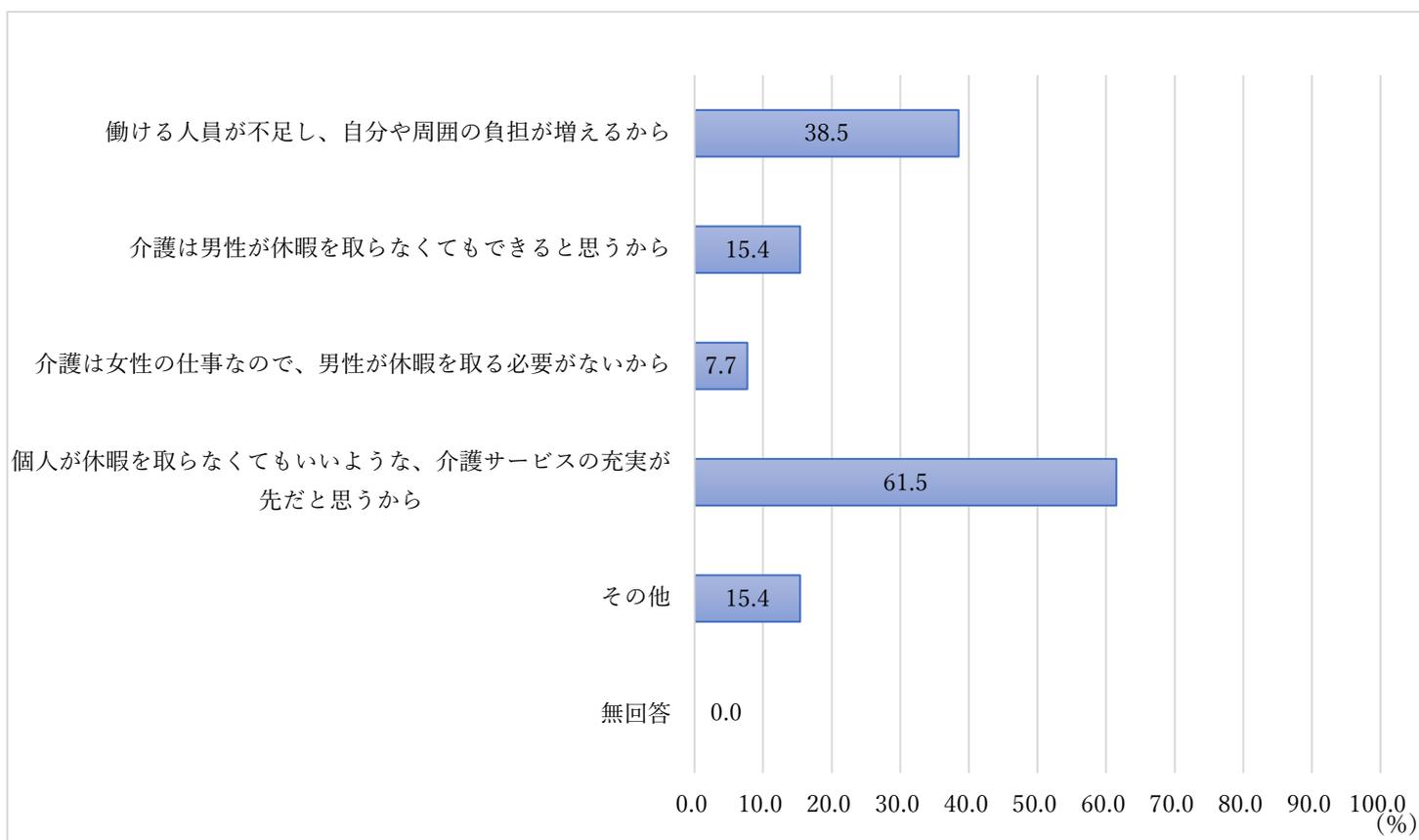
② 年齢



年代別でみると“70歳以上”では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」が同数で最も高くなっていますが、その他の年代では、「賛成」が最も高くなっています。

年代が高くなるにつれて「賛成」と回答した方の割合は低くなり、「どちらかといえば賛成」と回答した方の割合が高くなる傾向がみられます。

問 16-2 問 16-1 で「3.どちらかといえば反対」または、「4.反対」と回答した方にお伺いします。それはどのような理由からですか。(2 つまで)



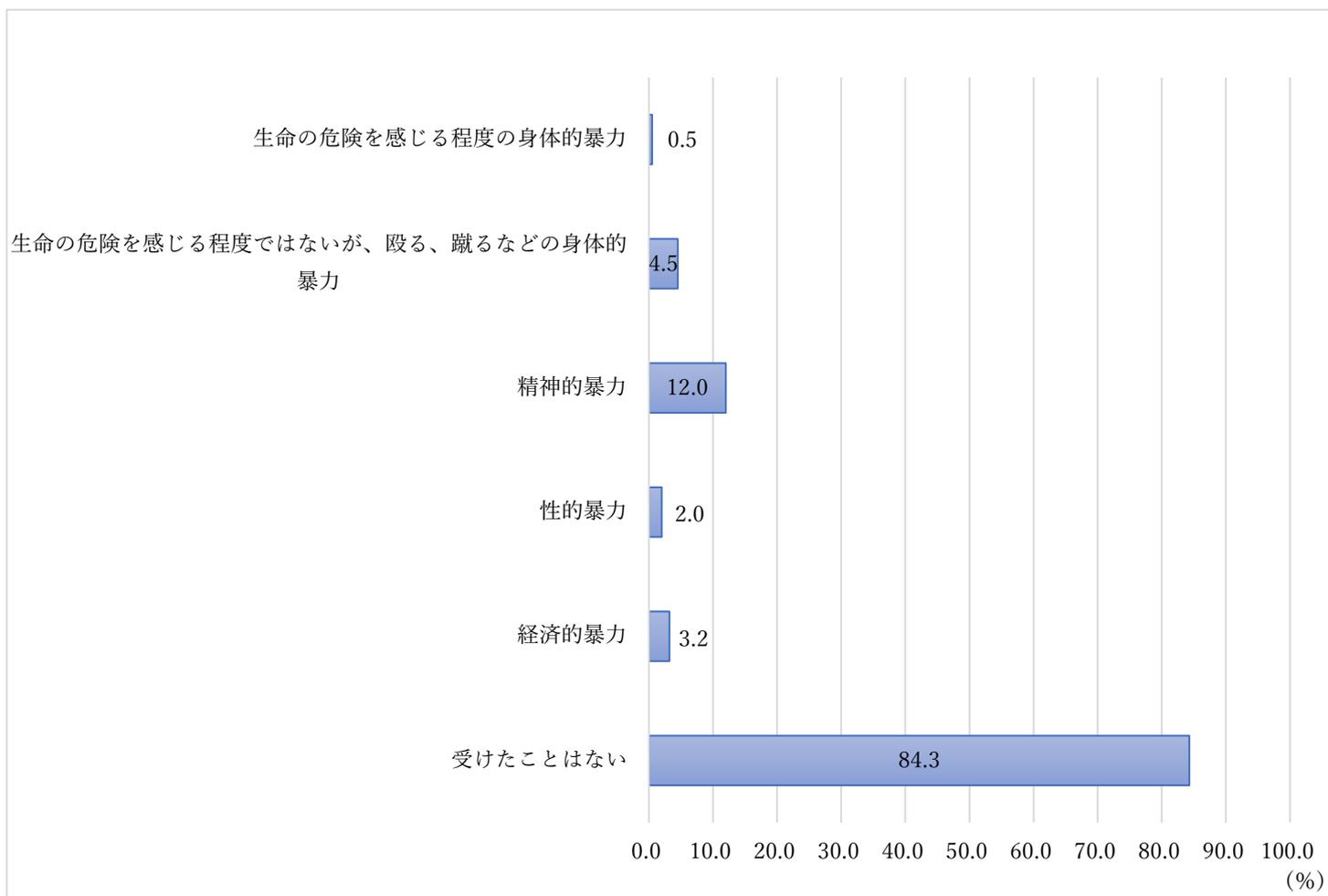
男性が介護休暇を取得することに反対する理由について最も多いのは、「個人が休暇を取らなくてもいいような介護サービスの充実が先だと思うから」(61.5%)となっており、次いで「働ける人員が不足し、自分や周囲の負担が増えるから」(38.5%)となっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 働ける人員が不足し、自分や周囲の負担が増えるから	5	38.5
2 介護は男性が休暇を取らなくてもできると思うから	2	15.4
3 介護は女性の仕事なので、男性が休暇を取る必要がないから	1	7.7
4 個人が休暇を取らなくてもいいような、介護サービスの充実が先だと思うから	8	61.5
5 その他	2	15.4
無回答	0	0.0
有効票数	13	100.0

【その他】

- ・釜石にどのような家族内容か？何さいの割合は？自分も行く道だもの。

問 17-1 あなたは、過去に、次にあげるDV(ドメスティック・バイオレンス)を受けたことがありますか。(いくつでも○)



配偶者やパートナーとの間でのDV経験について、最も多いのは「受けたことはない」(84.3%)となっています。

DVを受けたとの回答で最も多いのは、「精神的暴力」(12.0%)、次いで「生命の危険を感じる程度ではないが、殴る、蹴るなどの身体的暴力」(4.5%)の順で多くなっています。

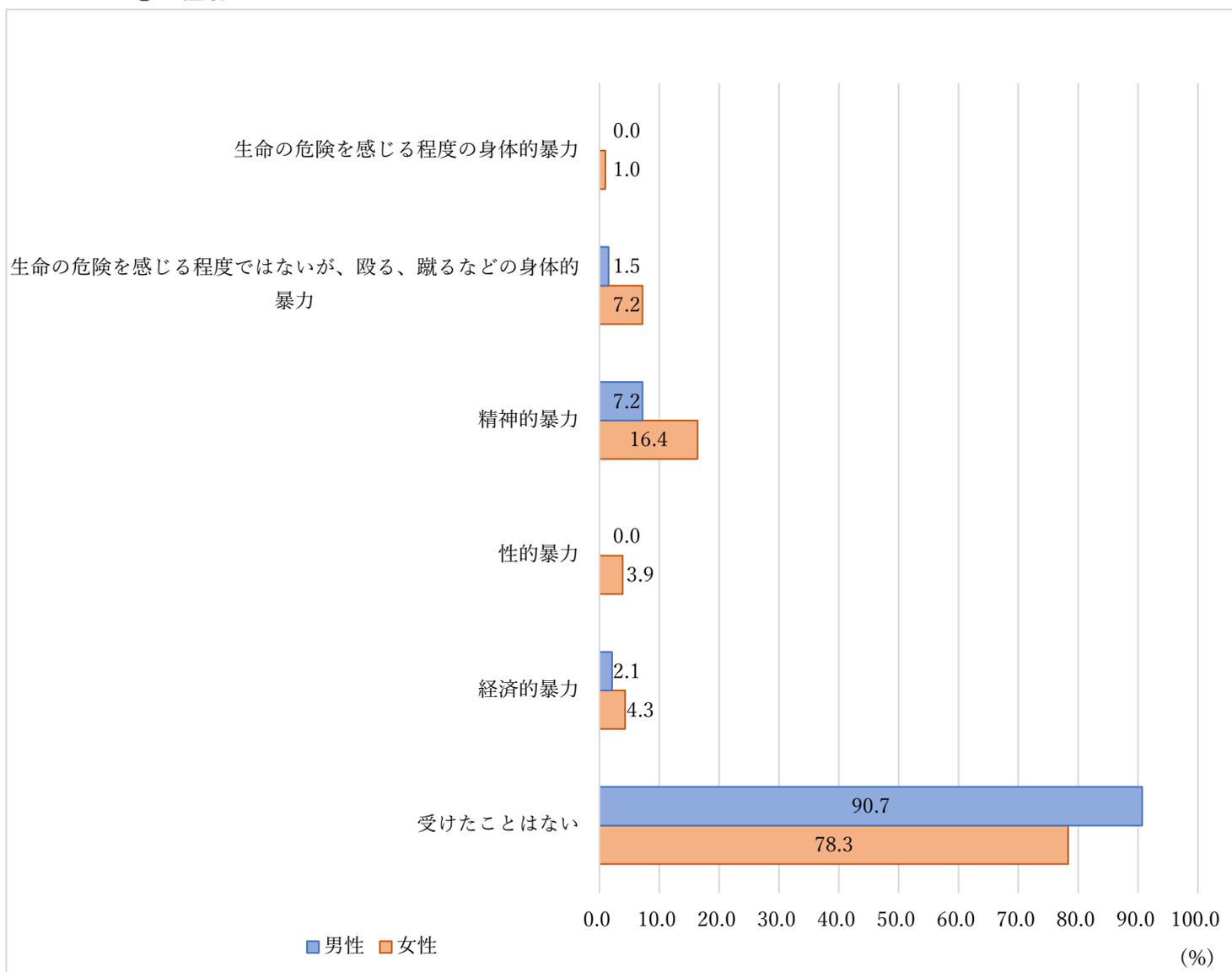
選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 生命の危険を感じる程度の身体的暴力	2	0.5
2 1に該当する程度ではないが、殴る、蹴るなどの身体的暴力	18	4.5
3 精神的暴力(※1)	48	12.0
4 性的暴力 (※2)	8	2.0
5 経済的暴力(※3)	13	3.2
6 受けたことはない	338	84.3
有効票数	401	100.0

※1・・・大声で怒鳴る、無視する、交友関係を制限する、電話やメールを無断でチェックするなど。

※2・・・嫌がっているのに性的行為を強要する、避妊に協力しない、見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せるなど

※3・・・生活費を渡さない、お金の使い方を細かく管理する、外で働くなと言ったり仕事を辞めさせたりするなど

① 性別

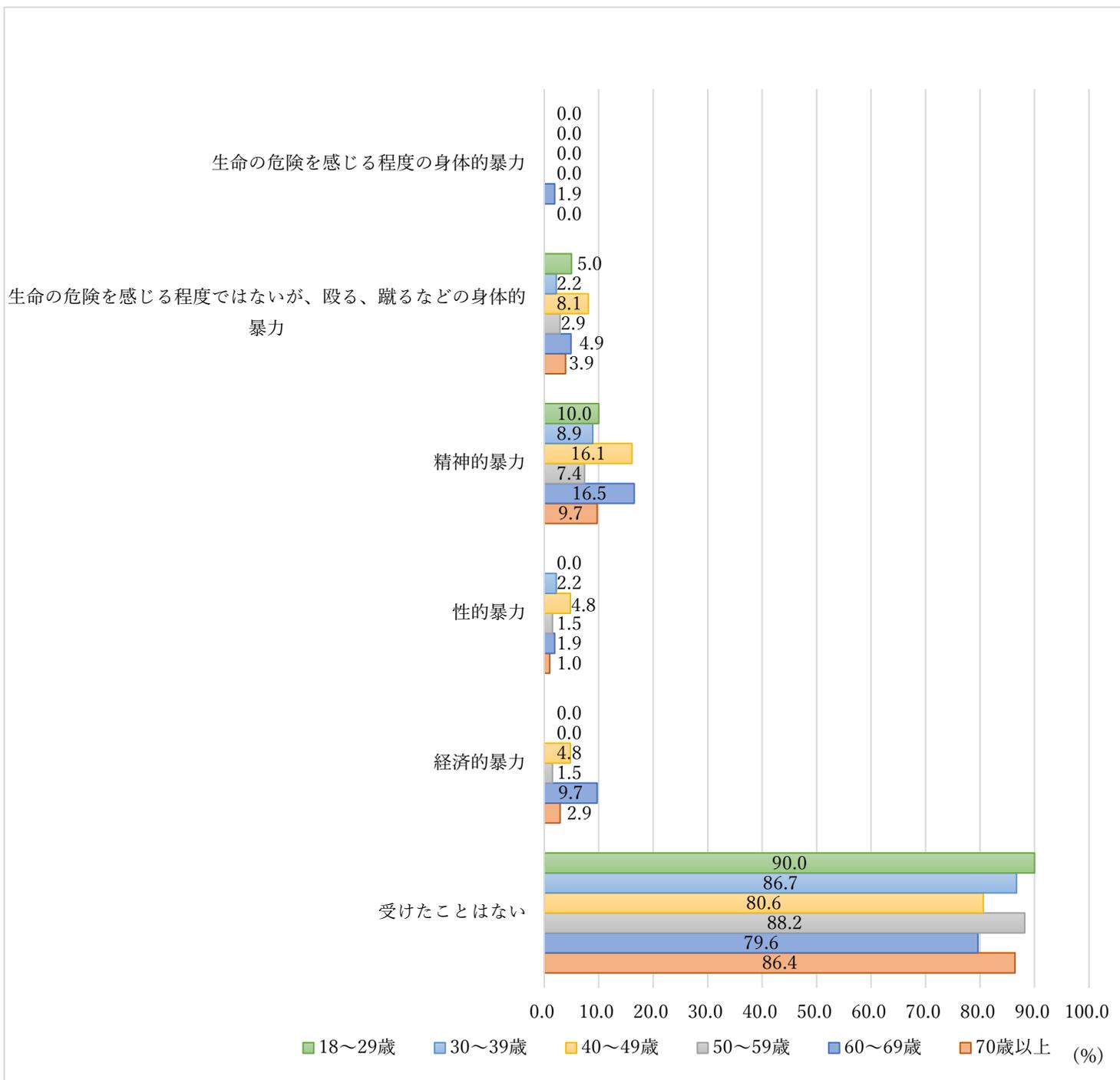


“男性”は、およそ9割、“女性”ではおよそ8割の方がDVを「受けたことはない」と回答しています。

DVを受けたとの回答で最も多いのは、“男性”は、「精神的暴力」(7.2%)、次いで「経済的暴力」(2.1%)となっています。

“女性”は、「精神的暴力」(16.4%)が最も高く、次いで「生命の危険を感じる程度ではないが、殴る、蹴るなどの身体的暴力」(7.2%)の順で高くなっています。

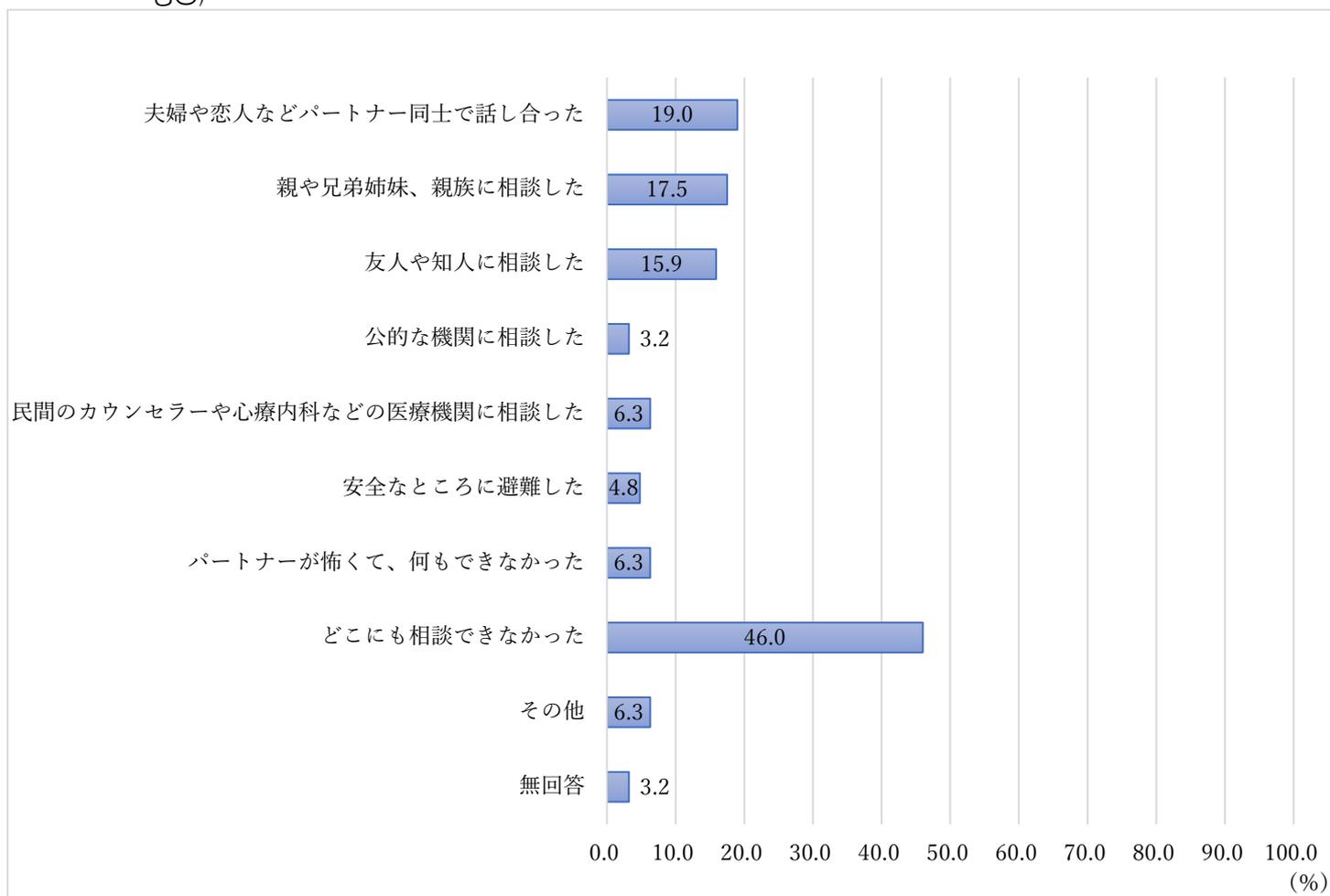
② 年齢



年齢別で見るとすべての年代で DV を「受けたことはない」と回答した方が最も多くなっています。

DV を受けたとの回答で最も多いのは、すべての年代で「精神的暴力」となっています。

問 17-2 過去にDVを受けたことがある方(問 17-1 で「6.受けたことはない」以外を選択した方)にお伺いします。DVの被害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(いくつでも○)



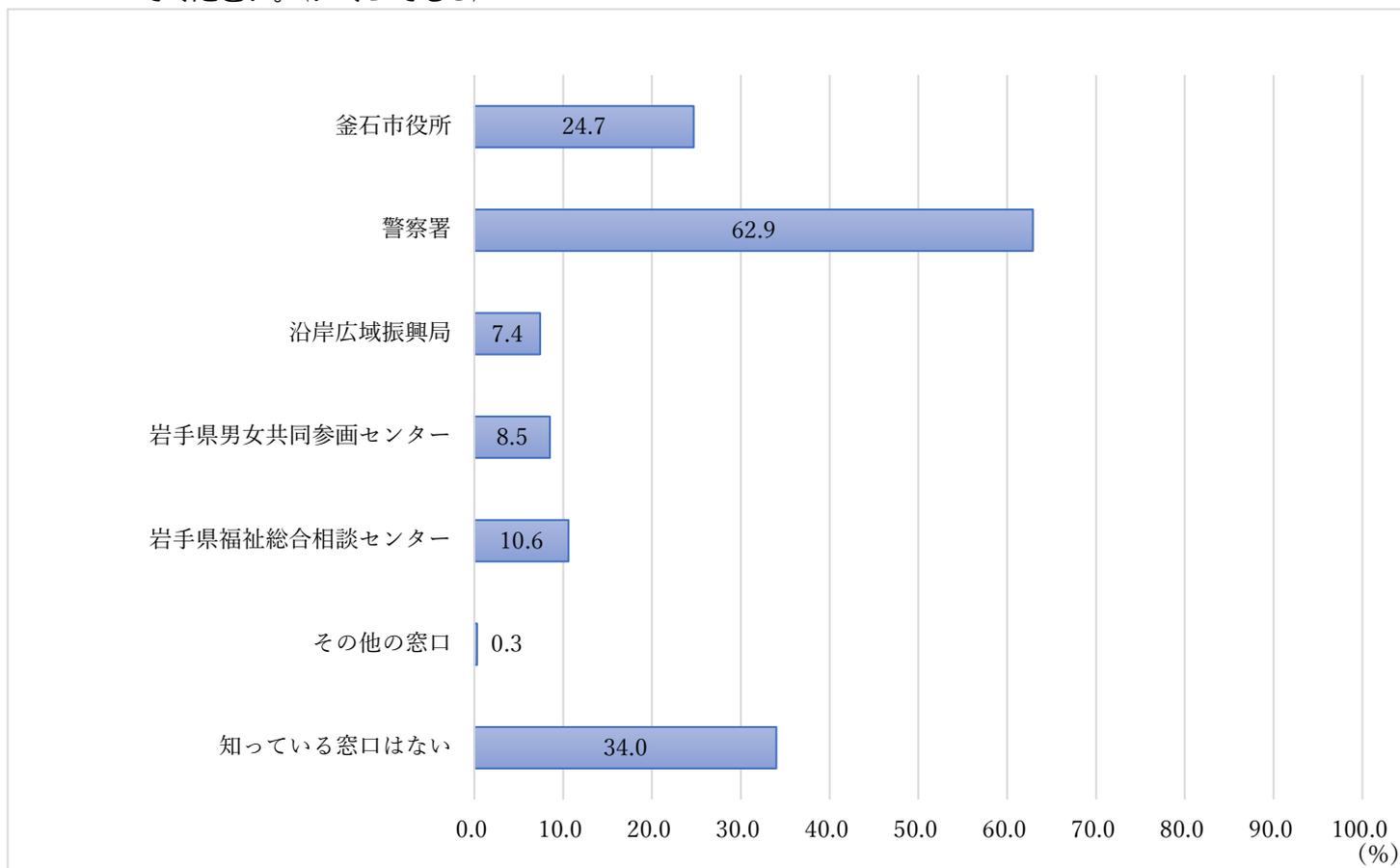
DVの被害を受けたときどうしたかについて最も多いのは「どこにも相談できなかった」(46.0%)となっており、次いで「夫婦や恋人などパートナー同士で話し合った」(19.0%)、「親や兄弟姉妹、親族に相談した」(17.5%)の順で多くなっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 夫婦や恋人などパートナー同士で話し合った	12	19.0
2 親や兄弟姉妹、親族に相談した	11	17.5
3 友人や知人に相談した	10	15.9
4 公的な機関に相談した	2	3.2
5 民間のカウンセラーや心療内科などの医療機関に相談した	4	6.3
6 安全なところに避難した	3	4.8
7 パートナーが怖くて、何もできなかった	4	6.3
8 どこにも相談できなかった	29	46.0
9 その他	4	6.3
無回答	2	3.2
有効票数	63	100.0

【その他】

- ・己の脳と行動でクリア
- ・大声で怒鳴り返した。
- ・やり返した。

問 18 配偶者や恋人、パートナーからの暴力、いわゆるドメスティック・バイオレンスを受けた際、相談できる窓口があることを知っていますか。次の中から知っているものを選んでください。(いくつでも○)



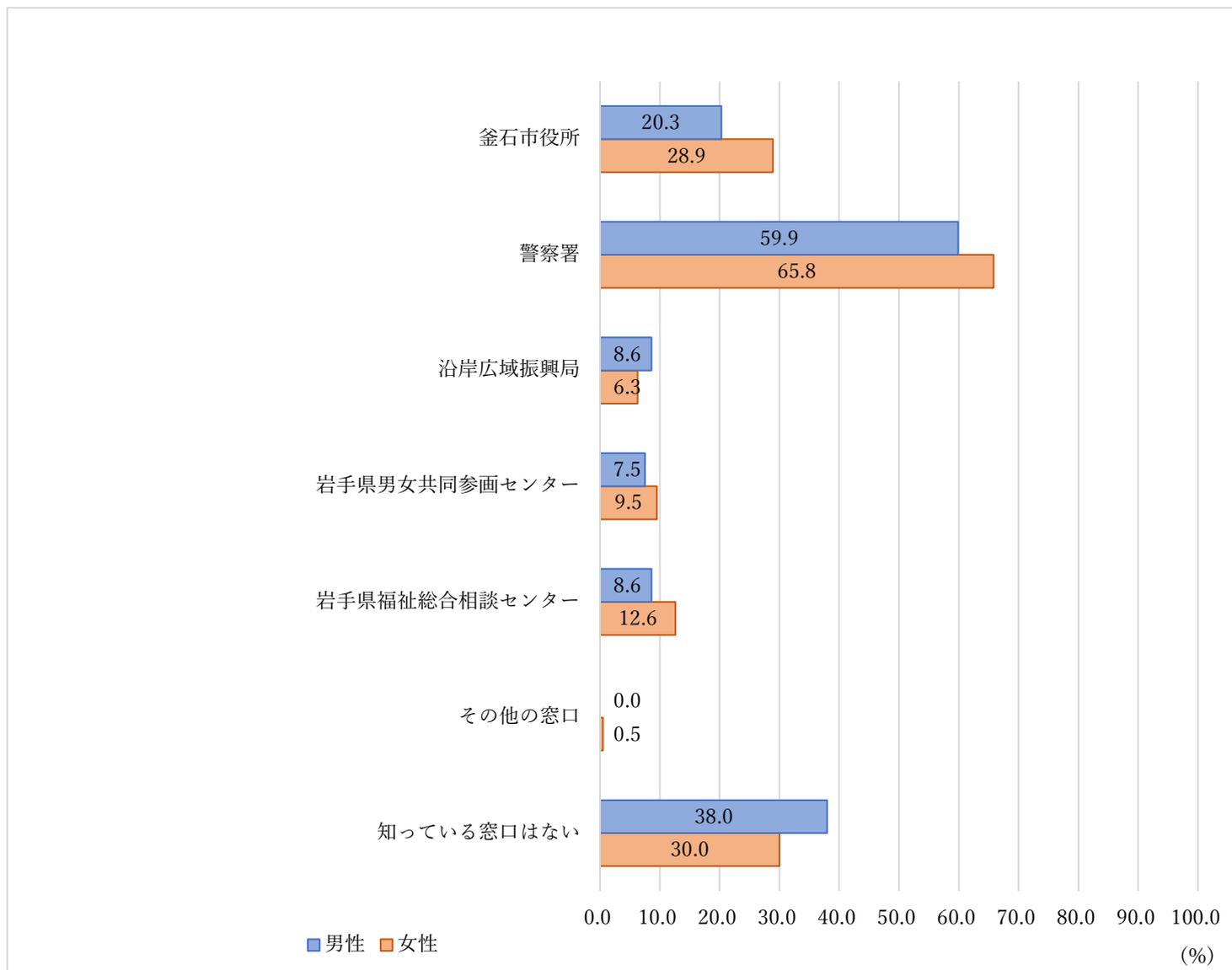
ドメスティック・バイオレンスを受けた際、相談できる窓口があることを知っているか、については、最も多いのは「警察署」(62.9%)となっており、次いで「知っている窓口はない」(34.0%)、「釜石市役所」(24.7%)の順で多くとなっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 釜石市役所	93	24.7
2 警察署	237	62.9
3 沿岸広域振興局	28	7.4
4 岩手県男女共同参画センター	32	8.5
5 岩手県保健福祉総合センター	40	10.6
6 その他の窓口	1	0.3
有効票	377	100.0

【その他】

・記入なし。

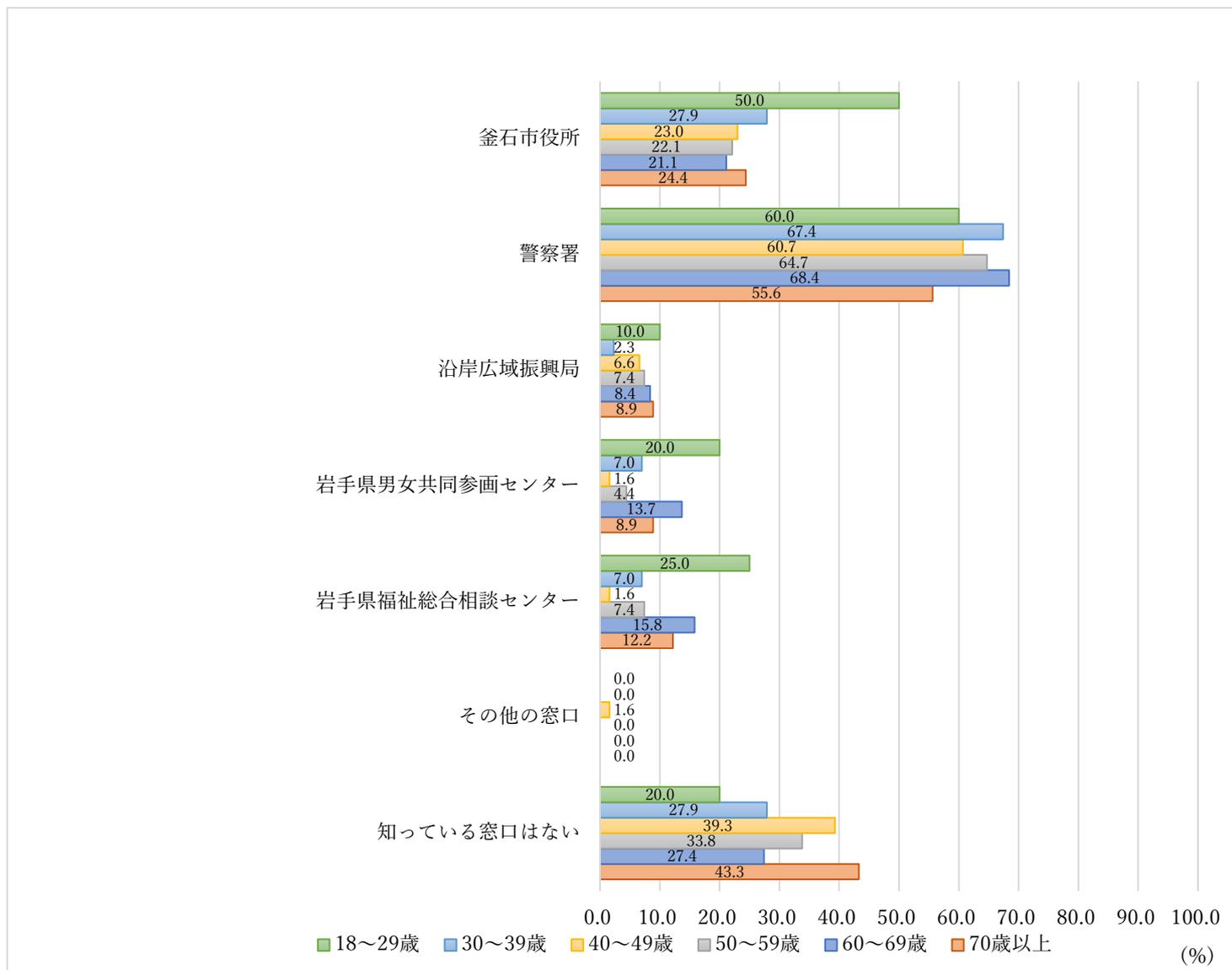
① 性別



男女ともに「警察署」が最も高く、次いで「知っている窓口はない」、「釜石市役所」の順となっています。

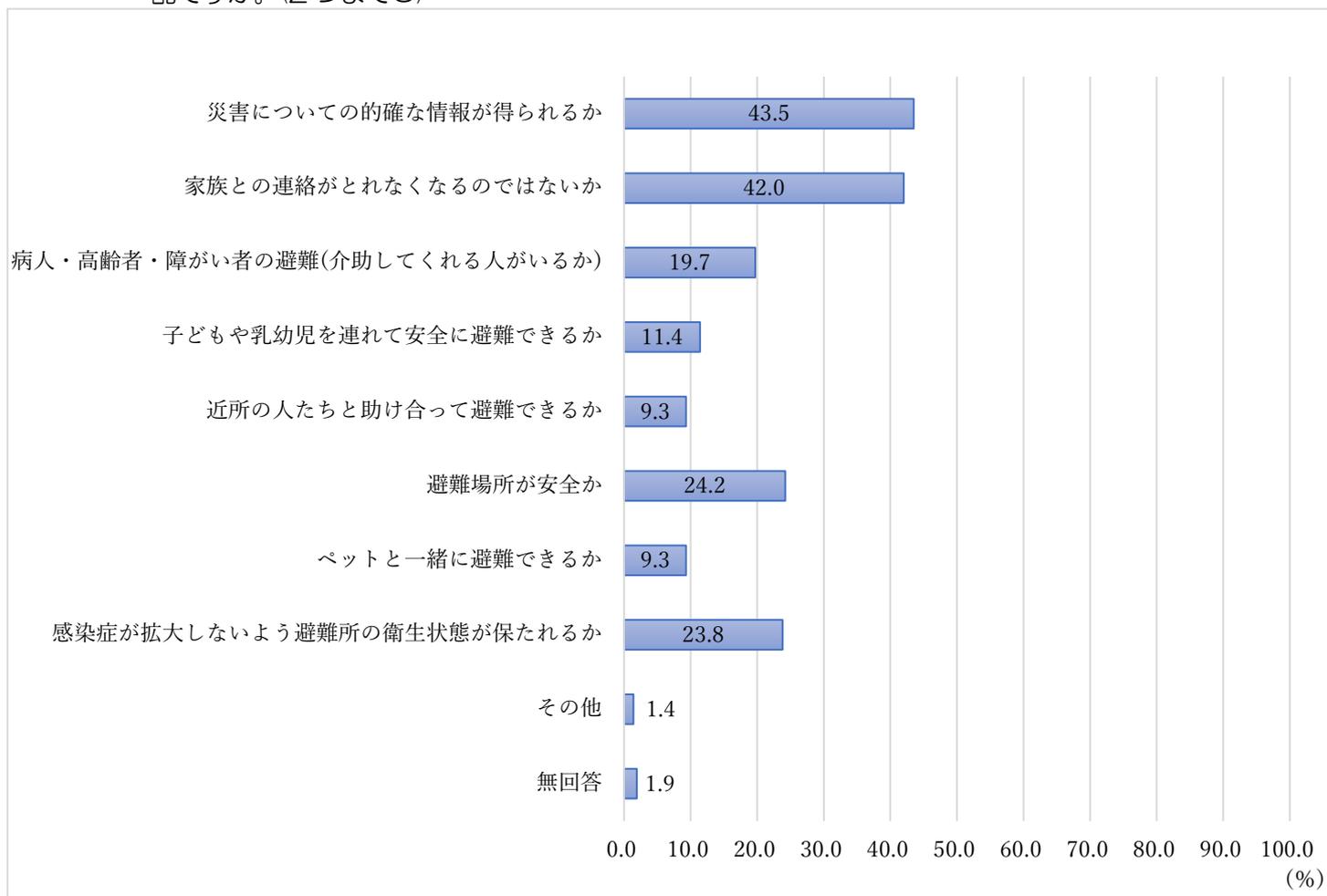
知っている相談窓口については、「沿岸広域振興局」を除くすべての相談窓口で“男性”よりも“女性”の方が知っていると回答した方の割合が高くなっています。

② 年齢



年齢別でみるとすべての年代で「警察署」と回答した方が最も多くなっています。次いで多いのは、“18~29歳”は、「釜石市役所」、「30~39歳」では「釜石市役所」と「知っている窓口はない」が同数となっていますが、40歳以上はすべての年代で「知っている窓口はない」となっています。

問 19 もし今、災害が発生して避難が必要になったときに、あなたはどのようなことが心配ですか。(2つまで〇)



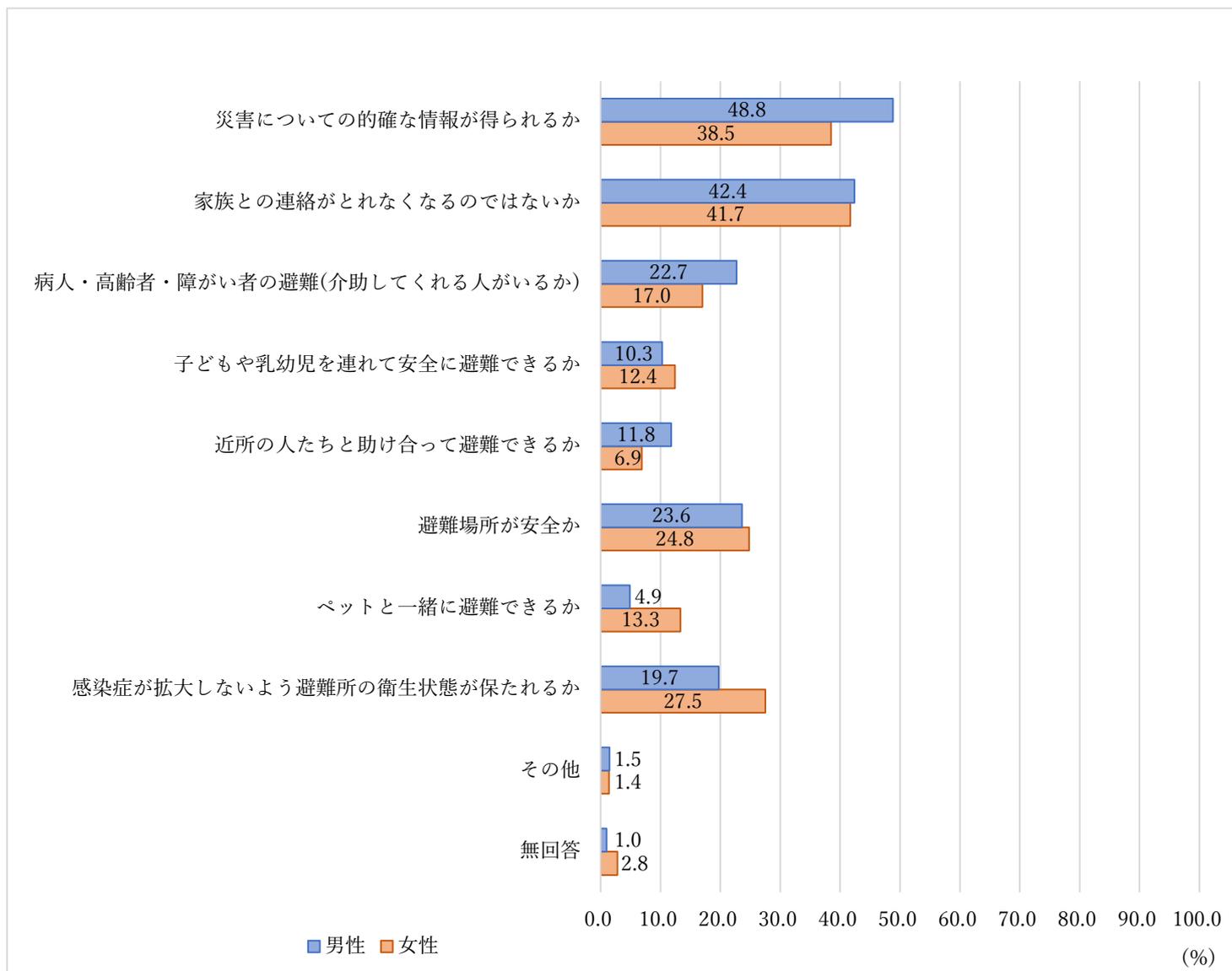
災害が発生して避難が必要になったときに、どのようなことが心配かについて、最も多いのは、「災害についての的確な情報が得られるか」(43.5%)となっており、次いで「家族と連絡がとれなくなるのではないかと」(42.0%)、「避難所は安全か」(24.2%)となっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 災害についての的確な情報が得られるか	183	43.5
2 家族との連絡がとれなくなるのではないか	177	42.0
3 病人・高齢者・障がい者の避難(介助してくれる人がいるか)	83	19.7
4 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか	48	11.4
5 近所の人たちと助け合って避難できるか	39	9.3
6 避難場所が安全か	102	24.2
7 ペットと一緒に避難できるか	39	9.3
8 感染症が拡大しないよう避難所の衛生状態が保たれるか	100	23.8
9 その他	6	1.4
無回答	8	1.9
有効票数	421	100.0

【その他】

- ・私は家族のそばにいることより職場に向かわなければならないという気持ちで家族を優先できないこと。
- ・全て心配です。
- ・避難場所が遠い。
- ・災害後の必要物資が備蓄されているか。
- ・水、食料、生理用品、紙おむつ

① 性別

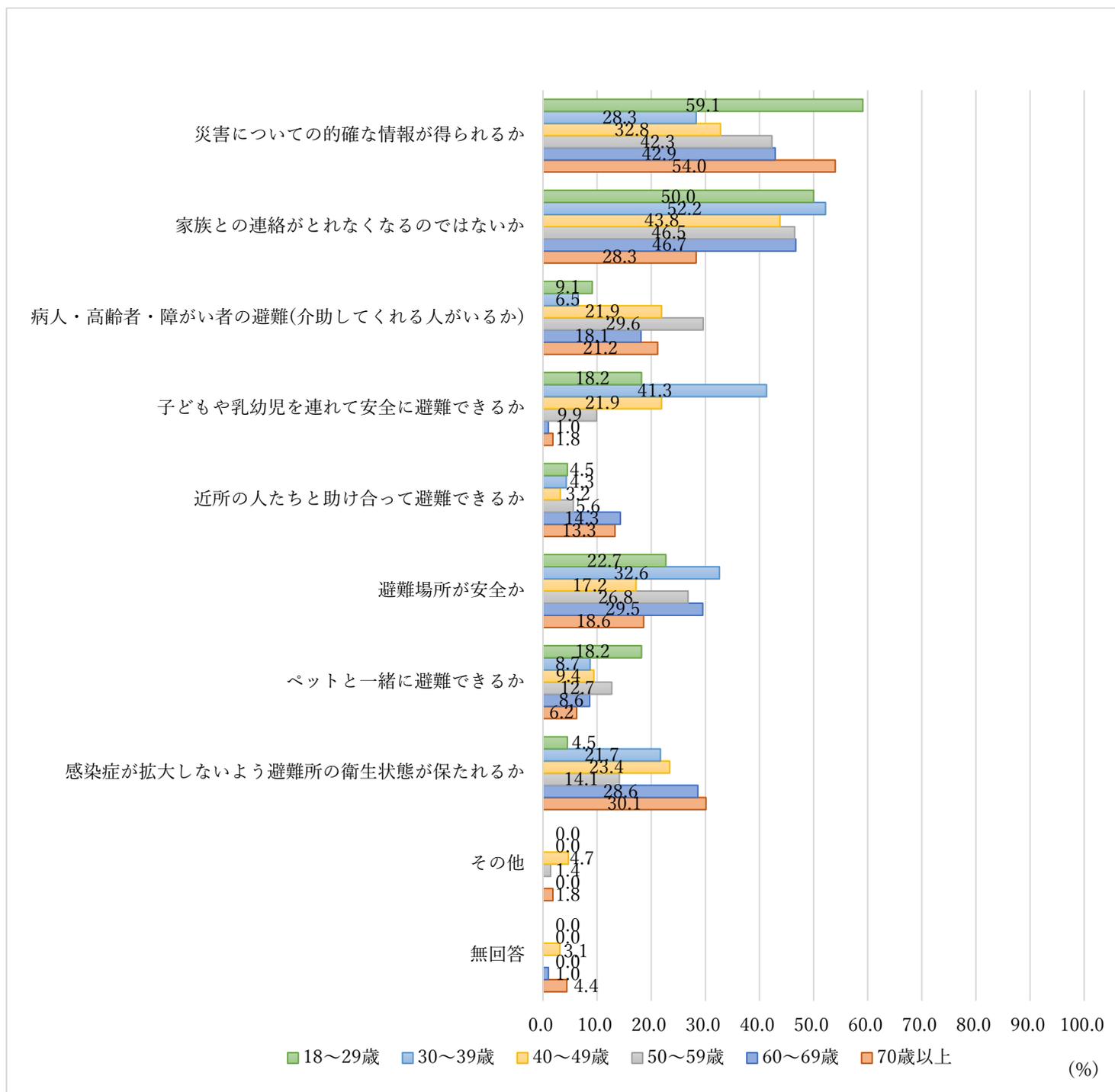


性別で見ると“男性”で最も多いのは「災害についての的確な情報が得られるか」(48.8%)となっており、次いで「家族との連絡がとれなくなるのではないか」(42.4%)、「避難場所が安全か」(23.6%)となっています。

“女性”で最も多いのは、「家族との連絡がとれなくなるのではないか」(41.7%)となっており、次いで「災害についての的確な情報が得られるか」(38.5%)、「感染症が拡大しないよう避難所の衛生状態が保たれるか」(27.5%)となっています。

災害が発生し、避難が必要になったときの心配事については、男女間で意識の違いがあることがわかります。

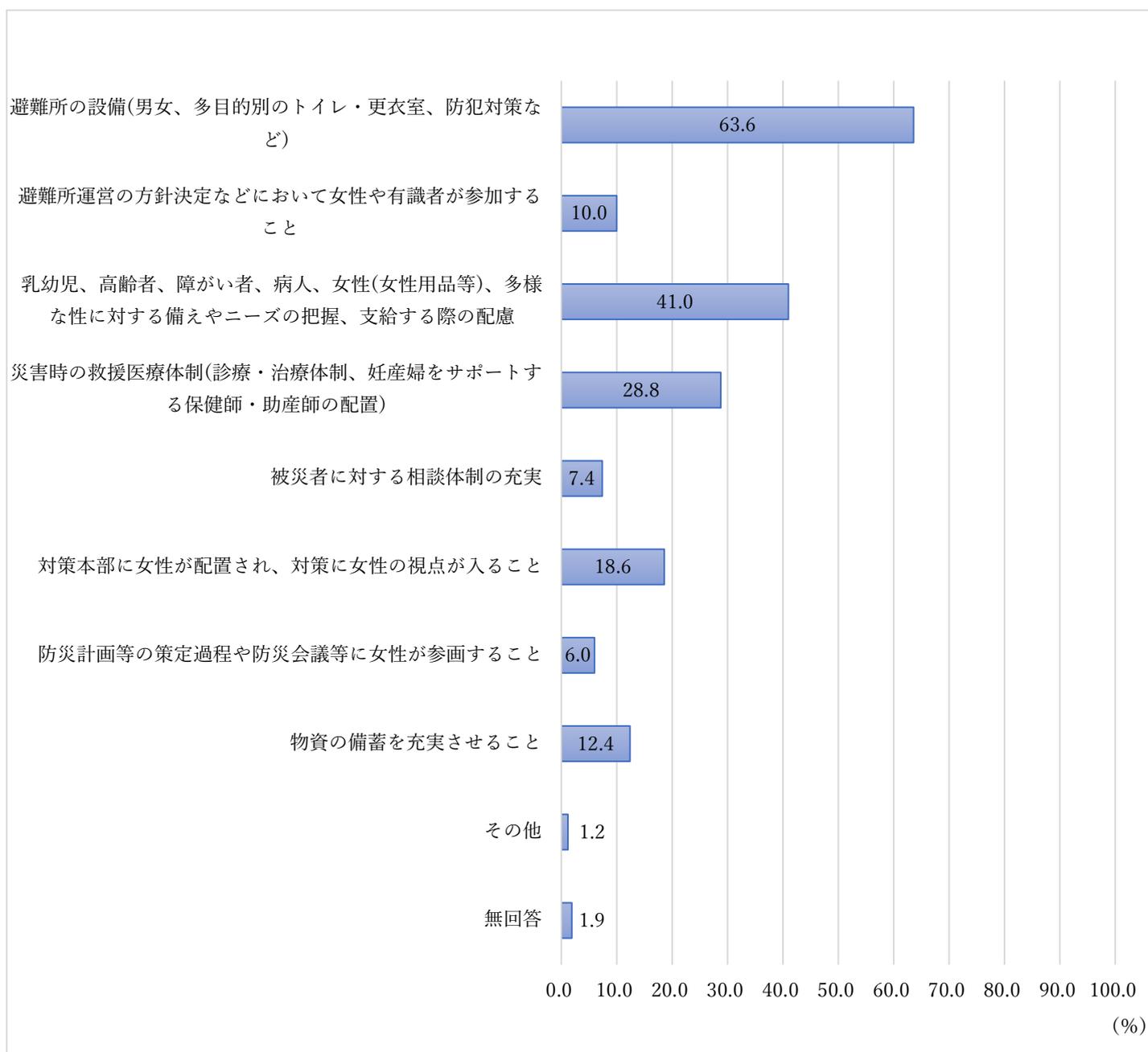
② 年齢



年代別で見ると最も多い回答は、「18～29歳」、「70歳以上」は、「災害についての的確な情報が得られるか」となっており、その他の年代では、「家族との連絡がとれなくなるのではないか」となっています。

「30～39歳」の小さな子どもを持つ年代では、「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか」と回答した方の割合が高くなっています。

問 20 地域の防災で、性別の視点に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。
(2 つまで)



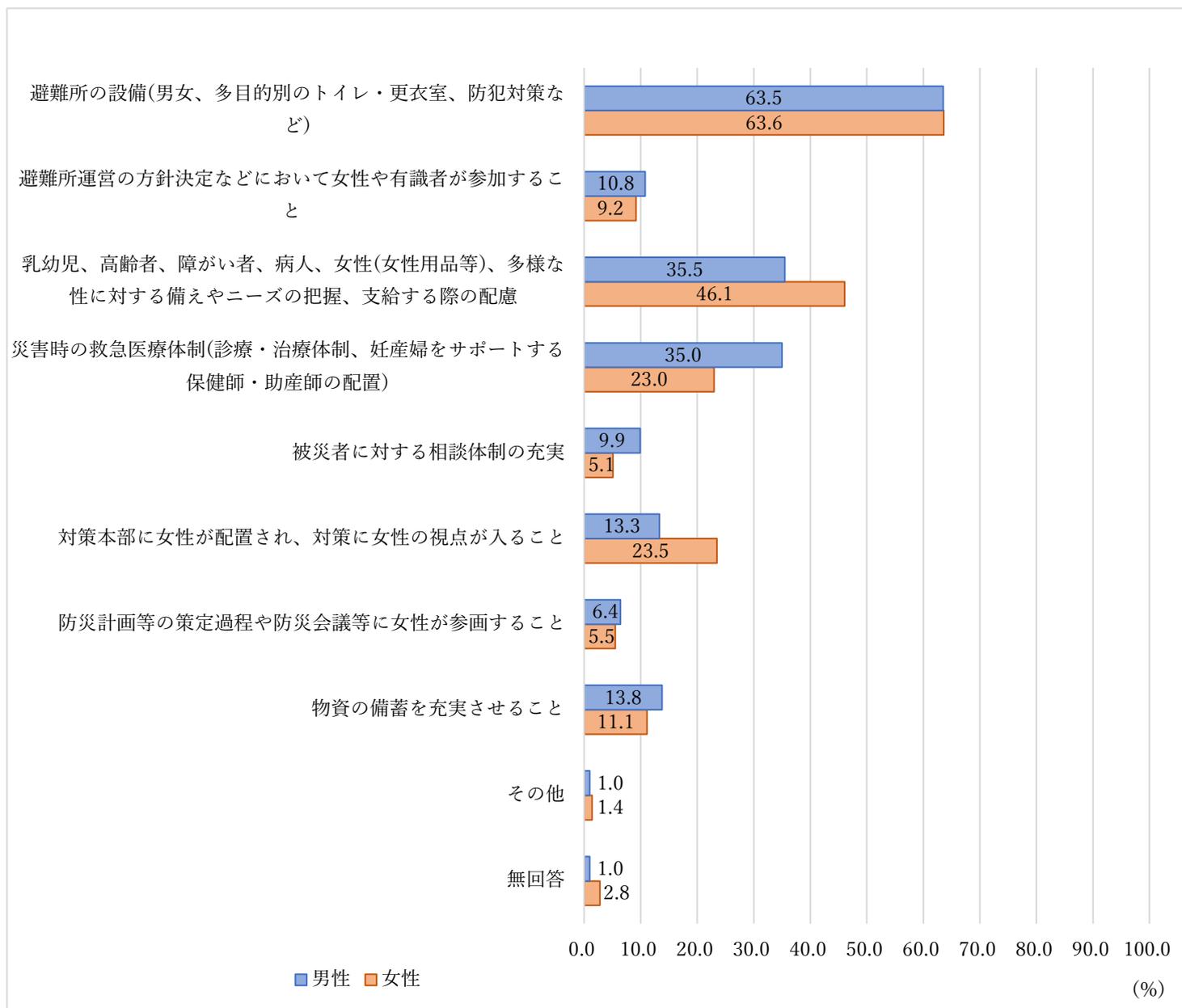
地域の防災で、性別の視点に配慮して取り組む必要があると思うことについて最も多いのは、「避難所の設備(男女、多目的別のトイレ・更衣室、防犯対策など)」(63.6%)となっており、次いで「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品等)、多様な性に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」(41.0%)、「災害時の救援医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)(28.8%)となっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 避難所の設備(男女、多目的別のトイレ・更衣室、防犯対策など)	267	63.6
2 避難所運営の方針決定などにおいて女性や有識者が参加すること	42	10.0
3 乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品等)、多様な性に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	172	41.0
4 災害時の救援医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)	121	28.8
5 被災者に対する相談体制の充実	31	7.4
6 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	78	18.6
7 防災計画等の策定過程や防災会議等に女性が参画すること	25	6.0
8 物資の備蓄を充実させること	52	12.4
9 その他	5	1.2
無回答	8	1.9
有効票数	420	100.0

【その他】

- 各地域における避難場所への訓練とその地域の町内会長等の防災避難方法、救急法の訓練等の知識・学習が必要。(3.11の教訓を忘れないこと)
- すべて必要。
- 津波てんでっこと言いますが、近所、お互いに声をかけ合って協力し合うも大事だと思います。
- 役所の人がどこでやるのか。何をくばるのか？充実しても困っている人が何人いてどのような体の具合人々なのか、何が1番必要かはあくする事。もらう人は決まって同じ人でどこから知ることか？3.11で人間の性格というより人間のイヤラシさ。あさましさ。

① 性別

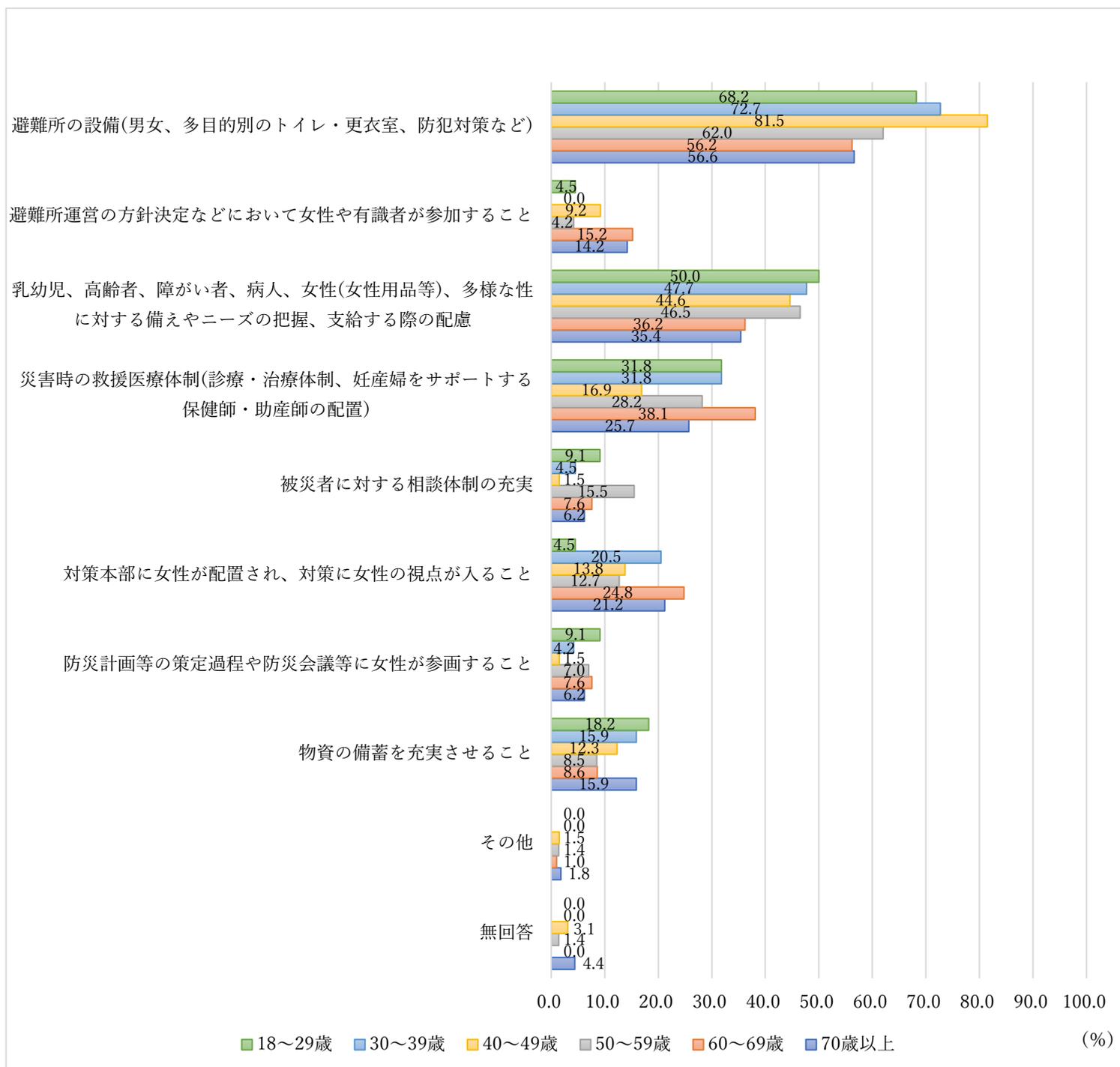


男女ともに最も多い回答は、「避難所の設備(男女、多目的別のトイレ・更衣室、防犯対策など)」となっており、6割以上を占めています。

次いで多いのは、“男性”は、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品等)、多様な性に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」、「災害時の救急医療体制(診療・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)」の順となっています。

“女性”は、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品等)、多様な性に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」、「対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」の順となっています。

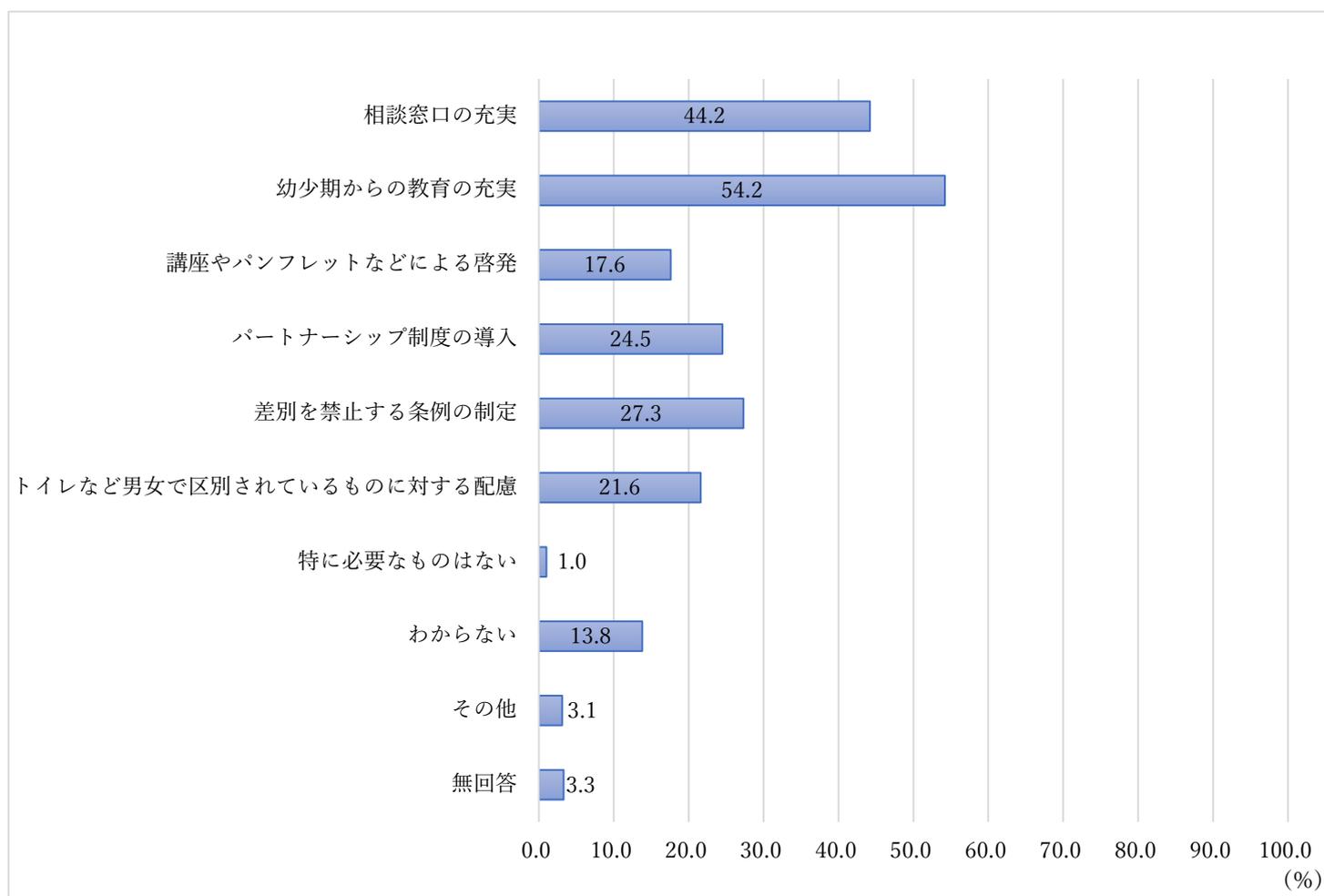
② 年齢



年代別にみると最も多い回答は、全ての年代で「避難所の設備(男女、多目的別のトイレ・更衣室、防犯対策など)」となっており、半数以上を占めています。

若い年代では、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品等)、多様な性に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」と回答した方が多く、“18~29歳”、“30~39歳”、“40~49歳”、“50~59歳”の年代で4割以上を占めています。

問 21 LGBT などの性的少数者の人たちが暮らしやすい社会にするため、どのような施策が必要だと思いますか。(3 つまで)



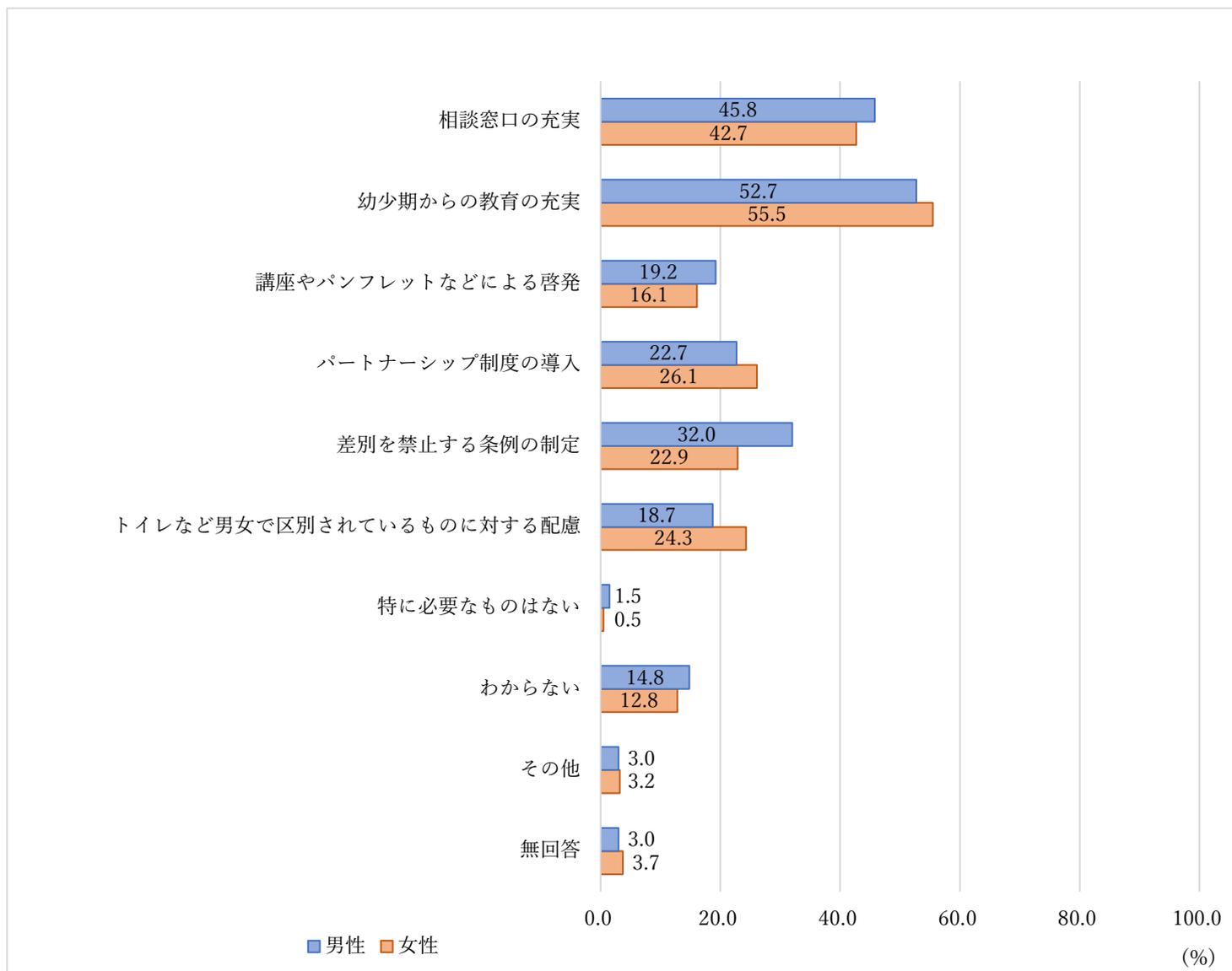
性的少数者の人たちが暮らしやすい社会にするために、必要な施策について最も多いのは、「幼少期からの教育の充実」(54.2%)となっており、次いで「相談窓口の充実」(44.2%)、「差別を禁止する条例の制定」(27.3%)となっています。

選択肢	回答者数(人)	回答比率(%)
1 相談窓口の充実	186	44.2
2 幼少期からの教育の充実	228	54.2
3 講座やパンフレットなどによる啓発	74	17.6
4 パートナーシップ制度の導入	103	24.5
5 差別を禁止する条例の制定	115	27.3
6 トイレなど男女で区別されているものに対する配慮	91	21.6
7 特に必要なものはない	4	1.0
8 わからない	58	13.8
9 その他	13	3.1
無回答	14	3.3
有効票数	421	100.0

【その他】

- 本人たちが対応すればいい。
- 国会でも話しが出ているが、LGBT 浸透が薄い。
- 社会全体としての理解。
- そういった人への理解。
- LGBT を個性として認める事が習慣になるようにする。
- 人間の価値観は一様ではないという事を理解できないと解決は難しい。
- 高齢者の無理解、配りよのない発言がある限りなかなかむずかしいと思います。
- 一般の人たちに多くに知ってもらうこと。それが当たり前になるように取り組むこと。
- 市民への啓発。
- 法律の見直し、改定。
- LGBT は人間です！
- 行政として最善を尽くし対処して行く事が大切なのではないのでしょうか。

① 性別

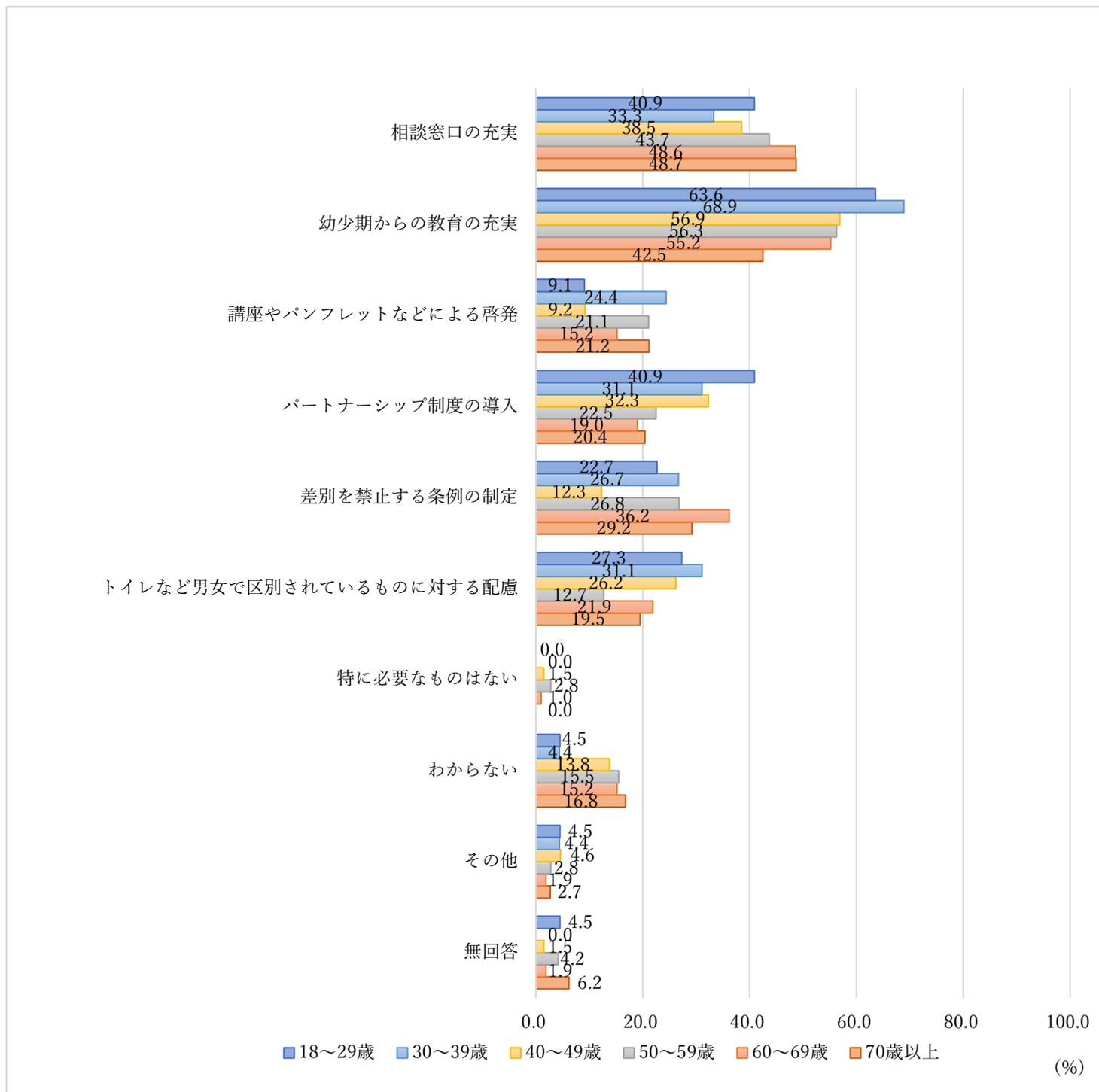


男女ともに最も多い回答は、「幼少期からの教育の充実」となっており、半数以上を占めています。

次いで多いのは、“男性”は、「相談窓口の充実」、「差別を禁止する条例の制定」の順となっています。

“女性”は、「相談窓口の充実」、「パートナーシップ制度の導入」の順となっています。

② 年代



年代別にみると最も多い回答は、“70 歳以上”では、「相談窓口の充実」となっており、その他の年代では、「幼少期からの教育の充実」となっています。

“18~29 歳”の若い年代では、「パートナーシップ制度の導入」と回答した方の割合が高く 4割を超えています。

男女共同参画について日頃お感じになっていることや、取り入れてほしい施策などありましたらご自由にお書きください。

- まずタイトルの男女共同参画ですが日本の社会では女性を積極的にいろいろな部門に参加させていないと言う意味でこのタイトルを設定していることに疑問を感じます。日本はそんな国でしょうか。古から強く生きてこられた女性が沢山おられたことも歴史的事実です。いろいろな言葉による抽象による一喜一憂しないで我々の国を誇りに思い、もっと堂々と生きませんか。(70歳以上・男性)
- このアンケートに、なんの意味が有るかわかりません。ムダな金を使うな。(50歳代・男性)
- 関係ないかもしれませんが、自分自身、今現在、身内がガンになり、励ますため身内と共に坊主になりました。坊主になりわかった事、女性用トイレに入った際必ず白い目で見られること。実際、「ここ女性用トイレですけど」と声を掛けられた事がありました。(年配の方)まだまだ「偏見がある世の中だな」と感じました。(30歳代・女性)
- 男女共同参画と言いながら、「私は女性だから・・・」と言う甘えた発言はしてほしくない。共同を言うなら、男性と同等の仕事を行ってこそ初めて共同参画だと思います。責任有る仕事をしっかり行ってこそその「共同」と認識してほしい。(60歳代・女性)
- 妻が育児休業を取得し、所得が減少しているが、各種税金の支払いが据え置きのももあり、負担となっているため、税金の免除又は軽減が望まれる。(18歳～29歳・男性)
- 民生委員はどう状態で決めているのか?私の地区の民生委員の方は全然何もしないし、一人ぐらしの老人が相談にのってほしいと言っても全くだめだと言っていました。(近所の人達皆が困っています。)教育委員とか選挙管理委員もどういう形で選ばれている知りたいです。(60歳代・女性)
- 年よりです。昔の人はどうだったのか。今何で男、女と言うのか。女でも人間としてちょっと考える人もいるし、男でも上から目線で物言う人もいる。人間対人間の問題だし、自分1人で生きる力を昔の人は持って生きてきた!!やさしい心、思いやる心、どうして、何で、と自分の心に聞く。出来ない事は助けてもらおう。男だから女だからじゃない。人間だ!(70歳以上・女性)
- 色々な考えや思想があり、それが一方的なものではなく、理解しようとする、社会であってほしいと思います。押し付けではなく、理解・協力・認める・わかってあげるということだけではなく相手の意を組み取ること。もし自分が相手・その人の立場だったらと、考えることが出来る社会。(30歳代・男性)
- 男女平等な社会になればいいと思います。(50歳代・男性)

- 私の職場は、女性の割合が多いですが、男性にはない発想があり、業務に活かされることが多いです。「参画」というと少し重みがありますが、女性が発言しやすい環境づくりをして、男女それぞれの考えをぶつけ合うことが望ましいと思いますし、計画等を作成する際は、いい案が出やすいと実感しています。(50 歳代・男性)
- 釜石市は相談できる窓口がないし、信頼できない気がする。(60 歳代・女性)
- 市内公務員の闇あり(元市職員。消防署員)(50 歳代・男性)
- 増々住みやすい地域になる様に協力したい。(70 歳以上・男性)
- 男性、女性だけでなく、一人の人間として家庭や社会において尊重される男女共同参画であって欲しいです。(60 歳代・女性)
- 個の尊重(十人十色)を拡大して行ってください。考えも、身体も。(70 歳以上・女性)
- 変動の激しい社会の中で、市民のことを日々考え、大小色々なことに取り組んでくださり、ありがとうございます。個人としては“何でもあり”の風潮は好みませんが、互いに理解し合い、足りないものを補い合いながら、この難しい時代を少しでもあたたかく、強く生きていきたいと思っています。コロナもまだまだ収息しませんがどうぞお体大切にお仕事がんばって下さい。貴重な働きに感謝をこめて。(30 歳代・女性)
- 人口減少と出生率の低下が最大の問題。課題解決の 1 コの視点として男女共同参画社会の実現が必要、子どもの産み、育てたくなるような社会環境(特に女性の働き方、養育費用、教育費用の軽減につながるような)施策、(国)に期待。日本が減びます。(50 歳代・男性)
- 女性が出来ること、男性が出来ることを見ながら、それぞれを尊重していく姿勢を大切にしていけるべきである。(60 歳代・男性)
- 頭では理解しており、どんどん共同参画をすすめて欲しいと思います。但し、身近なところであると、戸惑うかもしれません。理解には努めますが、LGBT についてもです。歳だからでしょうか。個人的には、妻が要介護 2 なので家事全般・仕事全般ひとりでこなしています。こわれない程度に。今の感覚では、男女ではなく“ひとりの人間として”って感じます。(50 歳代・男性)
- 男女共同参画等広報かまいしでもっと取り上げてほしい。(60 歳代・男性)
- 「男女」と表現することが男性優位を表している印象です、「女男」とはならないので。男性でも女性でも「人として」持っている視点や能力を活かして活動すればいいだけで男性ならでは、女性ならではを「共同」ということばで併せていこうとすることに異和感があります。その他様々な方面から学べる今、まだこんなことをやっているのか、と評価されないことを祈ります。まずはペーパーレスアンケートから、投函も意外とめんどります。(40 歳代・女性)
- 子供達の心も忘れないでほしい。(70 歳以上・男性)

- 男女平等についてのみ視点、問題意識が偏っていると感じている。出産や乳児期の子供への対応など女性にしかできない(女性の方が適応力に勝る)こととあり決して平等にはならない面もある。少子化は日本人が末長く繁栄していくためにクリアしなければならない。何もかにも平等ではなく、それぞれの役割りを互いに尊重してサポートし合う社会をつくり出していくことが必要と考えます。(50歳代・男性)
- この様なアンケートが不要な社会になることを願っています。(60歳代・男性)
- 女性に注意するとそれがハラスメントだと言われ、上司に注意される。男女平等は正直意味がわからない。今の世の中ハラスメントに何でもかんでもなり女性有利になってるんじゃないかと思う。すべてではないが女性にも働らくという事の意識改革も必要なのではないか?(30歳代・男性)
- 65歳以上の夫婦暮らしで収入は2ヶ月に1回の年金、地域の方は仕事(海の仕事)。21年前に半身不随。2年前まで養殖漁業をしていた。歩行困難となり、家の中だけの生活。10年前に相次いで両親を亡くし、今だに相続代理人で生活できない。税金も支払えない。相続人になれば立木を売ることもできる。(70歳以上・男性)
- 今は男主体の世中であるから、男性の理解を得るのは無理。女性が主体的に変え様と思わなければ前進はしない。女性が声を上げる事が必要であり、それをサポートするのが男性でありたい。(60歳代・男性)
- 釜石市の人口は毎月のように減っていく状況です。超少子高齢化が進む釜石市内で働き世代が働くためには育児休暇制度を男女ともに推進していくだけではなく、介護休暇制度を男女ともとれるようにすることや、休暇まででなくても育児や介護中の方が働きやすい職場環境(時間の融通がきく)作りを推し進めること、そのような企業・会社が釜石市に支店や支所をおけるよう、市への誘致活動を進めて頂きたいです。
(18歳~29歳・女性)
- 釜石市役所はいまだに女性にお茶汲みをさせていると聞きましたが本当ですか?本当ならそこから変えていかなければならないと思います。(50歳代・女性)
- アンケートが稚拙。決め付けを感じます。いつまで女性は弱者で働きにくいと性別で分けたがるのか?とっくに個人のスキルと努力でのし上がれる時代になっているのでは?このアンケートの内容が時代遅れでステレオタイプ。とても残念です。(60歳代・男性)
- 職場などでの意識改革。(40歳代・女性)
- 私は年令も重ねてきていますので、男女共同参画などの言葉も最近になって知るようになり内容などはあまりはつきり分かりませんが、市町村の特徴もそれぞれ違いがあるとおもいますので、釜石市の特徴を踏まえた上での問題点や良い所をとらえて人数も男女同数で施策を考えていったらいいのではないのでしょうか。避難所の設備が整ってない(例えばトイレが和式)のままの所は改善してほしいです。(70歳以上・女性)
- 残り少ない余生なので今さら関心が有りません。(70歳以上・男性)

- 様々な、話題が取り上げられていますが確かに孫達のこれからの社会に出たら、安心して生活して行けるか、どうか心配です。身近な本当に問題だと思えます。これからの社会生活は、たいへんな事がありすぎる出来事が、と考えています。安心してられません!
(60 歳代・女性)
- 結婚の際、どちらの名字になるか対立した時、やんわりと「女性の方が名字を変えるのが普通」という考えでもって説得されることが不快。このことについて、男女平等ではない。
(30 歳代・女性)
- 男や女と性差に関係なく互いに人として尊重しあえる社会を作りたい。釜石は意識の低い人がとても多い。(40 歳代・女性)
- 逆差別などにならないように女性だけでなく男性にも配リョしてあげて下さい。
(40 歳代・男性)
- 女性の委員なども同じような人ばかり選ばれている。このアンケートのように声なき声も可能な限り取り上げてほしい。男女共同参画同様、子供や高齢者への虐待、ヤングケアラー対策などにももっと目を向けてほしい。DVについても男性から女性へというのが多いとは思いますが、逆の場合も決して少なくはないと思うし、深刻な例も多いのではないかと思う。(60 歳代・男性)
- 男女共同参画社会については、女性への取り組みは進んでいると思う。ex 育休、時短勤務など。逆にそういったものが、男性には足りたのかな(まわりの理解が乏しいのかな?)と感ずることが多々ある。(30 歳代・男性)
- 特にないと言うか、今の頭の堅い大人達というか、60代70代の人達のなかではずいぶん話がかみ合わないの、若い世代の方が頑張って欲しいかな?今を生きる人達を応援したい!!(40 歳代・女性)
- 日頃感ずる事がなかったので、今回のアンケートをきっかけに理解を深める事ができたらと思います。(40 歳代・男性)
- 男性側が定年・病気だったり、コロナの影響もあるのですが、「女性は外で仕事、主な家事担当は男性」という家族も増えてきているように思いますし、「それもアリ」という風潮になってきているのは良いことだと感じています。「“職業的”社会」だけでなく、「地域」さらに細かい「家庭」でも、その人の向き・不向きをふまえながらの「なるべく平等社会」に向かって行ってほしいと思います。(50 歳代・女性)
- 何でもかんでも比率を同じにしたらうまくいくかというと思う。「男だから」「女だから」という差別の元になるのはダメだと思うが、肉体的な性差というものはあるので、そこを押してまで平等にしなきゃ、してあげようという考え方自体に違和感を覚えます。幅広い選択肢の中から選べる受け皿があれば…と思います。(40 歳代・女性)

- 子どもを安心して育てられる社会になってほしい。職場の理解が十分ではない。制度を作るだけでは、働く母親の負担が大きすぎる。色々な働き方ができるようになってほしい。子どもが小学校に入ると使えなくなる制度が多すぎる。制度の適用範囲を広げてほしい。小1の壁が大きすぎる。(30歳代・女性)
- 年が70代になり、聞いた事があっても内容がわからない事が多かった……。今まで、男、女の役割分担で生活してきたようだ……。 (70歳以上・女性)
- 支給金やら届き助かってますが、本当に苦しみながら生きる人の気持ちはどこにも届いていないです。こんなに毎日痛み苦しみながら働いているのに、私の安らぐ時は死ぬ時なんでしょうね。(60歳代・女性)
- 近頃世間で話題になっているから、市でも取り組もうという形のアンケートのように見えます。このアンケートによって何か変わるとは思いません。「相談窓口」とよくありますが、市役所各課窓口の対応が正直丁寧ではないように思います。こういった印象の窓口に行こうとは思いません。まず、そういったところからではないでしょうか?平成31年に策定されていたようですが、正直何も知りませんでした。何を掲げて、何を成し遂げたのか分かるように次は策定願います。(40歳代・女性)
- 今後は対面回答も必要と想う。(机上でのデータだけでは行政にいかせないと想う)(70歳以上・男性)
- 能力面で男女差はない。女性が男性のように社会で活躍できるようにシステムを整えれば、今以上に良い社会になると思う。ただし、子供が小さいうちは母親の存在はとても大きい。子どもを育てている間は女性が家にいて、再び職に戻れるように柔軟なしくみを作るのが有効と思う。(60歳代・男性)
- 女性の起用という言葉は良く聞くが実際は、少ない。各分野で講習会を開き参加者を多めに活用すべきだ。折角知識を得ても活用されない。特に防災士を受講し修了証をもらっても、なんの役にも立たない。自己のみ。もっと地域で活用すべきだ。女性防災士の活用を考えるべきだと思います。(70歳以上・女性)
- 施策等・企画、立案時点で出席、参加者の8割を女性にしてみたら。(70歳以上・男性)
- 日本は、机上の空論にすぎませんか?(60歳代・女性)
- 男女共同参画について、何もわからないので、もっと身近に知れる機会があればいいと思います。(50歳代・男性)
- アンケートを参考に、新たな施策が必要かと。まだまだ、終わらぬ問題なので。(60歳代・女性)
- 必要以上に女性の自立(経済的、職業的)を叫ぶことになりはしないかと思うと、結婚する方々が減少し、少子化に拍車がかかるのではと心配になります。移民の犯罪(生活習慣の違いによる)が心配。(70歳以上・男性)
- 同種の仕事 and 勤続年数が同等であっても男性というだけで、給料等が高く支給される事には不満を感じる。(50歳代・女性)

- 年金で入れる老人施設。(50 歳代・男性)
- 釜石市に転入した時の事、夫が求職中という事もあり、夫婦で話し合いの結果妻である私を世帯主で手続きに行った所、市役所のスタッフさんより夫を世帯主で手続きを行って下さいと説明されました。求職中である事、社員で働く私の方は、世帯主手当てが支給される事等を説明した後かなりの時間を要し、手続きを終えました。転出元の東京であれば説明も手続きもこれ程時間を必要としなかったと思いますが、スタッフさんの地方ならではのというぐちともいえる注告通りしばらく苦勞事がありました。共同参画プラン 2019 という計画理念も市民に行き渡っているという実感が正直皆無です。アンケートの設問についても理解がむずかしい所があります。男女共同参画がどのようなものなのか、市民に行き渡った事を実感できる活動を行って下さる事をきたいしております。
(50 歳代・女性)
- 自身でも男女平等にという意識を持って接しているつもりだが、男だから、女だからという思い、考えが出てくることもある。男性のよさ(力強さなど)、女性のよさ(優しさなど)、性差によるよさをみとめつつ、互いに助けあう、おぎないあう、社会ができればと思っている。〇〇だからという気持ちが出るのは家庭での教育、環境によるところが大きいのではないかと思う。その部分を変えていくのは、教育によるところが大きいのではないかと思う。(60 歳代・男性)
- 男女雇用機会均等法が施行された際、職場で均等に仕事をし、家に帰れば、圧倒的に不均等に女性が働かされ、この上がない程の大きな圧力を受けました。どんなに条令で平等を唱えても、結局は地域や家庭の年寄り、また、その年寄りに育てられた男性がいる限り平等など考えられないと思う訳です。まったく、どうしたらいいんでしょう?我が家はもう年寄りがないので、平等です。(60 歳代・女性)
- 現状では、世代が低くなるほど(教育、保育)男女の差は無いと感じています。一方で、社会(仕事)や介護、子育ての場に直面する、世代が高い環境になるほど男女の差を大きく感じています。これを解決するためには、小さい頃から、将来のこのギャップを変えるための教育が不可欠だと思います。一方で、弱い女性を守るという特別扱いの制度では、本当の平等や共同参画は達成できないと思っています。女性自身も努力し自立することや、男性も生活力をつけるなど、人間としての分けへだてのない教育により、未来が変わっていくことを期待します。(30 歳代・女性)
- だれでも、育児・介護休かがとれ、その後同じ職場にもしっかりもどれる事が必要。
(40 歳代・男性)
- 役職を目指すあたり、女性は出産や育児があることで、役職から遠ざかってしまう。または、時間がかかってしまう。世は収入が増えない。(18~29 歳・女性)

- 男女共同参画に関する集まりに参加するのは、圧倒的に女性が多く、内容も女性の待遇改善や女性優遇になってしまっているように強く感じる。真の男女共同参画を進めてほしい。例えば市役所でよごれ仕事や力仕事は、ほぼ男性職員しかやってないように見える。力仕事だって、小分けすれば女性職員もできるはず。半数程度は女性職員なのだから。(60歳代・男性)
- 町内会の役員体制が男性で構成されています。男性では気づかない事が多々あるし、女性の方が高令者で1人ぐらしが多い現状をみても、現状に合っていません。その点を観ると「昔通り」の考え方です。私は発言していますが・・・。「男性社会」を感じる土台をなしています。(70歳以上・女性)
- すべてにおいて男女が平等な世界とは思っていない。お互い尊敬し理解することで共同といえるのではないのでしょうか。男、女それぞれ出きる事、出きない事へのおもいやりがあってはじめて男女共同参画が推進できると思います。(70歳以上・女性)